

飯 能 市 郷 土 館 館 報

# 郷土館のプロフィール

*Profile 1999-2001*

活動報告書

第3号

平成11年度

平成13年度



飯能市郷土館



Hanno Municipal Museum

# 飯能市郷土館の歩み

飯能市郷土館は、平成12年4月20日をもってまる十年を迎えました。  
これまでの歩みを振り返ってみます。



開館記念特別展

1990  
平成2年

[4月20日]  
開館記念特別展を実施。  
(職員は館長・学芸員・主事補の3人でスタート)  
この年は年に4回特別展を実施しました。



開館記念特別展 国指定重要文化財展 わたしの宮内展	開館時間 午前9時～午後5時 (ただし、入館は午後6時30分まで) 休館日 日曜日、国祝日の休館日(祝日の場合は、この日休館日の場合は、その翌日休館)	〒370-0001 埼玉県飯能市大字郷土館の1階 電話 0428 72-1414
---------------------------------	---	---

飯能市郷土館

開館記念特別展ポスター

1991  
平成3年



「飯能の陶芸家たち」(平成3年度)

7月 郷土館友の会が特別展示室で「飯能の陶芸家たち」を開催。  
郷土館の年間予算額のピーク(2,938万4千円)

6月 開館以来の入館者数が10万人を突破。

1993  
平成5年



ジャパンマイセン展展示風景

3月 『飯能昭和史年表』発行  
4月 開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催  
※この展示で初めて特別展の図録を発行する。  
10月 「ジャパンマイセン -瀬戸の磁器人形-」で1日平均で最も多い205.6人の入館者を記録。  
(開館記念特別展を除く)

この年は年間入館者数のピークでもありました。(39,506人)

7月 職員が4人(館長・学芸員2・主事補)となる。



飯能焼展図録表紙

1994  
平成6年

1995  
平成7年

夏休み子ども歴史教室  
(平成7年度)





Hanno Municipal Museum

# 飯能市郷土館の歩み

1996  
平成8年

- 5月 開館以来の入館者数が20万人を突破。
- 11月 「飯能の刀匠」展で会期中に展示図録が完売する。



定点撮影プロジェクト'98記録会（平成10年度）

1998  
平成10年

- 8月 恒例の「夏休み子ども歴史教室」が「夏休み親子歴史教室」へ。
- 11月 市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。
- 12月 開館以来の入館者数が30万人を突破。

1999  
平成11年

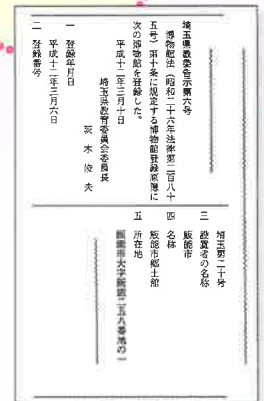


展示風景

- 10月 開館10周年記念特別展「私の宝物」展開催

2000年3月  
登録博物館に！

平成12年3月10日付の  
埼玉県報に掲載



- 1月 第1期市民学芸員養成講座開始
- 3月 博物館登録原簿に登録（博物館法に基づく登録博物館になる）
- 4月 開館してまる10年を迎える。

2000  
平成12年



市民学芸員による展示解説（平成12年度）

2001  
平成13年

- 3月 研究紀要第1号発行
- 5月 郷土館だより「kiki」創刊号発行（自治会に回覧）
- 10月 初の夜間開館（夜9時まで）を実施。



「kiki」創刊号

2003  
平成15年

- 3月 収蔵資料目録I発行

## あいさつ

飯能市郷土館館報（活動報告書）第3号をお届けいたします。

これは、郷土館の活動をその内容だけでなく、事業評価を盛り込みながら記録としてまとめ、自発的な情報公開を目的として発行するものです。本号は、平成11年度から13年度までの3年間を対象としています。この3年間は、運営の基礎を固める時期（開館から10年間）から、充実と発展を目指す時期へ向けて新たな方向性を打ち出していく境目の期間となりました。

開館からの10年間は、年2回の特別展のほか、夏休み子ども歴史教室などの教育普及事業に特に力を入れて活動してまいりました。これまでに発行した展示図録、館報などの図書は全部で18冊を数えます。お陰さまで平成12年3月に本館は博物館法に基づく登録博物館となりました。皆さまのご支援の賜物と思っております。

そして今、市民の皆さんと共に郷土館のあり方を考え、運営を担っていく活動が始まっています。市民学芸員制度や定点撮影プロジェクトがその一例です。これはこれからの行政に期待されている市民参加型の行政運営をいち早く博物館に取り入れたものであります。

今年、飯能市は市制50周年を迎え様々な記念事業が予定されています。そのひとつに、茨城県高萩市との友好都市締結がありますが、両市を結びつける仲立ちとなったのは、飯能出身の武人「中山氏」でした。歴史から新たなまちづくりが始まろうとしている中で、郷土館ではこの秋に「中山氏展」（仮称）の開催を予定しています。ご期待ください。

郷土館は、地域情報の集まっている場、市民が交流する場、あるいは飯能ならではのものを発信していく場になるよう、努力してまいります。今後も皆さまのご参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成15年3月

飯能市教育委員会  
教育長 西澤 榮一

---

あいさつ .....	1
目 次 .....	2

---

<b>第1章 施設</b>	建物平面図 .....	4
	面積表 .....	5
	常設展示の概要 .....	6

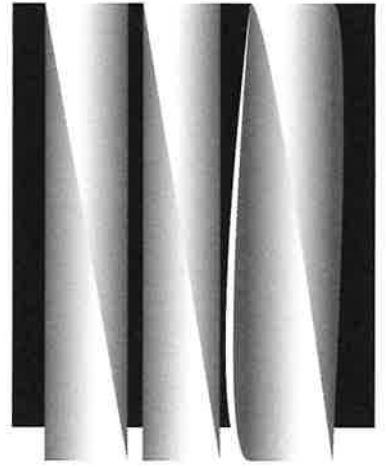
---

<b>第2章 事業</b>	郷土館職員の仕事 .....	8
	年度別事業一覧 .....	10
	展 示	
	（各年度の特別展・収蔵品展） .....	13
	（その他の展示） .....	52
	講座・学習会 .....	55
	資料・施設の利用 .....	60
	交流 .....	68
	博学連携 .....	74
	レファレンスの対応 .....	76
	収集 .....	78
	整理・保存 .....	82
	調査・研究 .....	85
郷土館協議会 .....	87	
博物館実習 .....	89	

---

<b>第3章 各種データ</b>	入館者数 .....	92
	歳出予算 .....	93
	図書資料寄贈機関 .....	94
	刊行図書・職員 .....	98
	飯能市郷土館条例・規則 .....	99

---



# 第 1 章

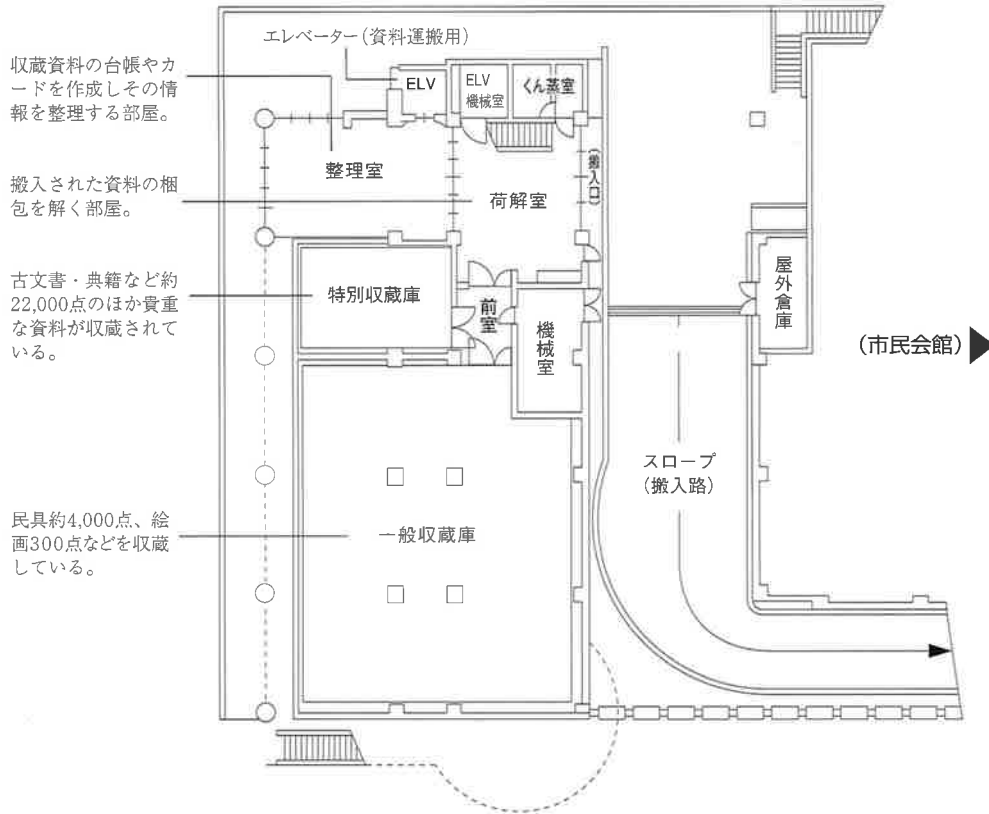
..... Chapter 1 .....

## 【 施 設 】



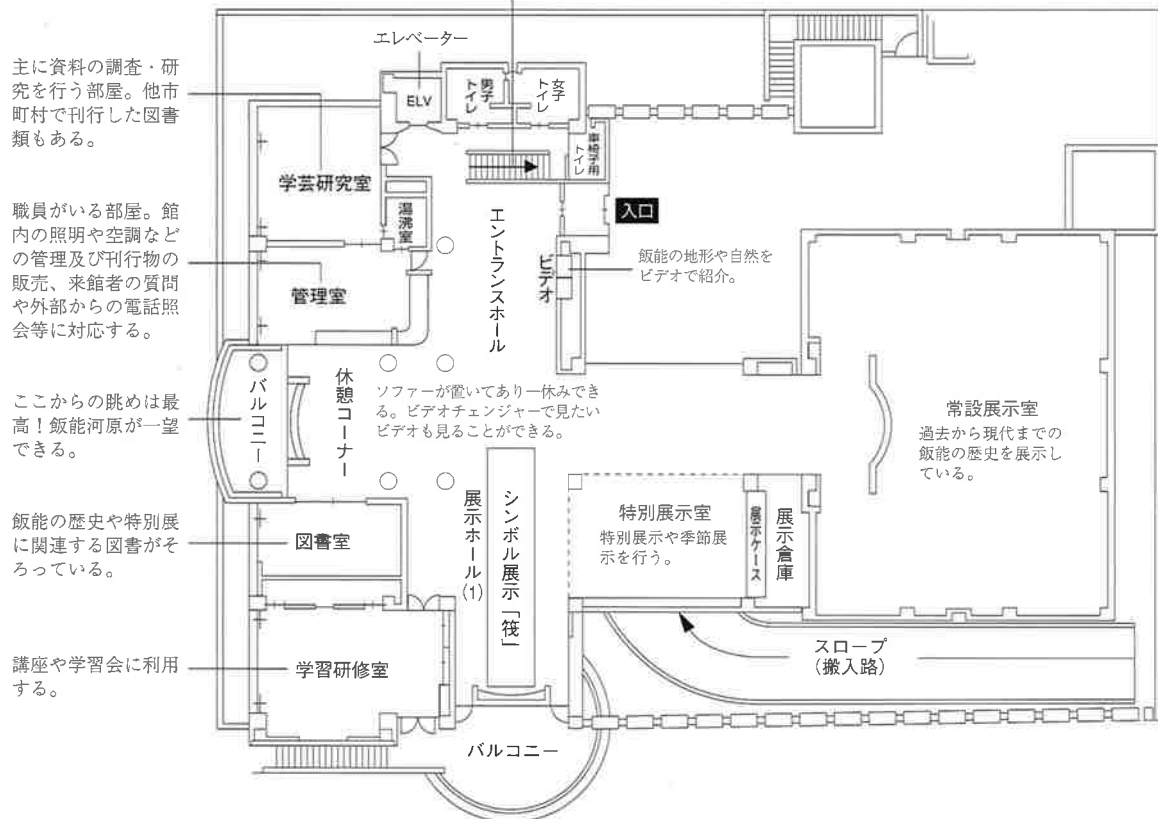
# 建物平面図

## < 1 階 >



※< R階 > 階段をあがると展望台があり、龍涯山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

## < 2 階 >



(飯能河原)

(駐車場)

(飯能河原)

(市民会館)

# 面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積
<b>1 階</b>	<b>497.458</b>	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	車椅子用トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
<b>2 階</b>	<b>959.774</b>	エレベーター	7.500
常設展示室	273.965	<b>R 階</b>	<b>40.040</b>
特別展示室	59.850	階段	15.846
展示倉庫	20.675	階段ホール	15.944
展示ホール(1)	139.750	エレベーター	8.250
展示ホール(2)	88.128		
エントランスホール	103.131	<b>合 計</b>	<b>1,497.272</b>

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 訳	面積(㎡)	割合(%)
教育普及	展示(常設・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他(学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査・研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.72	25.2
		1,497.272	100.0

〈その他〉

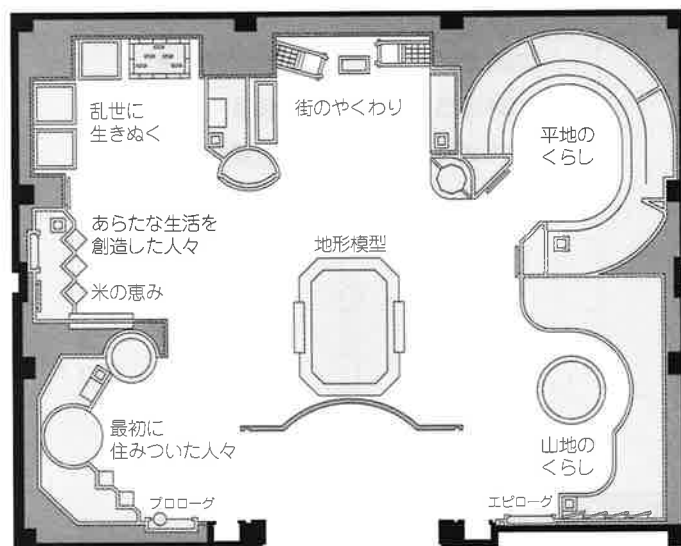
敷地面積 3,626.12㎡

建築面積 1,165.999㎡



# 常設展示の概要

常設展示は下図のように地形模型を中心とした9つのテーマから構成され、飯能の歴史が旧石器時代から現代まで時代を追ってわかるようになっている。



## ○展示資料の変更

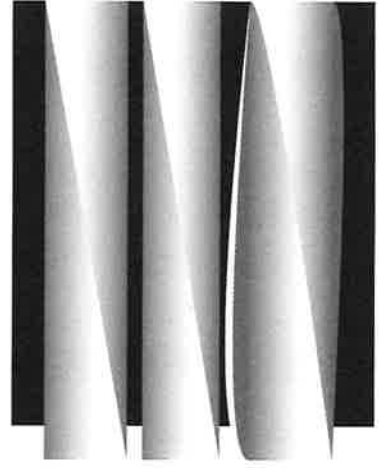
平成13年度秋に実施した特別展「黎明のとき ―飯能焼・原窯からの発信―」の成果を常設展示に反映させるため、「街のやくわり」（近世～近代）のコーナーにおいて展示資料の交換、追加を行った。（平成13年2月）

### 【撤収した資料】

- ・大河原村差出明細帳
- ・大河原村宗門人別改書上帳
- ・差上申済口證文之事（市場騒動文書）
- ・黒田直邦寄付状（複製）
- ・双木本家飯能焼コレクション（市指定文化財） 11点  
薬味入・土瓶・蘭引・瓢箪文徳利・屋号入徳利・桃形小鉢・麦文小皿・梅花文下地差2点・合子蓋2点

### 【新たに展示した資料】

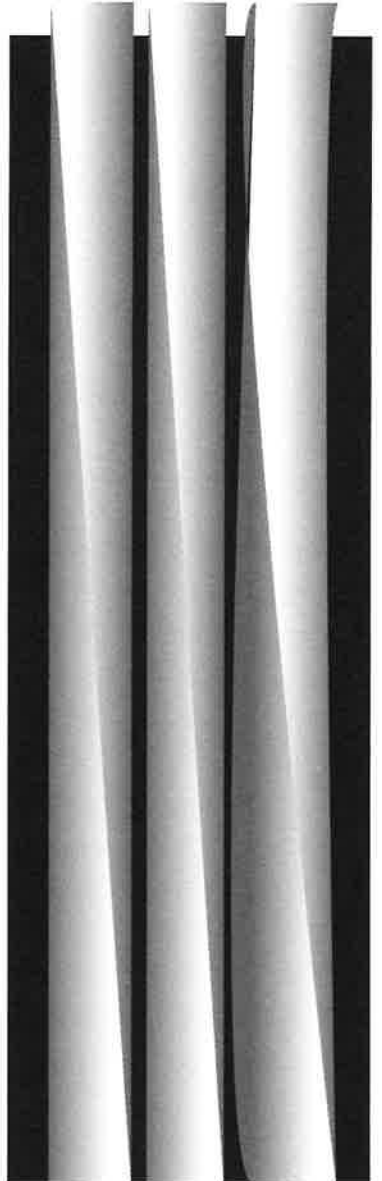
- ・飯能焼原窯跡1次調査2号土坑出土資料 7点  
屋号入徳利・唐草剣酢漿文徳利・瓢箪文土瓶・急須・行平鍋・秋草文蓋・松葉散らし文隔入四方鉢・灯明皿
- ・双木本家飯能焼コレクション（市指定文化財） 3点  
草葉文水注・爛徳利・梅樹文壺
- ・江戸（東京）で出土した飯能焼 6点  
小梅散らし文徳利・氷梅文皿（以上渋谷区千駄ヶ谷五丁目遺跡）、秋草文鍋蓋・行平鍋（以上港区東京大学白金構内遺跡）、紅葉文合子蓋（新宿区内藤町遺跡）、行平鍋（豊島区東池袋遺跡簡保地区）
- ・合羽（飯能焼の絵付け道具） 1点



## 第2章

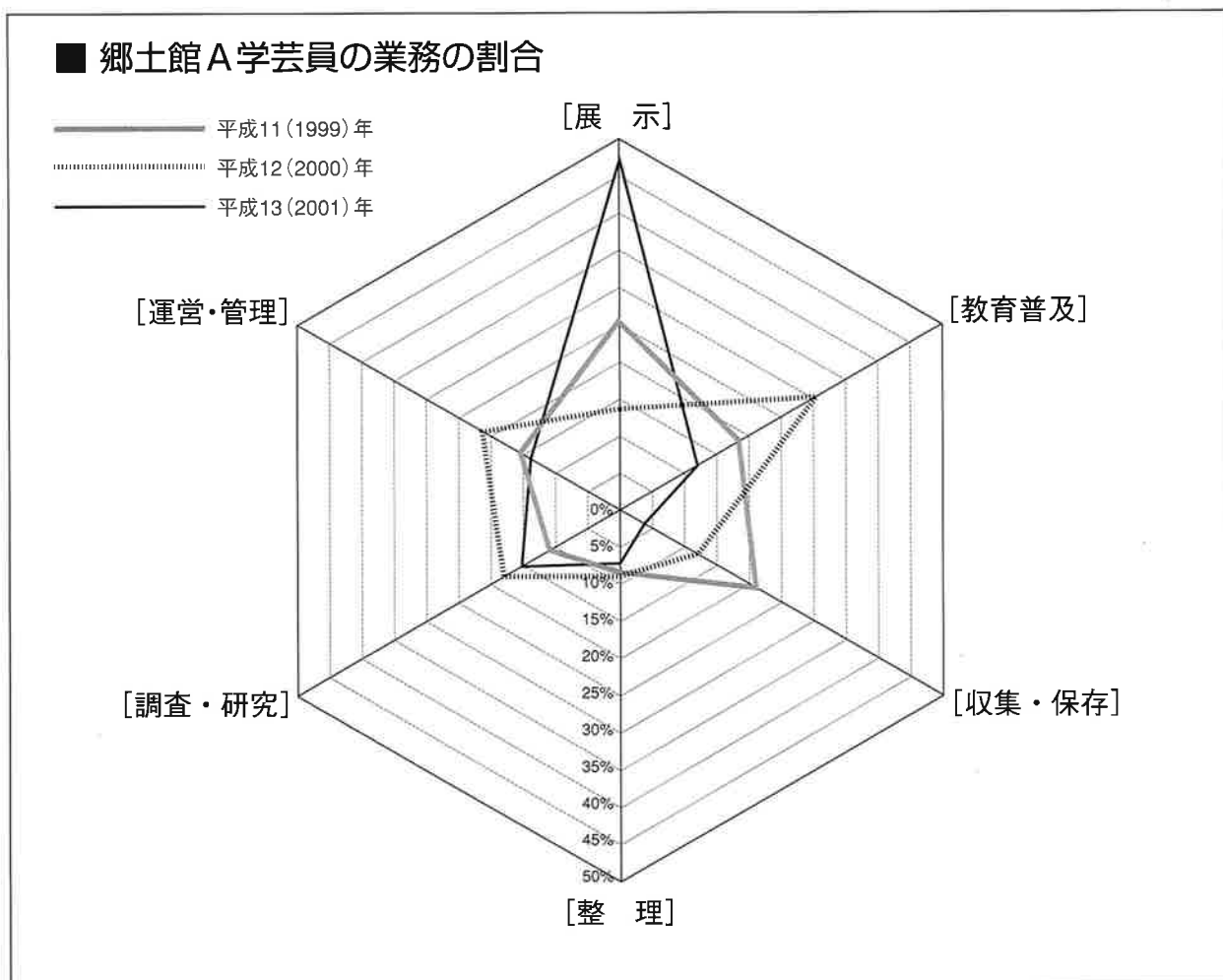
..... Chapter 2 .....

# 【事業】



# 郷土館職員の仕事

飯能市郷土館には正職員、臨時職員合わせて8人が勤務していますが、そのうち2名もしくは3名が専門職である学芸員です。学芸員の仕事には多様なものがありますが、その内容は一般にはほとんど知られていないようです。今回はそれを紹介してみましょう。



当館では展示や教育普及をメインにした事業展開を行っているため、どうしてもその割合が高くなり、学芸員の業務はこの二つでだいたい年間の仕事量の40~60%を占めます。また、最も大きな事業である秋の特別展の担当者はそれに集中的に従事し、それ以外の学芸員がその他の展示や夏休み親子歴史教室などの学習会、博物館実習などを行うのが普通です。したがって平成13年度に特別展を担当したA学芸員は、展示の割合が大変高くなっています(上図)。参考までにこの3カ年におけるA学芸員の教育普及部門の担当以下のとおりです。

平成11年度……特別展1件・その他の展示3件・交流事業1件

平成12年度……収藏品展1件・その他の展示5件・講座学習会2件・交流事業1件

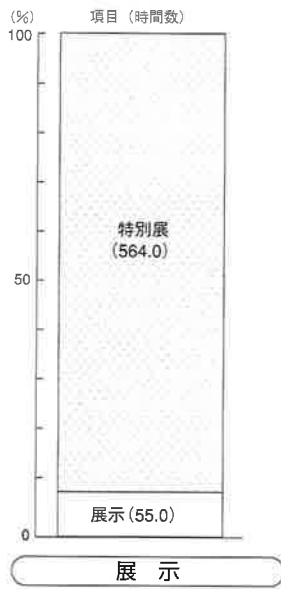
平成13年度……特別展1件・その他の展示2件・講座学習会1件・交流事業1件

また、上記の業務内訳はあくまで学芸員のものなので、学芸員以外の職員が担当する運営管理部門(伝票・文書收受などの庶務を含む)、あるいは臨時職員が主に担う整理作業は比率が低くなっています。いうまでもないことですが、郷土館は学芸員だけでなく、正職員、臨時職員が協力して運営にあたっているのです。

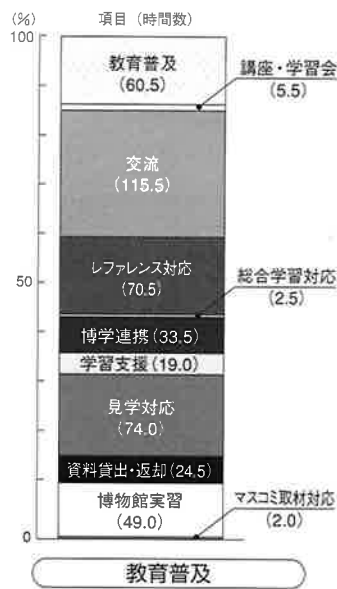
それでは、次に1999(平成11)年度を例にそれぞれの業務の内訳を見てみましょう。

# 学芸員の業務内容内訳

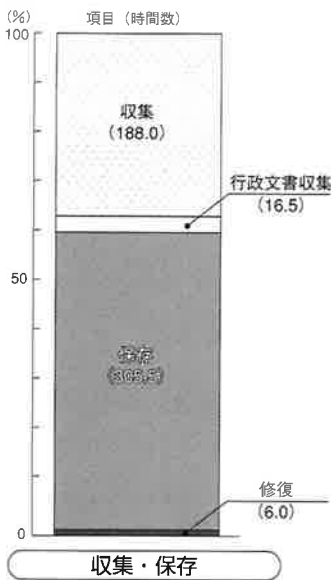
※ ( ) 内の数字は時間数を表します。



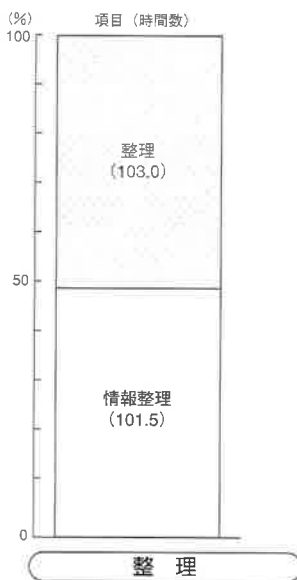
展示



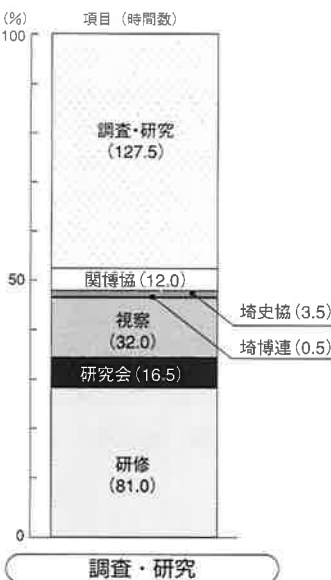
教育普及



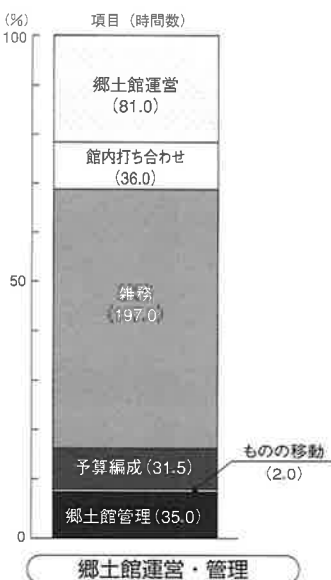
収集・保存



整理



調査・研究



郷土館運営・管理

## ◆ 展示

- 特別展…春の収蔵品展・秋の特別展における展示の構想検討、資料調査、所蔵者への借用交渉、印刷物のデザイン検討、原稿の執筆、パネル作成、案内状の送付など展示会に関わるすべての業務。
- 展示…特別展、収蔵品展以外の展示に関わるすべての業務。

13~54  
ページ

## ◆ 教育普及

- 教育普及…館報の原稿作成・編集など以下の項目に含まれない教育普及事業。
- 講座・学習会…やさしい古文書講座、織物講演会などの企画、準備、運営。
- 交流…定点撮影プロジェクト・市民学芸員に関する業務。
- レファレンス対応…窓口、電話、手紙で質問されたものに対する調査、回答。ちなみに平成11年度に1人の学芸員が対応したのは96件になります。
- 博学連携…小・中学校で郷土館に見学に来た場合の対応やその準備、学校で郷土館職員が授業を行うなど当館が学校と連携して行っている事業。
- 学習支援…学習サークルなどへの教材提供、運営補助など。
- 見学対応…小・中学校を除く見学の案内
- 資料貸出・返却…他の博物館や学校へ資料を貸し出した場合の手続き、資料検査など。
- 博物館実習…学芸員資格を取得しようとする大学生に対する実習の受け入れ。

55~77  
89  
90  
ページ

## ◆ 収集・保存

- 収集…市民から寄贈の申し入れがあった資料を見に行き、受領を検討し、受領手続きをすること。また資料購入の検討をするなど。
- 行政文書収集…市役所で保存年限が満了したために廃棄される公文書の中から、歴史的に価値のある文書を選別、収集する。
- 保存…古文書の中性紙封筒への詰め替え作業や刀剣等収蔵資料の点検、手入れなど。
- 修復…赤羽刀の研磨や絵図の修復を委託するための事務手続き、修復前の現状確認調査、修復後の資料検査など。

78~81  
84  
ページ

## ◆ 整理

- 整理…資料の整理方法を検討したり、臨時職員によって作成された資料カードをチェックする。
- 情報管理…各種のカードを作成したり、収蔵資料についての修復、整理、利用履歴などをカードへ記入することなど、館でもっている情報を管理、更新すること。

82  
83  
ページ

## ◆ 調査・研究

- 調査・研究…特別展の資料調査や資料収集を目的とした調査以外の調査。
- 関博協、埼玉協など…県内の博物館、史料保存機関との協議会に関するもの。
- 視察…他館の運営状況視察や特別展の見学など。ただし、特別展の見学は個人的に行ったものも含んでいる。
- 研究会…個人として研究会に参加したもの。

85  
86  
ページ

## ◆ 郷土館運営・管理

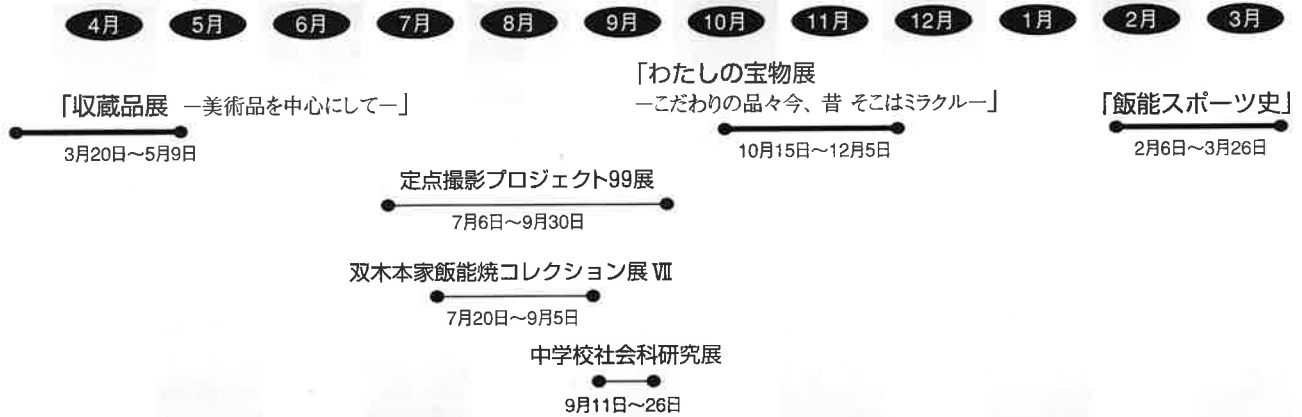
- 郷土館運営…郷土館協議会の開催や中期計画の策定など運営方針に関わる事務。
- 雑務…市役所や他の機関との事務連絡や文書に目を通すこと、庁用車の管理など。
- もの移動…館内におけるパネル、机などの備品類、資料などの移動。
- 郷土館管理…館内照明の交換、展示室の温湿度計記録用紙の交換、展示室湿度の調整、各種機器類故障の対応など。

87  
88  
ページ

# 年度別事業一覧

平成11年度

## 特別展 その他の展示



## 講演会 学習会



## 交流

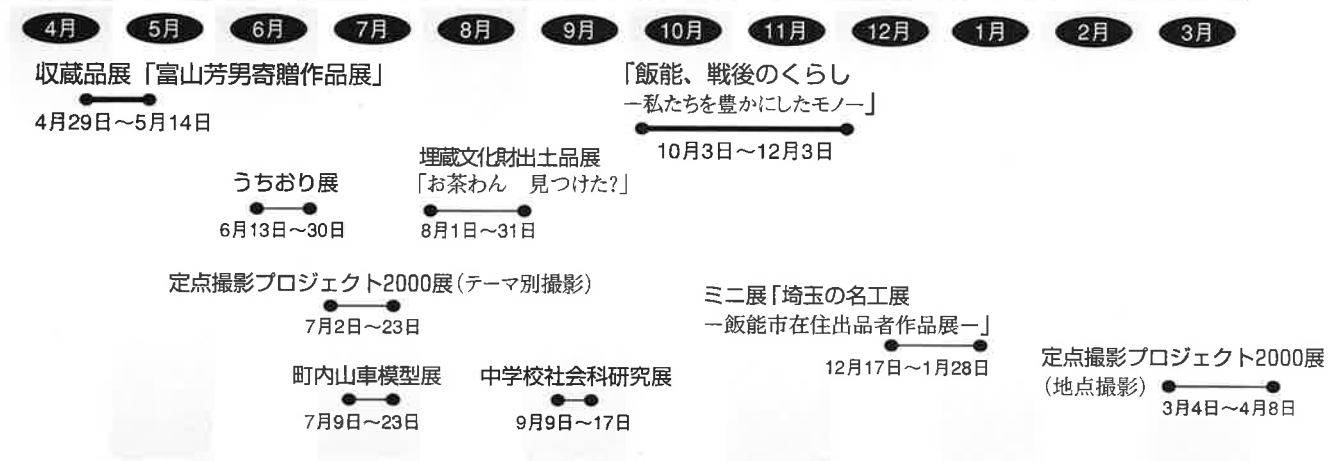


## その他

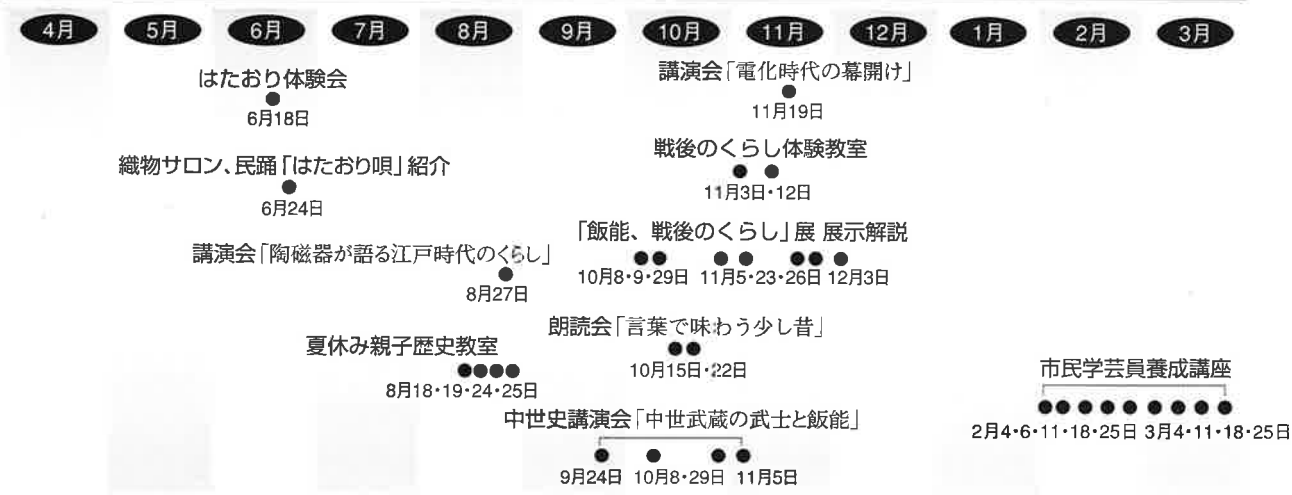


# 平成12年度

## 特別展 その他の展示



## 講演会 学習会



## 交流

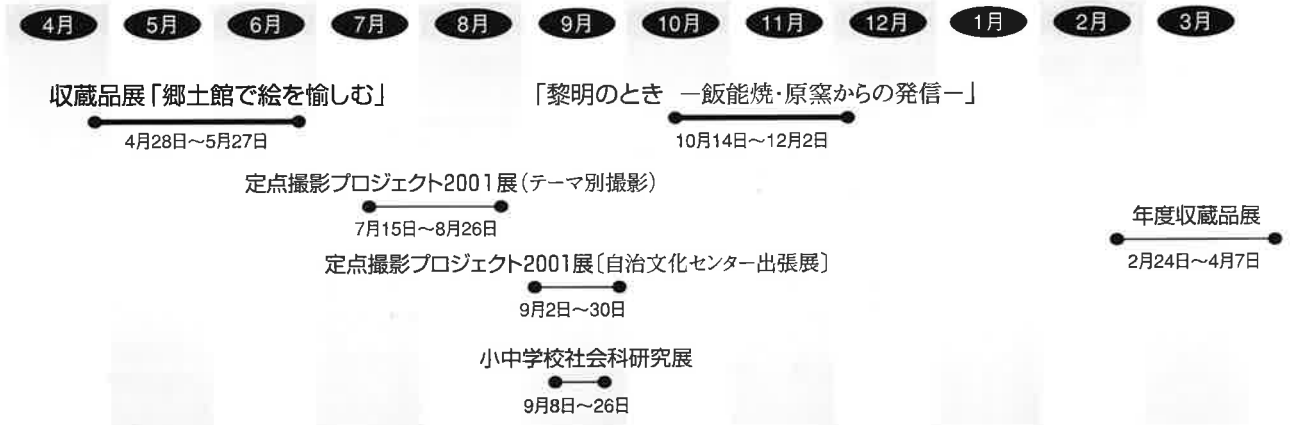


## その他

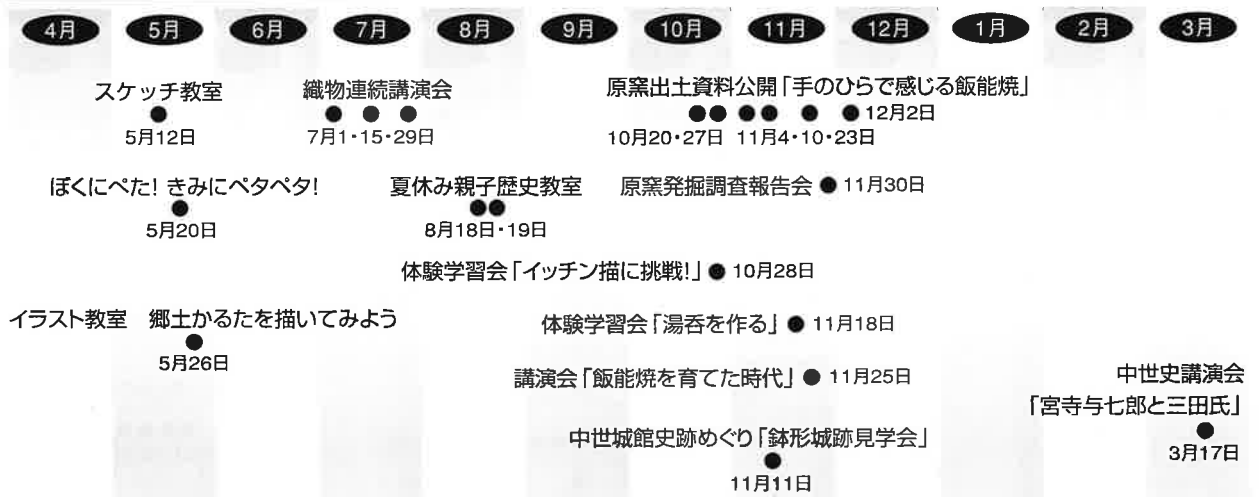


# 平成13年度

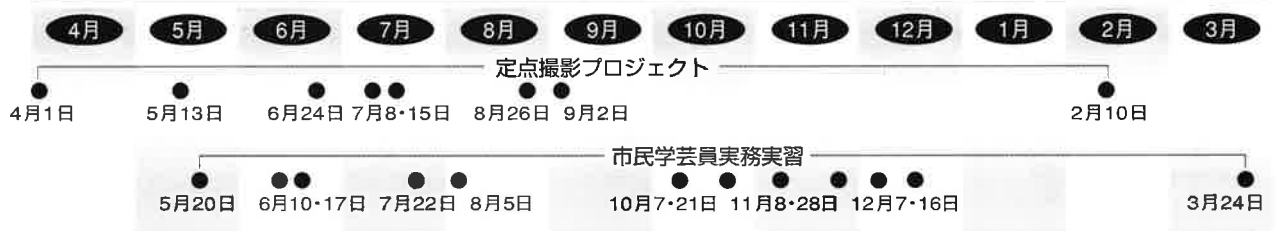
## 特別展 その他の展示



## 講演会 学習会



## 交流



## その他



平成11年度

## 収蔵品展 —美術品を中心として—

期 間	平成11年3月20日(土)～5月9日(日)		
開館日数	43日		
入館者数	4,528人(1日平均 105.3人)		
展示点数	64点		
総費用	1,873,163円(入館者1人あたり 413.7円)		
(内 訳)	印刷費	994,350	報償費 40,000
	写真関係費	6,132	旅 費 3,940
	展示委託料	716,815	事務通信費 104,230
	消耗品費	7,696	

展 示

### 1. 趣 旨

開館10年目を迎えて、これまで寄贈していただいたり購入したりした美術・工芸品資料が相当数になる。これらの資料は郷土の文化と深い関わりを持つものばかりだが、通常の特別展では、なかなか公開する機会がなかった。

そこで、開館10年を記念して、これらの資料を展示公開することにより、協力していただいた方への感謝の意を表し、これからの収集活動への市民のご理解とご協力を賜る一助としていく展示と位置づけたい。

### 2. 展示の構成

#### I 飯能に関わりのある芸術家達

飯能に何らかの関わりを持ち、飯能の郷土文化に影響を与えた下記の芸術家の作品のうち当館に収蔵されているものを展示する。その人物の略歴と飯能との関わりを解説にした。なお資料として長期の展示に耐えられない物も多いので、約1ヶ月で資料を入れ替えた。

- 平山蘆江(随筆家)      ○棟方志功(版画家)
- 樋田五峯(日本画家)      ○白木正一(洋画家)
- 早瀬龍江(洋画家)      ○蔵原伸二郎(詩人)

#### II 特別展をきっかけに収蔵した資料

特別展がきっかけとなり、収蔵した資料を公開した。主に購入した物が多い。

- 飯能焼              ○落合寿親の火縄銃・香合
- 引札              ○瀬戸の磁器人形

### 3. 印刷物

ポスター(B2版4色刷)……………300部  
 ちらし(A4版4色刷2ページ)……………5,000部  
 展示図録(A4版4色刷24ページ)……………1,000部

### 4. 関連事業

#### ◎講演会1「蔵原伸二郎と飯能」

日 時 平成11年4月10日(土) 午後2時～  
 講 師 町田多加次氏(日本詩人クラブ・埼玉詩人会会員)  
 会 場 当館学習研修室  
 参加者 42人



講演会2「平山蘆江と飯能」

#### ◎講演会2「平山蘆江と飯能」

日 時 平成11年4月25日(日) 午後2時～  
 講 師 森 和夫氏(飯能ペンクラブ理事)  
 会 場 当館学習研修室  
 参加者 49人





展示風景（入口）



展示風景（特別展示室）

## 5. 評価

開館10年目を迎えるにあたり、今まで資料を寄贈して下さった方々への顕彰の場として、また、飯能にゆかりのあった文化人たちを紹介することができた点で、今回の展示は意味があったと思う。

以前「飯能文化萌ゆ」という特別展示を行ったことがあった。似たような展示内容ではあったが、そのときより、格段に収蔵資料が増えており、担当者としては、10年の歳月を実感することができた。

しかし、美術品・工芸品の展示方法としては、「飯能にゆかりのある文化人が残したもの」を「文化人別」に「陳列」しただけのものになってしまった。収蔵品展という性格上、資料の「陳列」になってしまうのは、仕方がないのかもしれない。

けれども、人物に的を絞ったのか、美術品の鑑賞方法を提示しなかったのか、どちらともとれない展示となってしまったのは、担当者の準備不足、力不足のためであったと思う。

また、春休みに何も企画展示がないのはつまらないという要望もあり、3月末から4月にかけて行ったが、飛躍的な入館者の増加は残念ながらみられなかった。

今回の展示は、今後郷土館が美術品を扱う場合、どのようなコンセプトで資料を取り扱っていくか、年度の収蔵品展を定例として行う場合、寄贈者に敬意を表しながら資料をどのように活用し、収蔵品展という枠の中で何を伝えていくのか課題を残した展示になったと思う。

（担当者による評価）

## ◆ 展示資料

No.	作品名	作者	種別	備考
1	ウェイブ	白木正一	洋画	○
2	サロメ	白木正一	洋画	○
3	焼土に降り立つペガサス	白木正一	洋画	○
4	zen	白木正一	洋画	○
5	瀑布	白木正一	洋画	○
6	雅楽	白木正一	洋画	○
7	白象と阿羅漢	白木正一	洋画	○
8	詩人k氏像	早瀬龍江	洋画	○
9	堆積苦悶	早瀬龍江	洋画	○
10	禁断の遊戯	早瀬龍江	洋画	○
11	水の中(2)	早瀬龍江	洋画	○
12	絶望の人間像	早瀬龍江	洋画	○
13	囚われたるもの	早瀬龍江	洋画	○
14	知性の盲点	早瀬龍江	洋画	○
15	のぞみありや	早瀬龍江	洋画	○
16	礁	早瀬龍江	洋画	○
17	肉体からの離脱	早瀬龍江	洋画	○

No.	作品名	作者	種別	備考
18	水の中	早瀬龍江	洋画	○
19	演奏者	早瀬龍江	洋画	○
20	竹の子図	蔵原伸二郎	墨画	○
21	牡丹(1)	蔵原伸二郎	墨画	○
22	牡丹(2)	蔵原伸二郎	墨画	○
23	かいつぶり	蔵原伸二郎	墨画	○
24	書筒	棟方志功	肉筆画	○
25	胸形変	棟方志功(画) 石田波郷(句)	版画	○
26	観音尊顔茶碗の図	棟方志功	肉筆画	○
27	展示会看板	棟方志功	肉筆画	○
28	HANNO	棟方志功	肉筆画	○
29	個展来場薫名帖	棟方志功	肉筆画	○
30	仁王像	平山蘆江	肉筆画	○
31	美人画	平山蘆江	肉筆画	○
32	狛犬	平山蘆江	肉筆画	○
33	歌舞伎の隈取り	平山蘆江	肉筆画	○
34	虎	樋田五峯	日本画	○
35	名栗川	樋田五峯	日本画	○
36	うぐいす	樋田五峯	日本画	○
37	うさぎ	樋田五峯	日本画	○
38	名栗川	樋田五峯	日本画	○
39	萩に鳥	樋田五峯	日本画	○
40	梅樹文壺		飯能焼	市指定文化財
41	松樹文徳利		飯能焼	市指定文化財
42	瓢形小鉢		飯能焼	市指定文化財
43	波千鳥四方片口		飯能焼	市指定文化財
44	氷梅文徳利		飯能焼	市指定文化財
45	瓢文徳利		飯能焼	市指定文化財
46	麦文小皿(五枚組)		飯能焼	市指定文化財
47	エンゼル付きコンポート		磁器人形	
48	エンゼル付き透かしコンポート		磁器人形	
49	フランス人形(男)		磁器人形	
50	フランス人形(女)		磁器人形	
51	スイカ食いの少年と老人		磁器人形	
52	ゴルフをする少年と老人		磁器人形	
53	糸巻きドレスデン人形(男)		磁器人形	
54	糸巻きドレスデン人形(女)		磁器人形	
55	香合	落合寿親		
56	火縄銃	落合寿親		
57	踊る福助		引札	
58	自動車に乗る恵比寿・大黒		引札	
59	鯛を釣り上げる恵比寿・大黒		引札	ネクタイ着用
60	金を箱に入れる恵比寿・大黒		引札	
61	鯛を釣り上げる恵比寿・大黒		引札	見本刷り
62	鯛を釣り上げる恵比寿・大黒		引札	
63	ホームにて煙草を買う七福神		引札	
64	ホームにて煙草を買う七福神		引札	見本刷り

○=展示替えを行った資料

開館10周年記念特別展

**わたしの宝物展** — こだわりの品々今、昔 そこはミラクル —

期 間	平成11年10月15日(金)～12月5日(日)		
開館日数	43日		
入館者数	4,892人(1日平均 113.8人)		
展示点数	61点		
総費用	1,168,306円(入館者1人あたり 238.8円)		
(内 訳)	印刷費 390,075	消耗品費 135,921	事務通信費 64,210
	展示委託料 438,900	報 償 費 139,200	

## 1. 趣 旨

わが国が世界に冠たる経済大国になり、大量生産型社会の現代、豊富な品々に囲まれる中、宝物とは何であろうか。沢山あるものでも、モノとして世界にたった一つしかないもの、かけがえのないもの。そういう市民所蔵の宝物を出品していただき、展示して市民の閲覧に供する。

またそれと同時に、展示場所となる郷土館も市民にとって、世界でたった一つしかない郷土史の貴重な資料群を所蔵し、展示する大切な宝物であることを再認識し、郷土の歴史、伝統を伝えて、ますます愛され親しまれる郷土館になる機会としていく。

## 2. 展示の構成

市民から募集した「宝物」を、それへの思いとともに以下の内容に分けて展示した。

- ① 戦争に関する思い出
- ② 子供の頃の思い出
- ③ 子供達に残しておきたいもの
- ④ 父・母・祖父・祖母などに関する思い出(形見)
- ⑤ 家族全体・先祖代々に関するもの(家宝)
- ⑥ 自分の趣味、興味によるそのモノに対する愛着(自分で作ったもの等)
- ⑦ 青春時代の思い出
- ⑧ 自分の人生、仕事の関する思い出



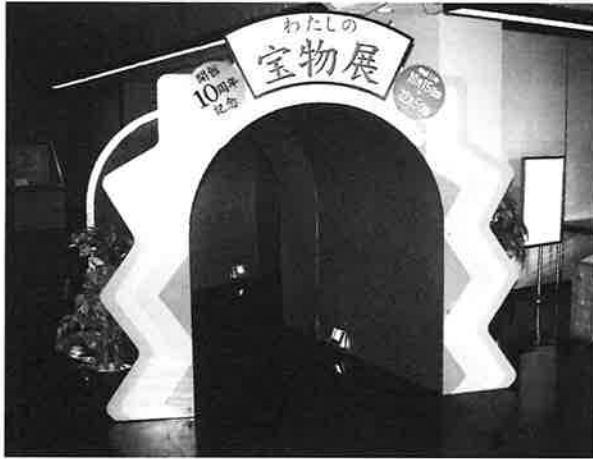
ポスター

## 3. 印刷物

ポスター(B2版4色刷)……………300部  
リーフレット(A4版4色刷4ページ)…5,000部

## 4. 関連事業

なし



展示の入口



展示風景（特別展示室）

## 5. 企画委員

浅見恭二氏・大矢久代氏・金子聡子氏・田嶋佐奈恵氏・中里吉平氏・丸山清氏（郷土館友の会会員より公募）

## 6. 評価

当館では、平成2年度に開館記念特別展として「わたしの宝物 ～思い出に残る品々～」を開催したが、今回は開館10周年を記念して再び市民の「宝物」を展示した。最初は「宝物」が集まるかどうかという不安もあったが、募集を始めてみると、たくさんの方々から連絡をいただき、それぞれの方が自分の大事な宝物を持っているのだということに改めて認識させられた。

展示については、限られたスペースにケースの大きさに合わせて全てを配置する必要があったため、そのバランスが難しく、ただ並べただけという感じの部分もあったが、星や花の模様の Cuttingシートを床や壁面に貼るなどして明るい雰囲気を出すことに努めた。全体的に見ると、来館者の評判は良かったようであるが、展示の方法についてはもう少し工夫が必要だった。

（担当者による評価）

## ◆ 展示資料

No.	展示品名	出品者
1	私の生命を支えた10代の宝物（銀杯など）	南野 経夫
2	捕虜生活用品（水筒など）	大沢 源一郎
3	半纏	中里 吉平
4	投網	
5	第一歌集「水晶の馬」関連資料	綾部 光芳
6	将棋盤	澤田 克郎
7	掛軸（蘇民将来）	
8	祇園繪図（和本）・祇園祭（1982年ガイドブック）	大野 哲夫
9	軍装関連（軍服、軍帽など）	小山 正三
10	軍靴（昭五式）	金島 正治
11	雷管（戦艦砲弾）	
12	電話機5台（手回し式～ダイヤル式）	丸山 清
13	吸口（タバコ）	
14	名誉種牛選奨証・盾	小川 元一
15	莢莢	飯島 士郎
16	ピロードのハンドバック	大野 耐子

No.	展示品名	出品者
17	尾県郷土資料館及び展示物写真	奥田 かずゑ
18	オーストラリア旅行の思い出	
19	弓を引くヘラクレス (レプリカ)	西沢 聖子
20	遮光器土偶 (レプリカ)	
21	御所人形	及川 湍夫
22	飯能の民謡 (冊子)	石井 英子
23	名栗川の清流 (写真)	
24	賞状 (木炭 3 等賞)	鴨下 栄太郎
25	めんこ	柿沼 安之助
26	消防団指揮刀	平沼 あい
27	人形	
28	絵入り葉書・絵画 (内田晃作)	沼崎 松子
29	賞状	大久保 匡三
30	甘酒をわかす釜	土屋 宗治
31	茶壺	(匿名)
32	自然石の大黒さま	浅見 裕治
33	手作りCD・カセットテープ	安江 正彦
34	太織縞の着物	梶川 佳久子
35	青春時代の思い出深い品々 (観測教育参考など)	中村 源一
36	撞木・双盤念仏解説	師岡 兵作
37	表彰状・硯箱	
38	火鉢 (天然杉根製)	大沢 幸次
39	短冊 (神安気亦平)	高瀬 恵峯
40	のしめ	滝島 治
41	二眼レフカメラ	小林 長平
42	アコースティックギター・ギタースタンド	小林 利光
43	飯能焼壺	島田 稔
44	ちりめんの花嫁衣装	山川 トキ
45	手編みのセーター	杉浦 玲子
46	認識票	西野 長治
47	千人針	
48	仮面ライダー	高橋 尚仁
49	遊戯王カード	
50	ポケモンカード	高橋 あずさ
51	遊戯王カード	
52	単語読本	福島 重男
53	真田三代記	
54	元号替わり資料 (昭和64年・平成元年)	岡崎 孝
55	詩集「そよ風にのって」	則竹 祥子
56	ペネチアングラス	
57	学校手牒 (飯能第一国民学校)・連絡簿 (飯能第一中学校)	小槻 章光
58	絹きばた	小沢 俊子
59	武者絵	安藤 憲一
60	マムシの胎生見本	行平 福太郎
61	ヒスイとザクロ石	浅見 純一

# 飯能スポーツ史

期 間	平成12年2月6日(日)～3月26日(日)					
開館日数	42日					
入館者数	4,177人(1日平均 99.5人)					
展示点数	180点					
総費用	1,412,851円(入館者1人あたり 338.2円)					
(内 訳)	印刷費	516,600	資料保険代	4,930	賃 金	78,720
	写真関係費	117,700	消耗品費	111,743	旅 費	8,970
	展示委託料	509,008	報 償 費	10,000	事務通信費	55,180

## 1. 趣 旨

戦後の高度経済成長は、私たちの生活に時間的、精神的、経済的ゆとりを生み出し、その結果それまでほんの一握りの人たちが享受するに過ぎなかったスポーツは、庶民にとっても余暇を過ごす大きなものとして浸透した。現在、スポーツは生活の一部になっているので、スポーツが普及していく過程を振り返ることは戦後の歴史をたどることにもなり、新しい世紀を迎えようとしている今、大いに意義あることである。

また、地域におけるスポーツイベントは、スポーツを身近に感じることができ、地域のアイデンティティに深く関わっている場合がある。飯能市でいえば、冬の風物詩として飯能市民に長らく親しまれてきた奥武蔵駅伝や、昭和42年の国体開催を契機に普及したホッケー競技などがそれである。そこで、この二つのスポーツイベントを通して現代社会を見つめ直し、さらに第59回国体のあり方についても考えるきっかけとしていきたい。



展示風景(特別展示室)

## 2. 展示の構成

### I スポーツと生活

#### (1) スポーツとは何か?

生活の一部になりつつあるスポーツについての来館者の意識を探った。

#### (2) 戦前のスポーツ

スポーツが限られた人達の間で楽しまれていた時代の様子を用具、写真などによって紹介した。また、飯能における戦前のスポーツの様子を写真で示した。

### II 市民に親しまれるスポーツ

#### (1) 飯能市体育協会の創立

飯能市体育協会やそれに加盟する競技団体がスポーツイベントの開催や指導者の養成、環境整備といった役割を果たしたことを説明した。

#### (2) 体育施設の充実

天覧山グラウンド、阿須運動公園といった体育施設が充実していった歴史をたどった。

#### (3) 道具から見るスポーツの変遷

スポーツ用具の移り変わりを展示し、変遷の内容として材質上の変化と技術上の要請からの変化があることを説明した。

### III 市民とスポーツイベント

#### (1) 奥武蔵駅伝

飯能の「冬の風物詩」であり、市民に最も親しまれているスポーツイベントの歴史を振り返りその意味を示した。また、復活に向けての市民の思いを探った。

#### (2) 第22回国民体育大会(埼玉国体)

昭和42年に開催された埼玉国体で、ホッケー・レスリングの会場となった飯能市の、民官一体となった運営の様子を取り上げ、評価した。

#### IV スポーツの現在、そして未来

##### (1) スポーツの現在

色彩的に鮮やかになったスポーツファッション、用具を競技団体の協力によって展示した。合わせてスポーツがコミュニティの醸成や社会的な活動など地域に貢献する役割を期待されていることを示した。

##### (2) 第59回国民体育大会(埼玉国体)

近年の国体の歩みと平成16年に開催予定の埼玉国体について紹介した。



ホッケー競技体験コーナー

#### 【コラム】

##### A. スポーツおもしろ大百科

野球のマウンドからホームベースまでの距離やバスケットボールのゴールの高さなどを会場の床や壁面に示し、いろいろなスポーツの「距離」から、その凄さを知ってもらった。

##### B. 飯能出身のスポーツ選手

松原誠氏(プロ野球選手)・新井規矩雄氏(プロゴルファー)・斎藤博氏(オリンピックにバスケットボール選手として出場)をパネルで紹介した。

##### C. 聖望学園野球部の甲子園出場

この年の夏に飯能市内の高校で初めて甲子園に出場した聖望学園をパネルで紹介した。

##### D. ホッケー競技体験コーナー

#### 3. 印刷物

ポスター(B2版4色刷)……………300部  
パンフレット(A4版4色刷16ページ)…3,000部

#### 4. 関連事業

◎埼玉国体記録映画等鑑賞会

日 時 平成12年2月27日(日)午後2時～

会 場 当館学習研修室

参加者 26人

#### 5. 企画委員

加藤三郎氏・中島秀雄氏・田中誠志氏・齋藤正夫氏・齋藤喜必氏・立本洋子氏・中嶋マサ子氏・浜田富保氏・芳賀幸雄氏・小谷野伸一氏(飯能市体育協会創立50周年記念事業実行委員会展示部会)

#### 6. 評 価

今回の特別展は、飯能市体育協会創立50周年記念事業の一つとして開催されたものである。したがってできるだけ加盟している競技団体に協力していただく形で準備を進めていった。

ただ当館としては、体協関係者だけでなく一般市民にも楽しんでいただけるように、なじみのある奥武蔵駅伝や国民体育大会といったスポーツイベントを地域のアイデンティティとしてとらえ、それを通して飯能の戦後史を描くことを試みた。また、昭和42年に開催された国体における市をあげての取り組みを紹介し、平成16年度に埼玉県で開催される国体に関心をもってもらいたいと考えた。

しかし、中止が決まった奥武蔵駅伝復活に向けて「奥武蔵駅伝を語る会」の開催や、マスコミによる先の国体についての評価を紹介することは、体育協会や体育課はもちろん、館内からも反対意見が出て実現しなかった。伊藤寿朗氏のいう「地域課題」を公立の地域博物館が取り上げていく難しさを改めて実感した。

また、加盟団体も多くそれを平等に取りあげる必要があり、全体的な統一感にはやや欠けるものとなった。

(担当者による評価)



展示風景(特別展示室)

◆ 展示資料

《Ⅰ スポーツと生活》

★=写真

No.	資 料 名	点数	備 考
1	栄光賞状	1点	昭和58年
2	栄光旗	〃	〃
3	県下少年野球大会優勝旗	〃	大正期
4	グローブ	〃	大正～昭和初期
5	運動足袋（子ども用）	〃	戦前
6	第一飯能尋常高等小学校運動会風景★	〃	明治44年11月
7	第一飯能尋常高等小学校テッドボール大会★	〃	大正14年7月
8	連合運動会リレー優勝記念★	〃	大正7年
9	女学校の体操風景★	〃	昭和4年
10	飯能高等女学校のバスケットボール部★	〃	昭和16年
11	草競馬★	〃	大正5年
12	大相撲の巡業★	〃	大正6年
13	県下少年野球大会優勝記念★	〃	昭和2年？
14	飯能実業野球団記念★	〃	大正期
15	第1回産報体育大会優勝記念★	〃	昭和10年代後半

《Ⅱ 市民に親しまれるスポーツ》

No.	資 料 名	点数	備 考
16	市民体育祭男子優勝杯	1点	
17	天覧山グラウンド★	1点	
18	旧市民体育館★	1点	
19	運動公園となる前の阿須・岩沢河原★	2点	
20	阿須運動公園・野球場★	1点	
21	阿須運動公園・ソフトボール場★	1点	
22	阿須運動公園・市民体育館★	1点	
23	阿須運動公園・市民球場★	1点	
24	阿須運動公園・進むホッケー競技会場の改修★	1点	
25	美杉台公園★	1点	
26	岩沢運動公園★	1点	
27	勤労福祉センタープール★	1点	
28	軟式テニスの鯨筋ガット	1点	
29	ゲートボールのスティック（木製）	1点	昭和57年頃
30	ゲートボールのスティック（木製）	1点	昭和62年頃
31	ゲートボールのスティック（合成樹脂製）	1点	昭和63年頃
32	ゲートボールのスティック（金属製）	1点	
33	弓道の弓・竹製	1点	
34	弓道の弓・グラスファイバー製	1点	
35	弓道の矢・篠製	1点	
36	弓道の弓・ジェラルミン製	2点	
37	剣道の竹刀・竹製	1点	
38	剣道の竹刀・カーボン製	1点	
39	剣道の胴・皮、竹使用	1点	
40	剣道の胴・グラスファイバー使用	1点	
41	硬式テニスのラケット（ウッド）	1点	
42	軟式テニスのラケット（アルミ）	1点	
43	軟式テニスのラケット（グラスファイバー）	1点	
44	軟式テニスのラケット（デカラケ）	1点	

展  
示



No.	資 料 名	点数	備 考
45	軟式テニスのラケット (厚ラケ)	1点	
46	軟式テニスのラケット (長ラケ)	1点	
47	スキー板	1組	昭和15~20年
48	スキー板	1点	平成元年頃
49	スキー板	1点	現在
50	ストック (和竹製)	1点	戦前
51	ストック	1点	現在
52	登山靴 (滑り止めが金具)	1点	
53	登山靴 (滑り止めがゴム)	1点	
54	ザイル (麻製)	1点	
55	ザイル (テトロン製編ザイル)	1点	
56	ザイル (ナイロンザイル)	1点	
57	ホッケー競技のゴールキーパー装具★	1点	昭和50年代前半まで
58	ホッケー競技のゴールキーパー装具★	1点	現在の姿
59	バドミントン・カーボンラケットの断面★	1点	
60	弓の断面★	1点	

《Ⅲ市民とスポーツイベント》

No.	資 料 名	点数	備 考
61	奥武蔵駅伝における婦人会の活躍★	1点	
62	第1回奥武蔵駅伝競走大会を終えて★	1点	昭和27年
63	第6回奥武蔵駅伝・中央通り★	1点	昭和32年
64	第19回奥武蔵駅伝・ゴール地点★	1点	昭和45年
65	第34回奥武蔵駅伝★	1点	昭和60年
66	第45回奥武蔵駅伝★	1点	平成8年
67	運動足袋 (底が布)	1点	昭和25年頃
68	運動足袋 (底がゴム)	1点	昭和30年頃
69	奥武蔵駅伝プログラム (第1回~10回)	10点	
70	奥武蔵駅伝入賞記念のバックル (13・14・15回)	3点	
71	奥武蔵駅伝参加賞 (第1回~)	1組	
72	新電元工業チームの駅伝ユニフォーム	1組	
73	駅伝荷物運搬用袋	1点	
74	奥武蔵駅伝知事賞優勝杯	1点	
75	新電元工業駅伝チーム★	1点	
76	第8回奥武蔵駅伝・ゴール地点での賑わい★	1点	昭和34年
77	第9回奥武蔵駅伝・自転車で伴走★	1点	昭和35年
78	第9回奥武蔵駅伝・折り返し地点★	1点	昭和35年
79	第13回奥武蔵駅伝・公会堂前のゴール★	1点	昭和39年
80	埼玉国体ポスター・メイン	1点	昭和42年
81	埼玉国体ポスター・夏季	1点	〃
82	埼玉国体ポスター・秋季	1点	〃
83	埼玉国体女子選手の正装★	1組	〃
84	埼玉国体役員正装	1点	〃
85	埼玉国体選手用ブレザー	1点	
86	埼玉国体男子ホッケーのスティック	1点	
87	埼玉国体ポスター・レスリング競技	1点	
88	埼玉国体ポスター・ホッケー競技	1点	

No.	資 料 名	点数	備 考
89	埼玉国体デザインガイドシート	1組	埼玉県立文書館蔵
90	愛唱歌集さいたま	1点	
91	埼玉国体・音楽の集い★	1点	
92	埼玉国体お土産「おふろおもちゃ」	4点	
93	婦人会による「おふろおもちゃ」製作風景★	1点	
94	『国体の食事』	2冊	
95	国体記念マッチ	2点	
96	「国体の準備と県民運動」・飯能市実行委員会結成大会★	1点	
97	「国体の準備と県民運動」・花で飾る運動に参加する小学生★	1点	
98	「国体の準備と県民運動」・花の管理に忙しい職員★	1点	
99	「国体の準備と県民運動」・花壇に植える花の出荷準備・南高麗★	1点	
100	「国体の準備と県民運動」・東町自治会花壇★	1点	
101	「国体の準備と県民運動」・商品の包装講習会★	1点	
102	「国体の準備と県民運動」・親切にする運動パレード★	1点	
103	「国体の準備と県民運動」・歩け歩けで国体をPR★	1点	
104	「国体の準備と県民運動」・鼓笛隊の練習★	1点	
105	「ようこそ飯能へ」・飯能駅前案内所★	1点	
106	「ようこそ飯能へ」・飯能駅にて出迎え★	1点	
107	「ようこそ飯能へ」・東飯能駅前案内所★	1点	
108	「ようこそ飯能へ」・選手輸送車★	1点	
109	「ようこそ飯能へ」・選手の食事準備★	1点	
110	「ようこそ飯能へ」・郷土物産展★	1点	
111	「ようこそ飯能へ」・おみやげ品コーナー★	1点	
112	「ようこそ飯能へ」・国体記念たばこ販売★	1点	
113	「ようこそ飯能へ」・歓迎の夕べ★	1点	
114	「街は歓迎ムード」・飯能駅前歓迎塔★	1点	
115	「街は歓迎ムード」・東飯能駅前歓迎塔★	1点	
116	「街は歓迎ムード」・国道299号に立てられた広告塔★	1点	
117	「街は歓迎ムード」・中央通り★	1点	
118	「街は歓迎ムード」・店頭に飾られた歓迎小旗★	1点	
119	「街は歓迎ムード」・大通り商店街★	1点	
120	「街は歓迎ムード」・公会堂前（国体事務局）★	1点	
121	「街は歓迎ムード」・覧山荘★	1点	
122	「街は歓迎ムード」・レスリング場サイン★	1点	
123	国体記念浴衣・大人用	1点	
124	国体記念浴衣・子ども用	1点	
125	贈呈袋の中身・『埼玉』	1点	
126	贈呈袋の中身・埼玉国体ガイドブック	1点	
127	贈呈袋の中身・埼玉国体記念えはがき	1組	
128	贈呈袋の中身・白鷺の絵葉書（地域連合婦人会）	1組	
129	贈呈袋の中身・『はんのう』	1点	
130	贈呈袋の中身・『さいたまの観光』	1点	
131	贈呈袋の中身・のれん（地域連合婦人会）	1点	
132	贈呈袋の中身・飯能市会場・宿泊案内	1点	
133	贈呈袋の中身・レスリング・ホッケー競技会プログラム	1点	
134	贈呈袋の中身・秋季大会開会式プログラム	1点	
135	贈呈袋の中身・国体記念たばこ★	1点	

No.	資 料 名	点数	備 考
136	旗リレー・炬火リレー出場記念手ぬぐい	1点	
137	国体記念ペナント	1点	
138	飯能市からの国体出場記念品	1点	
139	国体記念メダル	1点	
140	「国体関連行事いろいろ」・旗リレー★	1点	
141	「国体関連行事いろいろ」・レスリング会場リハーサル★	1点	
142	「国体関連行事いろいろ」・郷土選手激励会★	1点	
143	「国体関連行事いろいろ」・鼓笛隊のパレード★	1点	
144	「国体関連行事いろいろ」・自転車ロードレース★	1点	
145	「国体関連行事いろいろ」・天皇、皇后両陛下下行幸啓★	1点	
146	「ホッケー競技会場」・歓迎アーチ★	1点	
147	「ホッケー競技会場」・公開演技★	1点	
148	「ホッケー競技会場」・ホッケー競技女子★	1点	
149	「ホッケー競技会場」・ホッケー競技男子★	1点	
150	「ホッケー競技会場」・会場内★	1点	
151	「ホッケー競技会場」・観客★	1点	
152	「ホッケー競技会場」・婦人会による売店★	1点	
153	「ホッケー競技会場」・郷土銘菓展示場★	1点	
154	「ホッケー競技会場」・閉会式★	1点	
155	「レスリング競技会場」・歓迎アーチ★	1点	
156	「レスリング競技会場」・会場内★	1点	
157	「レスリング競技会場」・計量所（公会堂）★	1点	
158	「レスリング競技会場」・会場外★	1点	
159	「レスリング競技会場」・閉会式★	1点	

《IVスポーツの現在、そして未来》

No.	資 料 名	点数	備 考
160	水泳連盟による飯能河原の危険物拾い★	1点	
161	少林寺拳法の胸賞(額入)	1組	
162	卓球のユニフォーム	1点	
163	バドミントンのユニフォーム	1点	
164	バスケットボールのユニフォーム	1点	
165	バレーボール(カラーボール)	1点	
166	サッカーボール(W杯フランス大会モデル)	1点	
167	射撃のクレー・散弾など	1組	
168	なぎなたの装具	1式	
169	平成11年度熊本国体ホッケー競技会場の休憩所★	1点	
170	進むホッケーの強化★	1点	
171	プロゴルファー新井規矩雄氏★	1点	
172	新井規矩雄氏愛用の帽子(緑)	1点	
173	新井規矩雄氏愛用の帽子(黒)	1点	
174	新井規矩雄氏使用クラブ(ドライバー)	1点	1980～1985年に使用
175	新井規矩雄氏使用クラブ(4番アイアン)	1点	〃
176	新井規矩雄氏使用クラブ(パター)	1点	1972年東海クラシック優勝のときのもの
177	プロ野球選手松原誠氏★	1点	
178	松原誠氏2000本安打達成記念カップ	1点	
179	バスケットボールオリンピック選手斉藤博氏★	1点	

〈映像〉第8回(昭和34年)・第56回(昭和56年)奥武蔵駅伝競走大会(撮影・編集 西野昭太郎)

収蔵品展

## 富山芳男寄贈作品展

期 間	平成12年4月29日(土)～5月14日(日)					
開館日数	13日					
入館者数	1,495人(1日平均 115.0人)					
展示点数	26点					
総費用	1,108,842円(入館者1人あたり 741.7円)					
(内 訳)	印刷費	309,750	資料運搬費	304,253	旅 費	35,200
	写真関係費	14,175	消耗品費	115,500	事務通信費	51,720
	展示委託料	273,324	賃 金	4,920		



展示風景(特別展示室)

### 1. 趣 旨

富山芳男画伯は、不変であるところのものの根源を画布に託す形で作品を発表してこられた。そしてその独特の芸術観と妥協しない精神は、名声や地位とは縁遠い孤高な画家というイメージを氏にもたらした。しかし、氏の作品は抽象画であるが故に敬遠されがちではあるが、そのイメージとは異なる強烈な個性、ひたむきで激しい意志の力に満ちており、作品の前に立って

みることによってそれは十分伝わってくる。

昨年、その富山画伯より作品88点が寄贈された。今回はこの中から具象から抽象への作風の変化を跡づけることができるものを選び展示することによって、富山芳男氏の思想や創作姿勢、そして作品の良さを理解してもらうことを目的とする。そうした中から現代社会で見失われつつあるものを読みとっていただければ幸いである。



展示風景（特別展示室）

## 2. 展示の構成

### I 富山芳男氏の思想

氏の創作テーマとその背景にある思想を氏の言葉から紹介した。

### II 富山芳男氏の作品

氏の作品を時系列で展示し、作風の変化を理解してもらった。

## 3. 印刷物

ポスター（B2版4色刷）……………300部  
パンフレット（A4版4色刷4ページ）…2,000部

## 4. 関連事業

なし

## 5. 評価

1年に春と秋の2回行っていた特別展のうち、春を収蔵品展として実施するようになってから2回目の今回は、平成11年4月に富山芳男画伯から寄贈された作品88点のうち、氏の画業を理解するために不可欠の作品26点を選び出し、展示したものである。

今回の会期は、ゴールデンウィークを中心とする14日間としたが、1日の入館者数を見ても決して多いといえるものではなかった。その理由として、一般的に日本人には抽象画は好まれない傾向にあることや、「孤高」ともいべき富山芳男

画伯の画家としてのあり方などが挙げられる。

また、富山画伯の作品は1回見ただけではなかなか理解するのが難しく、またポスターやマスコミによる周知の効果を考えると、2週間という展示期間は短すぎたともいえる。

ただ、作品そのものの力強さ、重厚さを感じとった人も決して少なくなく、「絵を見て感動した」、「存在感のある作家だ」との感想を耳にすることがあった。中には富山画伯について詳しく知りたい、と参考文献をコピーして帰る人の姿も見られた。考えに考え抜かれてキャンバスに油絵の具を塗り重ねていった氏の作品の素晴らしさを紹介する機会を今後も設けていく必要がある。

（職員による評価）



展示をご覧になる富山画伯

## ◆ 展示資料

No.	作 品 名	製 作	大 き さ	備 考
1	床の上の女	1948	193.0×95.5	昭和46年寄贈
2	裸 婦	1951	161.5×130.0	日展入選作品
3	黒い上衣	1958	M100(162.0×96.0)	
4	存在についての習作	1961	161.5×130.0	
5	存在についての習作	1963	161.5×130.0	
6	窓辺の胸像		P50(116.5×80.5)	
7	室 内	1977	P50(116.5×80.5)	
8	窓辺の静物	1977	F50(116.5×91.0)	
9	落 日	1977	F50(116.5×91.0)	
10	落 日		F50(116.5×91.0)	
11	静 物	1978	F50(116.5×91.0)	
12	栄光の形相	1981	P80(145.0×97.0)	
13	飯能自然	1990	F6(32.0×41.0)	
14	(無題)		P20(73.0×54.0)	
15	存在についての習作	1991	F4(33.5×24.5)	
16	存在についての習作	1991	F4(33.5×24.5)	
17	存在についての習作	1992	F6(32.0×41.0)	
18	樹 間		F6(41.0×32.0)	
19	存在についての習作		F10(53.0×45.0)	
20	存在についての習作	1993	P20(73.0×53.0)	
21	存在についての習作	1997	F20(73.0×61.0)	
22	存在についての習作	1997	F6(41.0×32.0)	
23	窓 外		F10(53.0×45.0)	
24	存在についての習作・飯能自然		F8(45.0×38.0)	
25	秋 緑	1998	F15(53.0×65.0)	
26	秋 緑	1998	F20(61.0×73.0)	

特別展

# 飯能、戦後の暮らし — 私たちを豊かにしたモノ —

期 間	平成12年10月3日(火)～12月3日(日)					
開館日数	52日					
入館者数	5,090人 (1日平均 97.9人)					
展示点数	326点					
総費用	2,431,767円 (入館者1人あたり 477.8円)					
(内 訳)	印刷費	1,233,805	資料保険代	1,000	食糧費	700
	写真関係費	57,675	消耗品費	50,666	旅費	18,600
	展示委託料	539,805	報償費	156,000	事務通信費	101,080
	資料運搬費	161,736	賃金	110,700		

## 1. 趣 旨

第2次世界大戦の終結から戦後復興期を経て経済成長の時代へという時代の流れの中で、人々の生活は大きく変化した。飯能市(昭和29年に市制施行)では、20年代から30年初頭の戦後復興期には財政が逼迫し、住民の生活も苦しい状態が続いていたが、その中でも文化活動が活発に行われるなど、人々は戦後復興に向けて必死に日々の生活を営んでいた。30年代には景気の上昇と共に、人々の生活にも余裕が生じ、「三種の神器」と呼ばれたテレビ・洗濯機・冷蔵庫などの電化製品が次第に普及し始めた。

戦後50年以上を経た現在、復興期の生活や現在にいたる道のりの記憶は微かなものとなりつつある。今振り返らなければ記憶も物もすっかり失われてしまうだろう。このような生活の変化を、市民の皆様がお持ちの様々な生活道具やおもちゃなどにより辿りたいと考えた。

## 2. 展示の構成

### プロローグ

導入部として、昭和20年代と昭和40年代以降の生活道具を、その変化が一目で分かるように比較展示した。なお、この部分は市民学芸員を主体として行った。



展示風景 (展示ホール)

### I 復興期の暮らし (昭和20年代)

#### (1) 生活の様子と代用品

当時の生活の様子を表現するため、茶の間の風景をモチーフとして火鉢、ちゃぶ台、おひつなど様々な生活道具を展示した。また、パン焼き器やタバコ巻き器、ジュラルミン製の代用品なども展示し、復興期の時代の様相を示した。

#### (2) 学校と子どもの生活

子どもの生活において大きな割合を占める学校生活と遊び、娯楽について、学校の机と椅子、学童用品やめんこ、羽子板などを展示し、当時の状況を振り返った。



展示風景（特別展示室）



講演会「電化時代の幕開け」

## Ⅱ 経済成長の時代（昭和30～40年代）

### （1）電化製品の登場とその後の変化

テレビ、冷蔵庫、洗濯機の「三種の神器」を中心に、数多く生み出された種々の電化製品を紹介し、それぞれが改良され、変化する様子を辿った。

### （2）生活と流行

レコードや雑誌、ファッションなどから、この時代の風俗や流行の様子を見てもらうとともに、生活に多少の余裕が出てきたことを8mmカメラやハーフサイズカメラなどの資料により示した。

### （3）変わる子どもの世界

おもちゃの材質が木や紙、セルロイドからビニールやプラスチックへと変わり、アニメキャラクターが人気の的となるなど、変化する子どもの世界をのぞいた。

## Ⅲ 多様化する社会（昭和50年代～現在）

### （1）電子機器の発達

電子化が進んだ様子を、ワープロ・パソコンなど、この時期に発達・普及した電子機器により振り返った。

### （2）社会と子どもの世界

新しいアニメキャラクターやコンピューターゲームの登場など、社会を反映した子どもたちの世界の変化を辿った。

### エピローグ（北コーナー）

戦後を最も象徴する生活道具であるテレビや電子レンジ、電気釜などの電化製品を一堂に展示し、戦後の生活様式の変化を示した。このコーナーもプロローグ同様、市民学芸員の手により展示を行

った。

※エピローグの資料について、来館者にその道具に関する思い出や使い方などを書いていただき、それをボードに貼りだし、資料に生活感を持たせるとともに、来館者同士の情報の共有化ができるようにした。

## 3. 印刷物

ポスター（B2版4色刷）……………300部  
 ちらし（A4版両面4色刷）……………3,000部  
 展示図録（A4版4色刷48ページ）……………1,000部

## 4. 関連行事

### ◎朗読会「言葉で味わう少し昔」

日 時 平成12年10月15日（日）・22日（日）  
 いずれも午後2時～

講 師 小島由紀子氏

会 場 当館学習研修室

参加者 10月15日…16人、22日…12人

### ◎講演会「電化時代の幕開け」

日 時 平成12年11月19日（日）午後2時～

講 師 小泉和子氏（昭和のくらし博物館館長）

会 場 当館学習研修室

参加者 13人

### ◎体験学習「戦後のくらし体験教室」

日 時 平成12年11月3日（金）・12日（日）

いずれも午前10時30分～・午後2時～

会 場 当館学習研修室・正面玄関脇



参加者 11月3日…29人、12日…48人

◎展示解説（プロローグ部）

日時 平成12年10月8日（日）・9日（月）・29日（日）・11月5日（日）・23日（木）・26日（日）・12月3日（日）

いずれも午後2時～・午後3時～

講師 市民学芸員

参加者 10月8日…6人、9日…10人、29日…9人  
11月5日…7人、23日…13人、26日…13人  
12月3日…8人

◎展示解説

（Ⅰ復興期の暮らし～Ⅲ多様化する社会）

日時 平成12年10月29日（日）・11月23日（木）

いずれも午前10時30分～

講師 有馬雅彦（当館学芸員）

参加者 10月29日…5人、11月23日…3人

5. 企画委員

石森実三氏・大迫政子氏・木川澄枝氏・木嶋みどり氏・児嶋雅子氏・小南和子氏・穂波理枝氏・三山芳夫氏・本橋さおり氏（以上市民学芸員）

※ 市民学芸員実習の一環として参加いただいた。

6. 評価

今回の展示は、戦後復興期から現在に至るまでの暮らしの変化を、生活道具を中心にして振

り返るといった内容だったが、飯能の地域性や特色を表現するには至らなかった。確かに戦後は人々の生活が画一化された時代であるので、山間部も町中も生活の基本的な部分はあまり変化がなく、地域性や特色を表現するのは難しいともいえるが、たとえ一部でも飯能らしさを出せたら良かったのではないかと思われた（もちろん飯能について何の記述もなかったわけではなく、その時代の飯能をうかがう資料として当時の写真や年表を用いたが、それだけでは不足だった）。また、展示の手法が単調で、資料を配置するということまでで終わってしまった感もあった。トピック的なものや体験コーナーなどを設けて、展示にメリハリをつけることができたなら良かった。さらにPRも（特に関連事業に関して）もっと積極的に行うべきだった。

来館者の感想は「なつかしい」というものが最も多く、評価は必ずしも悪くはなかったようである。中には「現在を見つめ直した」という感想もわずかながらあり、目標の一部は達成できたともいえる。ただ、全体的に見ると、「飯能の戦後とはどういうものだったのか」と「戦後を振り返ることを通して現在・未来をみつめる」というメッセージが弱かったと思われる。

（担当者による評価）

◆ 展示資料

★印=写真資料

	No.	資料名	点数	年代	備考
昭和20年代 プロローグ	1	たらい	1点		当館所蔵
	2	洗濯板	1点		当館所蔵
	3	臼	1点		当館所蔵
	4	杵	1点		当館所蔵
	5	ほうき	1点		当館所蔵
	6	はたき	1点		当館所蔵
	7	すり鉢	1点		当館所蔵
	8	搗り粉木	1点		当館所蔵
	9	火消し壺	1点		当館所蔵
	10	ほうろく	1点		当館所蔵
	11	火のし	1点		当館所蔵
	12	あんか	1点		当館所蔵
	13	炭火はこび	1点		当館所蔵
	14	羽釜	1点		当館所蔵
	15	うちわ	1点		当館所蔵
	16	ちゃぶ台	1点		当館所蔵
	17	そろばん	1点		当館所蔵

	No.	資料名	点数	年代	備考
昭和20年代	18	計算尺	1点	昭和30年頃	
	19	えんぴつ	2点		
	20	2眼レフカメラ	1点		当館所蔵
	21	ポータブル蓄音機	1点		NITTIKU
	22	火鉢	1点		当館所蔵
	23	火箸	1点		当館所蔵
	24	おひつ	1点		当館所蔵
	25	おひつ入れ	1点		当館所蔵
	26	茶筌筥	1点		当館所蔵
	27	真空管式ラジオ	1点	昭和10~25年頃	
プロローグ	28	蠅帳	1点	昭和20年代	
	29	電気餅つき機	1点	昭和57,8年頃	國光社
	30	タイプライター	1点		ブラザー工業
	31	ワードプロセッサ (OASYS)	1点	昭和59年頃	富士通、当館所蔵
	32	白黒テレビ	1点	昭和53年	サンヨー
	33	電子レンジ	1点		東芝
	34	強制給排気式石油ストーブ	1点	昭和55年	東芝
	35	電気洗濯機 (2槽式)	1点		東芝
	36	電気冷蔵庫 (2ドア式)	1点	昭和47年頃	松下電器産業
	37	電気掃除機	1点	昭和50年頃	サンヨー
	38	電気アイロン	1点		松下電器産業
	39	スチームアイロン	1点	昭和47年頃	松下電器産業
	40	電気足温器	1点		松下電器産業
	41	電気扇風機	1点	昭和46年	松下電器産業
	42	テーブル	1点	昭和40年代	戸田市立郷土博物館所蔵
	43	イス	2点	昭和40年代	戸田市立郷土博物館所蔵
	44	食器棚	1点	昭和40年代	戸田市立郷土博物館所蔵
	45	電子計算機	1点		キャノン、当館所蔵
	46	8ミリカメラ	1点		エルモ、当館所蔵
	47	ミキサー	1点	昭和30年頃	松下電器産業
48	電気釜	1点		東芝	
49	電子ジャー	1点	昭和40年代	ダイヤ魔法瓶工業	
I 復興期のくらし (1) 生活の様子と代用品	50	火鉢	1点		当館所蔵
	51	火箸	1点		当館所蔵
	52	火消し壺	1点		当館所蔵
	53	炭火はこび	1点		当館所蔵
	54	おひつ	1点		当館所蔵
	55	おひつ入れ	1点		当館所蔵
	56	羽釜	1点		当館所蔵
	57	鍋	1点		当館所蔵
	58	粉挽き機	1点	昭和13年頃~戦後	
	59	ちゃぶ台	1点		当館所蔵
	60	箸	2点		当館所蔵
	61	ご飯茶碗	2点		当館所蔵
	62	やかん	1点	昭和20年	
	63	たんす	1点		当館所蔵
	64	真空管式ラジオ	1点		ナナオラ
	65	掛け時計	1点	昭和27年	明治時計
	66	掛け時計	1点		セイコー
	67	蒸し釜	1点	昭和34年頃	
	68	ポータブル蓄音機	1点		コロムビア
	69	米麦配給所看板	1点	昭和13年~26年	
	70	掛け時計	1点	昭和24年	愛知時計電気
	71	パン焼き器	1点		当館所蔵

No.	資料名	点数	年代	備考
72	タバコ巻き器	1点		当館所蔵
73	洋服（上着）	1点	昭和25～29年頃	
74	つけ木	8点		
75	貨幣（50銭）	6点	昭和21～23年	
76	貨幣（5銭）	6点	昭和21年	
77	学帽（亜細亜大学）	1点	昭和20年代	
78	火鉢	1点	昭和20年代	
79	炭火アイロン	1点	昭和20年代	
80	鉄瓶	1点	昭和20年代	
81	陶製お供え餅（大・小）	2点		
82	陶製お供え餅（大・小）	2点		
83	大通り商店街★	1点	昭和20年代	
84	大通り商店街★	1点	昭和20年代	
85	銀座通り★	1点	昭和26年	
86	大通り商店街のネオンアーチ★	1点	昭和27年	
87	銀座通り★	1点	昭和29年	
88	寄付者芳名札	1点	昭和23年	当館所蔵
89	寄付者芳名札	1点	昭和24年	当館所蔵
90	小学校の机	1点		吾野小学校で使用、当館所蔵
91	小学校の椅子	2点		吾野小学校で使用、当館所蔵
92	暫定教科書「初等科算数 7 第六学年前期用」	1点	昭和21年	当館所蔵
93	暫定教科書「初等科国語 7 第六学年前期用」	1点	昭和21年	当館所蔵
94	暫定教科書「中等数学（一）」	1点	昭和21年	当館所蔵
95	暫定教科書「英語 1 高等女学校用」	1点	昭和21年	当館所蔵
96	組み立て式弁当箱（アルミ製）	1点	昭和20年頃	
97	筆箱（アルミ製）	1点	昭和20年頃	
98	筆箱（紙製）	1点	昭和19年	
99	背のう	1点	昭和20年代	
100	肩掛けかばん	1点	昭和20年代	
101	鯉のぼり	1点	昭和23年	
102	小さな紙芝居（紙芝居と写し絵）	4点	昭和20年代	
103	めんこ（角形）	1式	昭和32年頃	
104	めんこ（丸形）	1式		
105	めんこ（丸形、箱入り）	1式	昭和35年頃	
106	羽子板	1点	昭和25～30年頃	
107	羽子板	1点	昭和48年頃	
108	羽根	2点		
109	カタカタ	1点		
110	コリントゲーム	1点		
111	飯能第一小学校の授業風景★	1点	昭和25年	
112	学芸会★	1点	昭和25年	
113	品定め（中山の天神様の祭礼にて）★	1点	昭和25年頃	
114	山の家ドライブイン（天覧山下の茶店）★	1点	昭和29年4月	
115	手回し洗濯機	1点	昭和20年代？	
116	手回し洗濯機	1点		
117	電気洗濯機（攪拌式、脱水ローラー付）	1点	昭和31年	三菱、川越市立博物館所蔵
118	電気洗濯機（うず巻式、脱水ローラー付）	1点	昭和35年頃	日立
119	氷式冷蔵庫	1点		ダイヤ冷蔵庫、当館所蔵
120	電気冷蔵庫（1ドア式）	1点		日立
121	電気釜	1点	昭和30年代	東芝

（1）生活の様子と代用品

I 復興期のくらし

（2）学校と子どもの生活

No.	資料名	点数	年代	備考
122	電気釜	1点	昭和32年代	三菱
123	電気釜（保温機能付）	1点		三菱
124	電気釜（保温機能付）	1点		日立
125	ジャー	1点	昭和34年頃	ナショナル魔法瓶工業
126	電子ジャー	1点	昭和40年代	象印マホービン
127	電気ごて	1点		松下電器産業
128	電気アイロン	1点	昭和20年代	三菱
129	電気アイロン	1点	昭和35年頃	松下電器産業
130	電気アイロン	1点	昭和30年代?	東芝
131	電気アイロン	1点		東芝
132	電気アイロン	1点		東芝
133	電気アイロン	1点	昭和35年頃	松下電器産業
134	電気アイロン	1点		サンヨー
135	電気アイロン	1点		三菱
136	スチームアイロン	1点	昭和41、2年頃	ホーム電機工業
137	スチームアイロン	1点	昭和40年頃	松下電器産業
138	スチームアイロン	1点	昭和50年代	サンヨー
139	計算尺	1点		
140	計算尺	1点		
141	計算尺（丸形）	1点		
142	手回し式計算機	1点	昭和40年代	TIGER CALCULATING MACHINE CO. LTD
143	電動計算機（CONTEX-55）	1点	昭和40年代	A/S BRDR. CARLSEN（デンマーク製）
144	電子計算機	1点		東芝
145	電子計算機	1点		シャープ
146	豆炭あんか	1点	昭和30年頃	ミツウロコ
147	電気あんか	1点	昭和35年頃	松下電器産業
148	電気ファンヒーター	1点		松下電器産業
149	電気足温器	1点	昭和47年頃	松下電器産業
150	電子レンジ	1点		東芝
151	電子レンジ	1点		松下電器産業
152	白黒テレビ（真空管式）	1点	昭和35年頃	サンヨー
153	カラーテレビ（真空管式）	1点	昭和40年頃	ビクター
154	カラーテレビ（真空管式）	1点	昭和45年頃	東芝
155	カラーテレビ（ICトランジスタ式）	1点	昭和50年	東芝
156	カラーテレビ（タッチチャンネル式）	1点	昭和55年	東芝
157	カラーテレビ（タッチチャンネル式）	1点	昭和55年	東芝
158	カラーテレビ（リモコン式）	1点		東芝
159	扇風機	1点	昭和29年	松下電器産業
160	扇風機	1点		松下電器産業
161	扇風機	1点		日立
162	扇風機	1点		日立
163	扇風機	1点	昭和20年代?	日立
164	電気掃除機（ポット型）	1点	昭和30年代	三菱
165	電気掃除機（ポット型）	1点		日立
166	自動トースター	1点		日立
167	極超短波簡易無線電話装置	1点	昭和34年	松下通信工業
168	パイプレーター	1点	昭和35年	松下電器産業
169	電気オープン	1点	昭和36年	松下電器産業
170	テーブルグリル	1点		東芝
171	電話（テレホンスピーカー）	1点		松下通信工業
172	真空管式ラジオ	1点	昭和38年	サンヨー

Ⅱ 経済成長の時代  
 (1) 電化製品の登場とその後の変化

No.	資料名	点数	年代	備考
173	壁掛けラジオ	1点	昭和35年	東芝
174	たらいで洗濯★	1点	昭和30年代	
175	飯能市街地空撮★	1点	昭和46年2月14日	
176	雨だれ荘★	1点	昭和39年3月	
177	月光仮面のパレード★	1点	昭和34年	
178	原市場のメインストリート★	1点	昭和39年6月	
179	暮れの餅つき★	1点	昭和30年代	
180	ハイヒール	1点	昭和40年頃	
181	コーセー化粧品広報誌『カトリア』1971年6月号	1点	昭和46年	
182	コーセー化粧品広報誌『カトリア』1971年8月号	1点	昭和46年	
183	『週刊平凡』5月12日号	1点	昭和41年	平凡出版
184	『春の流行スタイル集』	1点	昭和37年	『主婦の友』4月号付録
185	『夏の流行スタイルブック』	1点	昭和38年	『主婦の友』6月特大号付録
186	レコード「さすらい月」	1点		菅原ツツ子
187	レコード「佐渡ヶ島悲歌」	1点		菅原都々子
188	レコード「ブルー・タンゴ」	1点		ペギー葉山
189	レコード「イエスタデイ」	1点		ザ・ビートルズ
190	レコード「レッツゴー！シェイク」	1点		寺内タケシとパニーズ
191	レコード「愛するアニタ」	1点		ザ・ワイルド・ワンズ
192	レコード「風が泣いている」	1点		ザ・スパイダース
193	レコード「愛して愛して愛しちゃったのよ」	1点		和田弘とマヒナスターズ
194	レコード「モナリザの微笑」	1点		ザ・タイガース
195	レコード「こんにちは赤ちゃん」	1点		梓みちよ
196	『歌のアルバム』	1点	昭和31年	『少女ブック』12月号付録
197	『あなたとうたう歌のホームラン』	1点	昭和35年	『明星』9月号付録
198	『歌うハイ・ウェイ』	1点	昭和36年	『明星』11月号付録
199	腕時計(セイコースポーツマチックファイブ)	1点	昭和38年	セイコー
200	腕時計(セイコースカイライナー)	1点	昭和30年代後半	セイコー
201	8ミリカメラ(フジカシングル-8Z600)	1点		富士写真フィルム
202	8ミリ映写機 (dualux-8)	1点		SANKYO SEIKI MFG. CO.LTD
203	スライド映写機	1点	昭和35年頃	ワルツ
204	スライド映写機	1点		千代田光学精工
205	カメラ (オリンパスペンW)	1点		オリンパス光学工業
206	カメラ (オリンパスペンEES-2)	1点	昭和3年頃	オリンパス光学工業
207	スチール製おもちゃ (新幹線)	1点		
208	スチール製おもちゃ (観光バス)	1点		
209	西武駅前交番★	1点	昭和40年1月	
210	飯能駅前の人通り★	1点	昭和48年11月	
211	覧山荘前★	1点	昭和40年3月28日	
212	飯能河原観光道路★	1点	昭和44年7月	
213	ダッコちゃん人形	1点	昭和35年頃	ツクダ
214	フラフープ (黄色)	1点		
215	フラフープ (青と白)	1点		
216	紙のお面	2点		
217	セルロイドのお面	2点	昭和30年代	
218	『月刊少年サンデー おそ松くん特集』	1点	昭和30年代?	小学館
219	『月刊少年サンデー おそ松くん特集』	1点	昭和41年	小学館
220	『スポーツマン金太郎』1、2巻	2点	昭和42年	講談社
221	虫プロの鉄腕アトムかるた	1式	昭和35年	KOIDE SHINKOSHA (信宏社)
222	西武秩父線開通★	1点		
223	飯能市公会堂★	1点	昭和44年10月13日	

II 経済成長の時代

(2) 生活と流行

(3) 変わる子どもたちの世界

No.	資料名	点数	年代	備考
224	さよなら蒸気機関車★	1点	昭和35年頃	
225	図書館内の風景★	1点	昭和45年10月	
226	『学習画報』6月号	1点	昭和49年2月	世界文化社
227	『学習画報』11月号	1点	昭和36年	世界文化社
228	アニメキャラクタースケッチブック(アタックNo.1)	1点	昭和37年	
229	アニメキャラクターノート(あしたのジョー)	1点		
230	アニメキャラクターノート(巨人の星)	1点		
231	アニメキャラクターノート(ジョアンナ)	1点		
232	アニメキャラクターノート(テレビマンガ大行進)	1点		
233	アニメキャラクターノート(ハクション大魔王)	1点		
234	アニメキャラクターノート(チビらくん)	1点		
235	アニメキャラクターノート(金メダルへのターン!)	1点		
236	かあさん屋下じき	1点		
237	怪獣下じき	1点		
238	おしゃれ下じき	1点		
239	アニメキャラクターを使った子供靴の宣伝広告	1点		店頭用、ビニール製
240	野球盤	1点		エポック社
241	ベースボールマシン	1点	昭和40年代後半	エポック社
242	サッカーゲーム	1点		エポック社
243	サッカーゲーム(スーパーサッカー)	1点		エポック社
244	ボーリングゲーム(パーフェクトボーリング)	1点		エポック社
245	おもちゃ(ジェットコースター)	1点		当館所蔵
246	将棋(デラックス ミサイル行軍)	2点		当館所蔵
247	ハチャライトカメラ	3点		当館所蔵
248	おもちゃ(ラプリーレジスター)	1点		当館所蔵
249	おもちゃ(ハイフレッシュポータブルルームクーラー)	1点		米澤玩具、当館所蔵
250	ジュニアオセロゲーム	1式		ツクダオリジナル、当館所蔵
251	仮面ライダーXスペースガン	1点		当館所蔵
252	マンガかるた	2点		キング、当館所蔵
253	よい子のおともだちかるた	2点		キング、当館所蔵
254	探偵シリーズかるた	2点		キング、当館所蔵
255	犬樺かるた	2点		キング、当館所蔵
256	童話かるた	2点		キング、当館所蔵
257	動物の人形	4点		ビニール袋入り、当館所蔵
258	おもちゃの拳銃	1点		当館所蔵
259	おもちゃの拳銃	1点		JATIMATIC SMG、当館所蔵
260	紋合せあそび	20点		当館所蔵
261	模型飛行機	3点		東京号、当館所蔵
262	パチンコ	2点		プラスチック製、当館所蔵
263	おもちゃの電話	1点		当館所蔵
264	おもちゃ(SPACE SHIP)	1点		当館所蔵
265	おもちゃの刀	3点		当館所蔵
266	赤ちゃんの人形	1点		当館所蔵
267	ベビーヘリコプター	12点		台紙付、当館所蔵
268	ゴールドンおもちゃセット(ソアラ円盤)	12点		台紙付、当館所蔵
269	ビデオカメラ	1点	昭和61年	日立
270	ワードプロセッサ(デスクワードSILVER REED)	1点	昭和60年頃	セイコー、当館所蔵
271	ワードプロセッサ(文豪mini?)	1点	昭和59年頃	日本電気
272	パーソナルコンピューター(MZ-2000)	1点	昭和50年代	シャープ
273	パーソナルコンピューター(PC-9801RX)	1点	平成2年	日本電気、当館所蔵
274	ヘッドホンステレオ(ウォークマン)	1点		ソニー

II (3) 変わる子どもの世界  
経済成長の時代

III (1) 電子機器の発達  
多様化する社会

	No.	資料名	点数	年代	備考
Ⅲ 多様化する社会 (2) 社会と子どもの世界	275	CDプレーヤー (ディスクマン)	1点		ソニー
	276	携帯電話	1点		ツーカーセルラー東京
	277	LSIゲーム (フロッガー)	1点		学研
	278	LSIゲーム (FLクレイジークライミング)	1点		バンダイ
	279	ファミリー・コンピューター	1点		任天堂
	280	スーパーファミコン	1点		任天堂
	281	「世界の名車」アルバム	2点		
	282	ベースボールカードアルバム	1点		
	283	プロ野球アルバム	1点		
	284	アニメキャラクターなどのシール (売りのもの)	5点		「機動戦士ガンダム」など
	285	アニメキャラクターのポスター	1点		「機動戦士ガンダム」
	286	アニメキャラクターの下じき	1点		「機動戦士ガンダム」
	287	まんが『ドラえもん』1~6巻、18~20巻	9点	昭和54~46年	小学館
	288	お面	3点		ドナルドダックなど
	289	人形 (キャンディ・キャンディ)	1点	昭和56~57年	
	290	人形 (アラレちゃん)	1点		
	291	高麗川で投網★	1点	昭和50年7月	
	292	麦わら屋根の民家★	1点	昭和50年12月	
	293	飯能駅北口★	1点	昭和55年	
	294	天覧山下★	1点	昭和61年4月	
295	建設中の飯能大橋★	1点	昭和63年5月1日		
エピソード	296	白黒テレビ (ICトランジスタ式)	1点	昭和48年	松下電器産業
	297	白黒テレビ (ICトランジスタ式)	1点	昭和51年	松下電器産業
	298	白黒テレビ (ICトランジスタ式)	1点	昭和54年	東芝
	299	カラーテレビ	1点	昭和55年頃	三菱
	300	白黒テレビ	1点	昭和54年	シャープ
	301	カラーテレビ	1点	昭和51年	松下電器産業
	302	白黒テレビ	1点	昭和42~43年	日立
	303	白黒テレビ (ICトランジスタ式)	1点	昭和49年	松下電器産業
	304	カラーテレビ (ICトランジスタ式)	1点		東芝
	305	カラーテレビ (タッチチャンネル式)	1点	昭和57年	日立
	306	白黒テレビ (真空管式)	1点	昭和34年頃	松下電器産業
	307	カラーテレビ (タッチチャンネル式)	1点	昭和58年	松下電器産業
	308	カラーテレビ (タッチチャンネル式)	1点	昭和55年	東芝
	309	真空管式ラジオ	1点	昭和29年頃	サンヨー
	310	真空管式ラジオ	1点	昭和25~30年頃	三菱
	311	ステレオ (レコードプレーヤー・ラジオ)	1式	昭和35年頃	コロムビア
	312	ステレオ (チューナー・アンプ・スピーカー2台)	1式		サンスイ
	313	真空管式ラジオ (チューナー・アンプ)	1式	昭和40年代	松下電器産業
	314	扇風機	1点	昭和40年代	日立
	315	電子レンジ	1点	昭和45年頃	東芝
316	電子レンジ	1点	昭和47,8年頃	シャープ	
317	電子レンジ	1点	昭和53年頃	東芝	
318	電気釜	1点		東芝	
319	電気釜	1点	昭和38年頃	東芝	
320	ジャー	1点	昭和44年頃	ピーコック魔法瓶工業	
321	ミキサー	1点	昭和46,7年	東芝	
322	電気アイロン	1点	昭和26年	SANSIN ELECTRIC CO.LTD	
その他	323	真空管式ラジオ	1点		ナナオラ
	324	真空管	3点		
	325	トランジスタラジオ	1点		ソニー
	326	スバル360スーパーデラックス	1点	昭和43年型	富士重工業

収蔵品展

## 郷土館で絵を愉しむ

期 間	平成13年4月28日(土)～5月27日(日)		
開館日数	26日		
入館者数	3,359人(1日平均 129.2人)		
展示点数	42点		
総費用	502,015円(入館者1人あたり 741.7円)		
(内 訳)	印刷費 322,200	消耗品等 37,978	事務通信費 53,650
	写真関係費 4,037	報 償 費 10,000	
	展示委託料 57,750	賃 金 16,400	

展  
示

展示風景

## 1. 趣 旨

当館の主な収集資料は歴史資料であるが、寄贈により収蔵するに至った絵画も480点以上(平成12年3月31日現在で482点)ある。

これまでも収蔵品展として「白木正一・早瀬龍江寄贈作品展」、「富山芳男寄贈作品展」等を開催し、収蔵品の中でも普段展示する機会の少ない絵画作品を、市民の方々に紹介してきた。

今回は今までに展示していない作品を中心に展示するが、美術館やギャラリーとは違う、身近な博物館としての当館の役割を考慮し、美術的絵画だけではなく、郷土かるたの絵なども展示し、これ

らの絵を通じて郷土や歴史にも関心を深めてもらう。また、作品を通じて表現力や想像力を刺激し、さらに来館者の方にも気軽に参加していただける展示を試みてみたい。

## 2. 展示の構成

## I 水彩画を愉しむ

- (1) 路傍の風景～小島喜八郎氏のスケッチ  
市内の水彩スケッチ13点ほかを展示した。
- (2) 柳井愛子氏、児嶋邦三氏の水彩画
- (3) スケッチしてみよう～来館者参加コーナー



スケッチブックや水彩絵の具等を用意しておき、郷土館内や郷土館から見える景色を来館者に自由にスケッチしてもらった。

## Ⅱ 飯能と歴史を描く

### (1) 時間・空間・飯能を遊ぶ

～三枝愛彦氏のかるた絵

飯能郷土史かるた原画（昭和58年制作原画のコピーに改めて彩色したもの）44点ほかを展示した。

### (2) 飯能市史原稿より

飯能市史に掲載された挿し絵、図などの原画を展示した。

### (3) 飯能郷土史かるた、飯能名所すごろくで遊ぼう

～来館者参加コーナー

## Ⅲ 夢を描く

### (1) 夢を描く～黒田幹太郎氏の油彩画ほか

### (2) 楽しい空間であそぼう

A ちいさいとびだしえほんプレゼント

B 楽しいちっちゃい夢を見よう

大きさがバラバラのボードマットを置いておき、来館者に自由に絵を描いてもらい、床にならべた。



「飯能かるた、飯能名所すごろくで遊ぼう」

## 3. 印刷物

ポスター（B2版4色刷）…………… 300部

リーフレット（A4版4色刷4ページ）… 2,000部

## 4. 関連事業

### ◎スケッチ教室

日 時 平成13年5月12日（土）午後1時30分～

講 師 小島喜八郎氏

会 場 当館学習研修室

参加者 15人

### ◎ぼくにぺた！きみにぺたぺた！

日 時 平成13年5月20日（日）午前9時30分～



「ぼくにぺた！きみにぺたぺた！」

講 師 小島みほ氏

会 場 当館学習研修室

参加者 17人

### ◎イラスト教室～郷土かるたを描いてみよう！

日 時 平成13年5月26日（土）午後2時～

講 師 三枝愛彦氏

参加者 5人

## 5. 評価

今回の展示作品は水彩画が多かったため、ボリュームは少なかったが、その分親しみやすい雰囲気強調した。また来館者にもその場で絵を描いてもらい、絵を見るだけでなく、描くことも愉しんでもらう、という絵画展を是非やってみたかったが、「作品を汚されるのではないか」という懸念から難しい面はあった。しかしボードマットの廃材を利用するというアイデアを得ることができ、これが大きさ、描きやすさ共にちょうど良いキャンバスとなり、描いた絵を並べるコーナーには置ききれない程の絵が集まった。そして展示作品を汚される被害は全く無かった。来館者にはねらいどおりに絵を愉んでもらえたと、ある程度の確信は持てる結果となった。

また、塗り絵をして自分で作るミニ絵本や飛び出し絵本などを画用紙に印刷し、作業台を用意しておいたところ、小さい子どもも熱心に作って愉しんでいた。

まだまだ工夫すべき点はあるが、展示や会場の雰囲気をおして、来館者の「積極的に楽しむ」気持ちを引き出す方法を、これからも考えていけたらと思う。

（担当者による評価）

◆ 展示資料  
(収蔵品)

No.	作品名	種別	作者	備考
1	旧市役所 (1974年当時)	水彩	小島 喜八郎	
2	久下稻荷踏切 (1975年当時)	水彩	小島 喜八郎	
3	飯能織物協同組合 (1975年当時)	水彩	小島 喜八郎	
4	井上酒造 (1980年夏)	水彩	小島 喜八郎	
5	飯能光機 (1982年)	水彩	小島 喜八郎	
6	広小路 (1986年当時)	水彩	小島 喜八郎	
7	東飯能駅 (1988年当時)	水彩	小島 喜八郎	
8	残った水木 (1987年と1995年)	水彩	小島 喜八郎	
9	星野商事 (1995年)	水彩	小島 喜八郎	
10	築地(檜)の家 (1995年)	水彩	小島 喜八郎	
11	駅への道 (2000年)	水彩	小島 喜八郎	
12	T字路にある製材所 (2000年)	水彩	小島 喜八郎	
13	飯能市郷土館 (1990年)	水彩	小島 喜八郎	
14	草と干支シリーズ・12色 (版画) (1990~2001年)	版画	小島 喜八郎	
15	秋草の図	水彩	柳井 愛子	
16	桃	水彩	柳井 愛子	
17	秋近く	水彩	柳井 愛子	
18	阿須河原	水彩	児嶋 邦三	
19	開業当時の東飯能駅舎 (西側より)	水彩	児嶋 邦三	
20	飯能郷土史かるた原画 (44枚)	水彩	三枝 愛彦	昭和58年に制作の後、改めて彩色
21	古代の阿須	墨	吉田 行男	
22	『飯能市史(資料編)』原稿 指定文化財位置図 1-東部	墨	町田 多加次	I 文化財
23	指定文化財位置図 2-西部	墨	町田 多加次	I 文化財
24	わたしたちの先祖のくらしに深いかかわりのあった、いろいろな植物	墨	町田 多加次	II 飯能の自然 (植物)
25	検地之図	墨	町田 多加次	VII 近世文書
26	高礼場之図	墨	町田 多加次	VIII 近世文書
27	飯能の産業	墨	三枝 愛彦	X 産業
28	子どものロマン	油彩	黒田 幹太郎	
29	はなと少女と小鳥	油彩	黒田 幹太郎	
30	温閑	油彩	黒田 幹太郎	
31	半透明の妖韻	油彩	黒田 幹太郎	
32	飯能の緑と清流に憩う (12枚)	水彩	黒田 幹太郎	絵はがき原画
33	関東ふれあいの道グリーンライン (5枚)	水彩	黒田 幹太郎	絵はがき原画
34	三仏 (西川額)	版画	黒田 幹太郎	額デザイン黒田氏 制作井上淳治氏
35	感性磨いて光り輝やく (西川額)	墨	黒田 幹太郎	◇
36	ほほえみ合掌幸福来たる (西川額)	水彩	黒田 幹太郎	◇
37	読書三昧 (西川額)	版画	黒田 幹太郎	◇
38	環境良好育くむ年輪 (西川額)	水彩	黒田 幹太郎	◇

(借用分)

No.	作品名	種別	作者	備考
1	風景	油彩	小島 喜八郎	小島氏より借用
2	夏休みだーい	油彩	三枝 愛彦	三枝氏より借用
3	平和日記2001 愛・夢・希望	油彩	黒田 幹太郎	黒田氏より借用
4	漁港の朝	油彩	黒田 幹太郎	秘書課より借用

## 黎明のとき —飯能焼・原窯からの発信—

期 間	平成13年10月14日(土)～12月2日(日)					
開館日数	42日					
入館者数	5,370人 (1日平均 127.9人)					
展示点数	408点					
総費用	3,639,845円 (入館者1人あたり 677.8円)					
(内 訳)	印刷費	1,743,840	資料運搬費	380,096	旅 費	160,600
	写真関係費	191,079	報 償 費	180,200	事務通信費	156,260
	展示委託料	451,500	賃 金	275,520	消耗品費	100,750



展示風景 (展示ホール)

### 1. 趣 旨

飯能焼は「飯能」と名の付く数少ない文化財であるが、これまでともすればその良さ(特に絵付け)を強調するあまり、他産地の製品との比較をおざなりにした独善的な評価に陥っていたり、またイッチン描があれば飯能焼という一面のみを強調した思い入れがあったように感じられる。

そうした中、平成6年に原窯跡が埋蔵文化財の包蔵地として認められ、発掘調査が行われるようになると、伝世資料の範囲を超える器種、絵付けを確認するに至り、これまで市民が抱いていた飯能焼のイメージを大きく変えるほどの成果を上げている。

そこで、その成果を市民に公開することにより飯能焼に対する理解を一層深めていただくと同時に、他産地製品との比較を通してそれを評価し、地域資源として認識していただくきっかけとしたい。合わせて、日々の生活の中で使われていた飯能焼が市民の手によって収集保存され、やがては指定文化財となっていく経緯を振り返ることで、身近なものを新たな

価値観をもって見直すことの大切さを訴えたい。

### 2. 展示の構成

#### I 原のやきもの (飯能焼・原窯からの発信)

発掘調査によって明らかとなった飯能焼原窯の生産器種のバリエーションや胎土、釉薬の特徴などを分類して展示し、最新の「飯能焼」像を示した。

#### II 飯能焼その時代

##### (1) 消費地で確認された飯能焼

大消費地である江戸及び川越、青梅、八王子など近隣で発掘された原窯製品を紹介し、その傾向を示すとともに、生産地(原窯)で見られなかった製品や廃棄された年代が判明する事例を紹介した。

##### (2) イッチン描と飯能焼

飯能焼の一番の特徴であるイッチン描は、江戸後期には全国の陶磁器生産地で用いられた絵付け技法の一つである。その技法の広がりや把握するとともに、飯能焼の絵付けと他産地の絵付けの違いを比較することによって、飯能焼の優れている点を実感してもらった。

#### III 飯能焼と現在

日常雑器として身近に使われていたやきものがその価値を見出され、市指定文化財となるまでの経緯を示し、合わせて飯能焼の復活を目指して飯能に窯を開いた虎澤英雄氏と岸道生氏の作品やその思いを展示した。

### 3. 印刷物

ポスター(B2版4色刷)……………400部  
 ちらし(A4版4色刷2ページ)……………4,000部  
 展示図録(A4版4色刷88ページ)……………1,000部



体験学習会「イッチン描に挑戦！」



原窯出土資料公開「手のひらで感じる飯能焼」

#### 4. 関連事業

##### ◎体験学習会「イッチン描に挑戦！」

日時 平成13年10月28日(日)  
午後1時30分～・3時～

講師 虎澤英雄氏(飯能窯)

会場 当館学習研修室

参加者 28人

##### ◎体験学習会「湯呑を作る」

日時 平成13年10月18日(日)  
午後1時30分～

講師 岸道生氏(破草鞋窯)

会場 当館学習研修室

参加者 20人

##### ◎講演会「飯能焼を育てた時代」

日時 平成13年11月25日(日) 午後2時～

講師 長佐古真也氏

(東京都埋蔵文化財センター調査研究員)

会場 当館学習研修室

参加者 38人

##### ◎原窯発掘調査報告会

日時 平成13年11月30日(金) 午後7時～

講師 富元久美子氏

(飯能市生涯学習課嘱託員)

会場 当館学習研修室

参加者 30人

##### ◎原窯出土資料公開「手のひらで感じる飯能焼」

日時 平成13年10月20日(土)・27日(土)  
11月4日(日)・10日(日)・23日(金)  
12月2日(日)

会場 当館特別展示室

参加者 のべ73人

#### 5. 企画委員

坂口和子氏・滝鍊太郎氏(以上郷土館協議会委員)

富元久美子氏(飯能市生涯学習課)

#### 6. 評価

平成6年度に開催された「幕末・明治の幻陶 飯能焼」は伝世資料を中心とした展示会であったが、それ以降、飯能焼に関する問い合わせや飯能焼かどうか

の確認を求められることが多くなった。その時に感じたのが人々の飯能焼像と原窯発掘資料との大きなギャップであり、飯能焼を正しく理解してもらう必要を感じたことが今回の開催の動機である。

しかし、窯跡出土資料は、一般の人には欠けていて鑑賞に耐えないものと映ったようで、ほとんど素通りして帰ってしまう入館者も見られた。ここで展示した原窯からの出土資料こそが確実な飯能焼であることを示しているという、企画する側からすれば当然の事柄が観客と共有されていない現状がそこにあった。

また主催する側からすれば、現代、飯能を代表する物産として確立されている現代の飯能焼(以下「新飯能焼」とする)が歴史的所産であることに展示する意味を見出そうとしたが、見る側は冷静で、飯能焼と新飯能焼は別々のやきものとして認識していた。したがって、少なくとも鑑賞の場面ではそのつながりをほとんど意識しないように感じた。

このような認識の違いがあったためか前回の飯能焼展に比べ入館者の数、反響ともいま一つであった。ただし、展示図録については飯能焼研究の現状を集大成できた点から評価する声が多かったように感じた。

ところで、今回いくつかの実験的な試みを行った。一つは夜間開館である。会期中の金曜日10月26日・11月16日・30日の3日間、9時まで開館時間を延長した。しかし日中の入館者数を上回る実績は挙げる事ができなかった。

今一つは、原窯から出土した資料を観客に実際触れてもらう機会を作ったことである。それが「手のひらで感じる飯能焼」で期間中6回、2時間30分ずつ特別展示室内で実施した。しかし、それを目的に来館した人は全体を通して10人弱で、触れる時間も長い人でも10分ほどであった。また展示を見ている人に声をかけても「毀すといけないから」といって触りたがらない人が少なからずいたことは予想外であった。博物館で「触れる」という鑑賞方法に市民が慣れていないからであろうか。

(担当者による評価)

## ◆ 展示資料

〈凡例〉・表中の略称は以下のとおりである。

「図No.」… 図録掲載資料番号 「図P」… 図録掲載ページ  
 (出土地点) 「土」… 土坑 「G」… グリッド 「遺」… 遺構 「試」… 試掘  
 (備考欄) A…原窯1次・2次調査報告書(『飯能の遺跡』27)掲載資料  
 ※例:「A-30」…その当該器種の一覧表No.30の資料  
 NT…双木本家飯能焼コレクション

・法量の単位は、である。また( )が推定値、〈 〉が現存値を示す。

## I 原のやきもの

### 〈原窯製品の胎土と釉調〉

No.	資料名	図P	出土地点	口径	底径	器高	点数	所蔵者	備考
1	胎土色調(黄白系)		表探	—	—	—	3	飯能市郷土館	
2	〃(灰白系)		〃	—	—	—	7	〃	
3	〃(灰褐色系)		〃	—	—	—	9	〃	
4	〃(赤褐色系)		〃	—	—	—	8	〃	
5	緑褐色釉色調(黄色系)		〃	—	—	—	8	〃	
6	〃(緑色系)		〃	—	—	—	11	〃	
7	〃(青・灰系)		〃	—	—	—	8	〃	
8	〃(黒色系)		〃	—	—	—	9	〃	
9	鉄釉製品(蓋)	19	36土	(16.8)	—	3.0	1	飯能市教育委員会	
10	鉄釉製品(土瓶蓋)	〃	3土	(9.0)	(6.7)	(2.5)	1	〃	A-30
11	鉄釉製品(行平鍋・身)	〃	G	(17.0)	—	—	4	〃	A-22
12	鉄釉製品(行平鍋・蓋)	〃	2土	—	(5.0)	—	2	〃	A-49
13	鉄釉製品(片口付小鍋)	〃	〃	14.0	6.0	5.3	1	〃	A-9
14	鉄釉製品(桶形鉢)		36土	(12.5)	6.5	5.2	1	〃	
15	鉄釉製品(蓋)		試9	13.6	5.7	3.0	1	〃	
16	鉄釉製品(鉢)		36土	(11.2)	(6.5)	4.4	1	〃	

### 〈原窯製品の器種〉

#### 碗・仏飯器・卸し皿

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
17	碗	1	表探	(8.3)	3.7	4.3	飯能市郷土館	A-4
18	紅葉文碗	2	表探	(4.6)	4.0	6.5	〃	NT-220
19	仏飯器	3	32土	8.1	5.4	5.6	飯能市教育委員会	
20	卸し皿		表探	(13.2)	(7.7)	(2.3)	飯能市郷土館	A-3
21	〃		〃	—	—	(2.6)	〃	
22	〃	10	伝世	13.2	7.5	2.4	〃	NT-59

#### 灯明皿

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
23	灯明皿(小)・焼締		25土	8.3	2.9	1.6	飯能市教育委員会	
24	灯明皿(小)		〃	8.6	3.0	1.7	〃	
25	灯明皿(大)・焼締		1遺	10.5	4.2	2.2	〃	A-4
26	灯明皿(大)		25土	11.1	3.7	2.1	〃	
27	灯明皿(大)・焼締	5	2土	11.2	4.4	1.8	〃	櫛目付・A-6
28	灯明皿(大)	4	〃	11.2	4.5	1.9	〃	櫛目付・A-9
29	台付灯明受皿	7	5土	11.0	6.2	(5.3)	〃	A-19
30	台付灯明受皿	8・9	21土	7.6	4.8	5.1	〃	No.31と組みで展示
31	灯明皿	9	〃	7.7	3.1	1.7	〃	No.30と組みで展示
32	灯明受皿	6	36土	10.4	4.2	2.2	〃	

#### 小皿

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
33	型押し皿(木の葉形)	17	1遺	8.9	—	2.7	飯能市教育委員会	A-12
34	型押し皿(耳皿)	16	21土	(長辺)	15.3	2.6	〃	
35	秋草文小皿	12	〃	11.0	7.6	2.1	〃	浅い皿
36	九曜文小皿	11	表探	(11.6)	6.1	2.2	飯能市郷土館	浅い皿・A-10
37	小皿		〃	(13.0)	(6.5)	3.0	〃	端反形・A-9
38	「はぐみ」小皿	14	〃	(13.3)	6.7	2.7	〃	深い皿・A-11
39	「丸」小皿	13	2土	10.7	6.3	2.7	飯能市教育委員会	深い皿・A-4
40	富士に松原文小皿	15	25土	12.4	7.3	2.3	〃	

合子(身)

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
41	丸形合子(身)	36	21土	7.6	3.0	3.1	飯能市教育委員会	No.46と組みで展示
42	筒形合子(身)		25土	8.5	4.6	3.1	〃	No.47と組みで展示
43	筒形合子(身)	35	〃	7.8	4.6	2.7	〃	小
44	筒形合子(身)	34	2土	8.9	6.4	3.2	〃	大・低・A-13
45	筒形合子(身)・素焼	33	1遺	8.7	5.3	4.8	〃	大・高・A-15

合子(蓋)

No.	資料名	図No.	出土地点	笠径	脚径	器高	所蔵者	備考
46	「ふじの雪」丸形合子(蓋)	43	25土	7.6	5.9	1.6	飯能市教育委員会	No.41と組みで展示
47	紅葉文筒形合子(蓋)	37	36土	8.2	6.6	1.3	〃	No.42と組みで展示
48	合子蓋(平笠)・焼締		1遺	8.5	6.6	1.2	〃	A-17
49	紅葉文合子蓋(平笠)		2土	7.8	5.8	1.1	〃	A-3
50	小梅散らし文合子蓋(平笠)	38	21土	8.8	7.1	1.2	〃	
51	「玉口口」合子蓋(丸笠)	39	1次G	7.5	6.0	1.7	〃	丸高形・A-30
52	小梅散らし文合子蓋(丸笠)	42	〃	7.0	6.0	1.3	〃	緩い丸形・A-37
53	「ふじの雪」合子蓋(丸笠)	41	1遺	6.7	5.0	0.9	〃	平丸形・A-39
54	亀甲つなぎ文合子蓋(丸笠)	40	25土	9.2	7.6	2.5	〃	

餌猪口

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
55	餌猪口(型押し把手)	45	6次遺構外	6.8	2.9	3.0	飯能市教育委員会	
56	餌猪口(円環状把手)	46	表採	—	—	2.9	飯能市郷土館	

丸、輪花皿・鉢

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
57	丸皿		36土	14.4	6.0	1.8	飯能市教育委員会	
58	波千鳥文丸皿	18	〃	15.0	7.0	2.4	〃	
59	河骨文五輪花皿	19	2土	15.3	8.0	3.3	〃	A-7
60	九輪花鉢	20	〃	13.0	5.5	3.7	〃	A-13
61	松、笹葉文八輪花鉢	21	〃	13.5	8.6	4.7	〃	口唇平坦・A-16
62	松、笹葉文八輪花鉢		25土	13.0	7.9	4.7	〃	口唇素縁
63	松葉散らし文隅入四方鉢	23	2土	12.9	8.7	3.6	〃	A-15
64	波千鳥文隅入四方鉢	24	〃	12.3	6.2	4.8	〃	絵付け不鮮明・A-12
65	桃葉文八輪花鉢	25	2次G	13.3	7.0	4.1	〃	内外面施釉・A-19
66	波千鳥文隅入四方鉢(小)		36土	10.3	5.8	4.3	〃	
67	波千鳥文隅入四方鉢(中)	22	2土	12.8	6.9	4.8	〃	A-11
68	波千鳥文隅入四方鉢(大)		30土	(17.5)	9.5	7.0	〃	
69	桃葉文桃形鉢(小)	26	25土	13.1	7.6	5.0	〃	
70	桃葉文桃形鉢(大)	27	〃	16.9	8.6	7.3	〃	

片口小鉢

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
71	波千鳥文片口小鉢・素焼	28	1遺	9.4	5.9	4.4	飯能市教育委員会	A-25
72	波千鳥文片口小鉢	29	伝世	9.2	5.9	4.2	飯能市郷土館	NT-137

瓢箪小鉢

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
73	瓢箪小鉢・素焼	30	1遺	(11.0)	5.3	3.8	飯能市教育委員会	A-32
74	瓢箪小鉢	31	伝世	11.4	5.2	4.7	飯能市郷土館	NT-133

その他の鉢

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
75	寿文蓋物鉢	32	2土	14.6	6.8	7.4	飯能市教育委員会	見込みに「寿」・A-48

片口鉢

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
76	片口鉢	47	25土	17.8	6.8	8	飯能市教育委員会	

播り鉢

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
77	播り鉢(小)	48	25土	15.6	6.4	6.3	飯能市教育委員会	
78	播り鉢(大)	49	〃	20.7	8	9.4	〃	

こね鉢

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
79	こね鉢	50	5土	25.8	13.3	11.8	飯能市教育委員会	A-1

香炉

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
80	香炉	51	21土	8.5	4.6	3.5	飯能市教育委員会	

鉢形容器

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
81	鉢形容器	52	36土	16.5	—	8.9	飯能市教育委員会	イッチンで「奉納」

筒形徳利

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
82	瓢箪文徳利	56	2土	(3.6)	(6.4)	(7.2)	20.2	飯能市教育委員会	長形 a/鷹口・A-7
83	瓢箪文徳利	59	25土	3.4	7.0	7.9	20.3	〃	長形 Ib
84	屋号入(「全酒店」)徳利	58	2土	—	7.1	8.3	—	〃	長形 Ib・A-16
85	(爛) 徳利		25土	3.5	6.9	8.2	21.2	〃	
86	屋号入(「多奈加や」) 徳利	57	2土	4.0	8.9	10.2	23.7	〃	長形 Ic・A-26
87	氷梅文徳利	60	〃	2.5	5.5	9.2	12.4	〃	短形 b・A-36
88	紅葉散らし文徳利	61	〃	3.6	8.0	10.0	14.5	〃	短形 c・A-42

鶴首徳利

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
89	唐草・剣酢漿文徳利	53	2土	—	8.3	16.8	—	飯能市教育委員会	A-10
90	鷹文徳利	55	〃	—	8.3	17.1	—	〃	A-11
91	無文徳利	54	25土	3.2	7.5	15.7	25.1	〃	長形 Ib・A-16

べこかん徳利

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
92	べこかん徳利(大)	63	25土	4.3	10.3	16.8	23.8	飯能市教育委員会	
93	べこかん徳利(小)		〃	2.1	5.3	7.6	9.6	〃	

若松文徳利

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
94	若松文徳利	62	1次G	—	4.4	6.0	—	飯能市教育委員会	A-1
95	若松文徳利		〃	—	4.4	6.0	—	〃	A-2

土瓶

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
96	土瓶・素焼	65	2土	7.7	7.6	13	10.7	飯能市教育委員会	A-17
97	瓢箪文土瓶	70	30土	8.8	8.0	15.4	10.8	〃	No.106と組みで展示
98	糸目土瓶	71	25土	(3.5)	6.7	12.4	8.9	〃	
99	瓢箪文土瓶	68	2土	7.7	8.4	15.9	14.4	〃	A-26
100	「五瓜に片喰」文土瓶	69	21土	8.8	—	15.7	(9.6)	〃	
101	富士に松原文土瓶		2土	7.9	(7.0)	(14.0)	10.2	〃	口唇素縁
102	掛け手・より土	66	〃	—	—	—	—	〃	A-30
103	掛け手・山形(素焼)		1遺	—	—	—	—	〃	A-10
104	掛け手・山形(素焼)	66	1遺	—	—	—	—	〃	地に唐草文・A-12
105	掛け手・山形	〃	3土	—	—	—	—	〃	A-31

土瓶蓋

No.	資料名	図No.	出土地点	笠径	脚径	笠高	器高	所蔵者	備考
106	土瓶蓋(山笠形)	74	2土	9.2	7.0	1.0	3.2	飯能市教育委員会	107と組・A-27
107	土瓶蓋(平笠形)	75	〃	8.3	6.2	1.4	—	〃	A-19
108	土瓶蓋(つまみ擬宝珠形)	76	〃	8.2	6.2	1.5	3.5	〃	A-20
109	土瓶蓋(平笠形)	73	5土	6.2	4.2	1.1	2.5	〃	A-31
110	土瓶蓋(つまみ印花)		〃	9.4	6.8	1.3	3.1	〃	A-15
111	土瓶蓋(花卉状刻み)	77	3土	—	—	—	—	〃	口唇素縁・A-29
112	土瓶蓋(肉髻状つまみ)	〃	1遺	—	—	—	—	〃	A-17
113	土瓶蓋		36土	9.7	6.7	1.6	3.6	〃	No.97と組
114	土瓶蓋		2土	8.7	6.4	1.3	3.4	〃	No.99と組・A-25

銚子

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
115	菊花文銚子	72	25土	7.6	7.5	12.0	10.0	飯能市教育委員会	長形! a・蔦口縁

急須

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
116	急須 (器高低いタイプ)	80	2土	8.0	5.8	10.0	5.2	飯能市教育委員会	握り手円筒形・A-5
117	急須 (器高低いタイプ)	81	25土	(7.5)	6.5	8.9	5.7	〃	注口三角
118	急須 (箱形)	78	2土	7.0	6.6	10.9	7.4	〃	A-9
119	急須 (丸形)	79	〃	(7.2)	6.4	11.3	8.4	〃	No.122と組・A-7
120	握り手 (素焼)	82	5土	2.4	—	4.2	—	〃	A-13
121	握り手 (素焼)	82	〃	1.3	—	2.9	—	〃	A-15

急須蓋

No.	資料名	図No.	出土地点	笠径	底径	笠高	器高	所蔵者	備考
122	急須蓋	83	2土	6.2	2.5	1.0	—	飯能市教育委員会	No.119と組・A-38
123	急須蓋 (施釉)	84	〃	7.0	3.0	1.0	1.7	〃	A-41

小水注

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
124	小梅散らし文小水注	86	36土	3.1	6.1	7.8	8.3	飯能市教育委員会	
125	小水注	87	21土	3.0	6.5	8.8	11.0	〃	
126	小梅散らし文小水注	89	伝世	2.4	5.0	7.4	6.8	飯能市郷土館	NT-63
127	小梅散らし文小水注	88	〃	2.4	4.6	7.9	6.6	飯能市郷土館	NT-95

焙烙

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
128	焙烙・素焼	90	25土	13.3	6.5	5.4	飯能市教育委員会	
129	握り手 (施釉)	91	36土		径 2.0		〃	
130	握り手 (施釉)	〃	〃		径 2.8		〃	

両手鍋

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
131	唐草文両手鍋 (浅い皿形)	97	2・3土	12.5	5.2	—	4.6	飯能市教育委員会	掛け手は鍵手・A-6
132	両手鍋 (浅い皿形)	93	25土	12.5	4.7	14.8	4.4	〃	掛け手は鍵手
133	両手鍋 (片口付)・素焼		3土	(14.6)	6.6	14	4.9	〃	A-8
134	両手鍋 (片口付)・素焼	92	2土	(14.4)	—	(13.9)	—	〃	A-7
135	両手鍋 (腰張形)	94	25土	16.3	5.6	16	6.8	〃	
136	両手鍋 (丸形・小)	95	〃	12.2	5.3	—	5.2	〃	
137	両手鍋 (丸形・中)	96	〃	18.2	7.8	—	8.2	〃	
138	両手鍋 (丸形・大)		3土	24.4	9.0	21.7	10.8	〃	A-23
139	掛け手 (山形)	98	1遺		幅 5.0			〃	A-10
140	掛け手 (M字形)	〃	3土		幅 4.1			〃	A-19
141	掛け手 (細形)	〃	2土		幅 6.2			〃	A-13

行平鍋

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
142	行平鍋 (丸形・中)	108	2土	14.0	6.1	13.7	7.3	飯能市教育委員会	No.155と組・A-4
143	行平鍋 (丸形・中)	99	〃	13.9	6.7	14.3	7.4	〃	焙着あり・A-5
144	行平鍋 (腰張形・大)・素焼	100	〃	17.3	7.4	16.2	8.0	〃	A-23
145	行平鍋 (丸形・大)・素焼	101	〃	17.6	6.9	18.0	9.8	〃	飛鉋無/三足付・A-12
146	行平鍋 (丸形)	102	36土	12.2	5.5	12.3	7.0	〃	内外面施釉
147	握り手 (「寿」)・素焼	103	〃		長さ 7.9			〃	
148	握り手 (「寿」)	〃	〃		長さ 7.9			〃	施釉
149	握り手 (扇ほか)・素焼	〃	〃		長さ 8.8			〃	
150	握り手 (亀)・素焼	〃	〃		長さ 6.2			〃	
151	握り手 (花唐草)・素焼	〃	〃		長さ 6.3			〃	
152	握り手 (人・鷄・籠目)・素焼	〃	〃		長さ 6.5			〃	裏面に子
153	握り手 (軍配)	〃	〃		長さ 5.5			〃	
154	握り手 (小)	〃	33土		長さ 4.0			〃	

鍋蓋

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	胴径	器高	所蔵者	備考
155	秋草文鍋蓋 (中・平笠形)	104	2土	13.1	3.5	2.0	飯能市教育委員会	No.142と組・A-13



No.	資料名	図No.	出土地点	口径	紐径	器高	所蔵者	備考
156	秋草文鍋蓋 (小・平笠形)		36土	11.6	3.4	2.0	◇	
157	秋草文鍋蓋 (中・平笠形)		◇	13.2	3.6	1.8	◇	
158	秋草文鍋蓋 (大・山笠形)		25土	15.7	3.9	2.8	◇	
159	龍文鍋蓋 (大・山笠形)	107	2土	15.5	3.6	3.6	◇	A-39
160	鍋蓋 (中・平笠形)	106	◇	14.2	3.9	2.5	◇	A-12

甑 (蒸し器)

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
161	甑・素焼	110	1遺	15.1	7.1	13.2	9.7	飯能市教育委員会	A-1
162	露草文甑	111	25土	17.0	7.9		11.9	◇	

その他の蓋

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	脚径	器高	所蔵者	備考
163	蓋	112	5次	16.0	4.5	2.1	飯能市教育委員会	甑の蓋と思われる
164	蓋	115	表探	10.8	8.7	4.3	飯能市郷土館	A-10
165	割り菊文蓋	114	◇	(21.8)	(19.5)	3.3	◇	A-7
166	蓋	113	◇	14.0	12.2	3.0	◇	A-9

筒型容器 (灰吹き・火入れ等)

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
167	松葉文火入れ	119	表探	11.9	10.0	11.8	9.4	飯能市郷土館	A-16
168	筒型容器	120	◇	8.4	9.8	8.5	9.8	◇	A-17
169	筒型容器	121	◇	8.8	9.0	9.2	10.8	◇	A-15

植木鉢

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
170	植木鉢	118	3土	13.5	—	—	飯能市教育委員会	A-4
171	植木鉢	116	表探	—	9.2	—	飯能市郷土館	A-5
172	植木鉢・素焼	117	21土	8.0	5.1	9.0	飯能市教育委員会	

たんころ

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
173	たんころ	127	25土	5.1	3.9	7.8	5.5	飯能市教育委員会	
174	たんころ	128	◇	6.5	4.4	6.8	6.1	◇	

散蓮華

No.	資料名	図No.	出土地点	全長	器高	所蔵者	備考
175	散蓮華	131	36土	<4.2>	<2.7>	飯能市教育委員会	
176	散蓮華	131	◇	<3.6>	<2.1>	◇	

杓子類

No.	資料名	図No.	出土地点	全長	器高	所蔵者	備考
177	しゃもじ・素焼	129	36土	<11.9>	<2.0>	飯能市教育委員会	
178	十能・素焼	130	25土	幅 <13.3>	<2.5>	◇	

漏斗

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	器高	所蔵者	備考
179	漏斗	132	36土	11.6	10.5	飯能市教育委員会	
180	漏斗	133	8土	—	<9.6>	◇	

花生

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
181	花生	122	21土	10.3	11.2	12.2	24.5	飯能市教育委員会	
182	糸目花生	123	伝世	10.0	10.0	10.0	21.7	飯能市郷土館	NT-127

火鉢類

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	胴径	器高	所蔵者	備考
183	七厘・素焼	124	2土	16.0	17.0	17.5	13.9	飯能市教育委員会	A-4
184	火鉢・素焼	125	◇	20.1	20.0	—	15.1	◇	A-3
185	若松文火鉢	126	36土	19.0	19.4	—	16.7	◇	

## Ⅱ 飯能焼とその時代

〈飯能焼と同じ時代のやきもの〉… 東京大学医学部付属病院地点A L37-1号遺構出土遺物

No.	資料名	点数	産地	遺物No.	所蔵者	備考
186	磁器・染付鉢	1	ヨーロッパ	1	東京大学埋蔵文化財調査室	銅版刷り
187	磁器・染付皿	1	〃	2	〃	銅版刷り
188	磁器・染付皿(鍋島)	1	肥前	20	〃	
189	磁器・湯呑形碗	1	〃	8	〃	
190	磁器・湯呑形碗	1	〃	9	〃	
191	磁器・碗	1	〃	10	〃	顔料コバルト
192	磁器・碗	1	〃	11	〃	
193	磁器・皿	1	〃	21	〃	
194	磁器・蓋物(身)	1	〃	43	〃	顔料コバルト
195	磁器・蓋物(身)	1	〃	44	〃	〃
196	磁器・蓋物(身)	1	〃	45	〃	
197	磁器・蓋	1	〃	49	〃	
198	磁器・鉢	1	〃	55	〃	蛇ノ目凹形高台
199	磁器・鉢	1	〃	56	〃	
200	磁器・急須	2	〃	62	〃	
201	磁器・端反碗	1	瀬戸美濃	3	〃	顔料コバルト
202	磁器・端反碗	1	〃	5	〃	顔料地具須
203	磁器・湯呑形碗	1	〃	6	〃	〃
204	磁器・碗	1	〃	14	〃	顔料コバルト
205	磁器・蓋	1	〃	15	〃	〃
206	磁器・碗	1	〃	16	〃	〃
207	磁器・蓋	1	〃	18	〃	〃
208	磁器・丸碗	1	〃	19	〃	〃
209	磁器・皿	1	〃	22	〃	蛇ノ目高台
210	磁器・皿	1	〃	24	〃	「寿」文木型打込
211	磁器・皿	1	〃	26	〃	
212	磁器・小杯	1	〃	29	〃	顔料コバルト
213	磁器・小杯	1	〃	30	〃	〃
214	磁器・小杯	1	〃	32	〃	〃
215	磁器・小杯	1	〃	33	〃	〃
216	磁器・小杯	1	〃	37	〃	白磁
217	磁器・小杯	1	〃	38	〃	白磁
218	磁器・色絵小杯	1	〃	40	〃	
219	磁器・小杯	1	〃	41	〃	
220	磁器・燗德利	1	〃	46	〃	
221	磁器・燗德利	1	〃	47	〃	顔料コバルト
222	磁器・蓋	1	〃	51	〃	コバルト・クロム・銅
223	磁器・急須	1	〃	63	〃	顔料コバルト
224	陶器・皿	1	〃	64	〃	太白手
225	陶器・片口	1	瀬戸美濃系	70	〃	
226	陶器・徳利	1	瀬戸美濃	84	〃	
227	陶器・壺	1	京・信楽系	83	〃	
228	陶器・銅緑釉徳利	1	〃	85	〃	
229	陶器・梅花文土瓶	1	笠間・益子系	77	〃	顔料コバルト
230	陶器・梅花文土瓶	1	〃	79	〃	
231	陶器・急須	2	万古系	74	〃	
232	陶器・行平鍋	1	飯能	71	〃	
233	陶器・鍋蓋	1	不明	67	〃	
234	陶器・行平鍋	1	〃	72	〃	外面飛鉋
235	陶器・両手鍋	1	〃	73	〃	
236	陶器・青土瓶	1	〃	78	〃	
237	陶器・山水土瓶	1	〃	80	〃	
238	陶器・土瓶	1	〃	81	〃	
239	陶器・鍋蓋	1	〃	掲載無	〃	
240	陶器・鍋蓋	1	〃	掲載無	〃	イッチン描あり
241	土器・榎木鉢	1	〃	107	〃	硬質瓦質
242	土器・鉢	1	〃	109	〃	軟質土師質
243	土器・焼塩壺	1	〃	118	〃	

### (1) 消費地で確認された飯能焼

〔川越市東明寺南遺跡〕

川越市教育委員会蔵

【図録69P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺跡の性格	備考
244	秋草文小皿	1	11土	11.1	8.0	2.1	川越城下武家地	
245	秋草文小皿	1	〃	11.0	7.8	2.1	〃	
246	秋草文小皿	1	〃	11.0	8.0	2.2	〃	
247	秋草文小皿	1	〃	11.3	8.3	2.2	〃	

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺跡の性格	備考
248	秋草文小皿	1	11土	11.3	7.8	2.2	川越城下武家地	
249	桃形鉢	1	◇	12.1	5.7	5.2	◇	
250	爛徳利	1	◇	4.1	8.3	25.7	◇	
251	行平鍋	1	◇	17.0	6.2	8.6	◇	丸形・大
252	木の葉形型押し皿	1	◇	7.9	—	2.8	◇	
253	両手鍋	1	◇	16.4	6.6	7.0	◇	
254	紅葉文合子蓋	1	39土	—	6.9	1.2	◇	平笠形
255	松、笹葉文八輪花鉢	1	◇	13.5	7.1	4.8	◇	
256	秋草文鍋蓋	1	◇	13.0	3.8	2.5	◇	文様：c
257	屋号入（いの長）爛徳利	1	◇	—	6.4	<19.5>	◇	
258	行平鍋	1	◇	14.0	5.4	7.3	◇	丸形・中
259	秋草文鍋蓋	1	57土	15.4	4.0	3.1	◇	文様：b
260	松、笹葉文八輪花鉢	1	61土	13.5	7.5	4.8	◇	
261	秋草文鍋蓋	1	◇	13.2	3.3	2.5	◇	文様：a～c以外
262	秋草文鍋蓋	1	◇	13.3	3.1	2.6	◇	文様：b
263	秋草文鍋蓋	1	◇	13.3	3.2	2.5	◇	文様：b
264	行平鍋	1	◇	14.1	5.5	9.1	◇	丸形・中
265	小皿	1	11土	9.9	6.0	2.1	◇	原窯製品に類似
266	若松文土瓶	1	◇	7.6	6.9	10.5	◇	◇
267	鍋蓋	1	57土	16	4.7	5.0	◇	◇
268	鉄釉行平鍋	1	61土	13.1	6.5	8.0	◇	◇

斜体数字…「口径」は口径、「底径」は脚径に該当

【青梅市新町の大井戸遺跡】 青梅市教育委員会蔵 【図録68P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺跡の性格	備考
269	秋草文鍋蓋	1	25層	12.0	3.6	1.7	井戸	
270	行平鍋	1	9層	17.0	—	<6.5>	◇	丸形・大
271	行平鍋	1	38層	16.8	—	<6.3>	◇	丸形？・大

斜体数字…「底径」は紐径に該当

【青梅市倭林遺跡】 青梅市教育委員会蔵 【図録68P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺跡の性格	備考
272	桃葉文桃形鉢	1	S D 146	10.9	6.8	4.0	不明	
273	桃葉文桃形鉢	1	◇	11.6	6.5	4.2	◇	
274	八輪花鉢	1	◇	10.4	5.4	4.2	◇	
275	松、笹葉文五輪花鉢	1	◇	13.4	8.5	4.8	◇	
276	片口鉢	1	◇	17.4	6.3	7.4	◇	
277	小梅散らし文転用植木鉢	1	◇	(9.0)	8.9	6.0	◇	
278	片口鉢	1	◇	16.0	7.0	8.5	◇	
279	瓢箪文爛徳利	1	◇	4.0	7.4	21.2	◇	
280	屋号入（丸屋）爛徳利	1	◇	3.9	6.8	20.9	◇	
281	甕	1	◇	13.0	8.0	13.7	◇	

【三芳町本村南遺跡】 三芳町立歴史民俗資料館蔵

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺跡の性格	備考
282	波千鳥文片口小鉢	1	第4地点	(14.2)	9.2	6.8	不明	

【三芳町島田家採集】 三芳町立歴史民俗資料館蔵 【図録69P】

No.	資料名	点数	採集地点	口径	底径	器高	遺跡の性格	備考
283	紅葉文鶴首徳利	1	農家	4.4	9.0	28	農村	胴径:16.6、

【入間市扇町屋採集】 入間市博物館蔵 【図録69P】

No.	資料名	点数	採集地点	口径	底径	器高	採集地の性格	備考
284	屋号入（大坂屋）小皿	1	料理屋	13.0	7.7	3.0	町屋（扇町屋）	
285	屋号入（大坂屋）小皿	1	◇	13.2	7.6	2.4	◇	
286	屋号入（大坂屋）小皿	1	◇	13.8	7.8	2.6	◇	
287	屋号入（大坂屋）小皿	1	◇	13.8	7.7	2.7	◇	
288	屋号入（大坂屋）小皿	1	◇	13.7	7.2	2.6	◇	

○江戸・武家地

【千代田区紀尾井町遺跡】 四番町歴史民俗資料館蔵 【図録67P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺跡の性格	備考
289	波千鳥文隅入鉢	1	S R 22	8.7	5.2	4.3	紀州藩邸、大寺院など	
290	紅葉文合子蓋	1	S R 26	8.8	7.0	1.3	◇	

斜体数字…「口径」は口径に、「底径」は脚径に該当

〔港区汐留遺跡Ⅱ〕

東京都埋蔵文化財センター蔵

【図録67P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺構の性格	備考
291	桃葉文桃形鉢	1	6k-0921	12.1	7.0	4.4	(新橋停車場跡)	

〔港区西久保城山地区の武家屋敷跡遺跡〕

港区教育委員会蔵

No.	資料名	点数	出土地点	口径	脚径	器高	遺構の性格	備考
292	紅葉文合子蓋	1	A区	7.9		1.2	旗本屋敷?	

〔文京区東京大学本郷構内御殿下記念館地点〕

東京大学埋蔵文化財調査室蔵

【図録68P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	紐径	器高	遺構の性格	備考
293	龍文鍋蓋	1	2号	15.4	4.0		加賀藩上屋敷	山笠形・大

〔文京区東京大学本郷構内医学部付属病院地点〕

東京大学埋蔵文化財調査室蔵

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺構の性格	備考
294	蓋	1		11.0	—		加賀、大聖寺・富山藩上屋敷	

〔渋谷区千駄ヶ谷五丁目遺跡〕

渋谷区教育委員会蔵

【図録66P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺構の性格	備考
295	急須蓋(焼締)	1	395号	6.4	2.7	1.5	上野小幡藩松平家下屋敷	
296	蓋(内外面施釉)	1	258・61・63号	15.3	4.1	3.7	〃	
297	秋草文鍋蓋	1	248号	13.6	3.7	2.4	美濃今尾藩竹腰家中屋敷	文様:c
298	秋草文?鍋蓋	2	615号	13.6	3.7	2.2	幕臣屋敷地	
299	波千鳥文陶入鉢	1	617号	—	7.4	—	〃	
300	行平鍋	3	872号	16.4	—	—	〃	丸形・大

斜体数字…「口径」は笠径に、「底径」は紐径に該当

〔新宿区荒木町遺跡Ⅱ〕

新宿歴史博物館蔵

【図録66P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺構の性格	備考
301	中碗(「福」、「栄」)	1	392号	9.8	3.5	5.5	大縄地(御先手鉢砲組)	

〔新宿区筑土八幡町遺跡〕

新宿歴史博物館蔵

【図録66P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺構の性格	備考
302	露草文甌	1	382号	16.0	7.5	11.6	旗本拝領地	
303	行平鍋	2	558号	16.3	7.4	8.8	〃	丸形・大
304	紅葉文合子蓋	1	F区遺構外	8.8	6.8	1.3	〃	

斜体数字…「口径」は笠径に、「底径」は脚径に該当

〔新宿区市谷仲之町西遺跡Ⅱ〕

新宿歴史博物館蔵

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺構の性格	備考
305	唐草文両手鍋	1	35号	12.6	5.4	4.1	旗本拝領地	

〔新宿区四谷三丁目遺跡〕

新宿歴史博物館蔵

【図録65P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺構の性格	備考
306	小梅散らし文小水注	1	11号	—	6.5	<5.9>	大縄地・町人地	
307	両手鍋	1	19号	13.8	5.4	6.0	〃	

〔新宿区内藤町遺跡〕

新宿歴史博物館蔵

【図録65P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺構の性格	備考
308	小梅散らし文小水注	1	C-221	2.5	4.3	7.6	旗本屋敷→開墾地	
309	紅葉文合子蓋	1	C-208	9.2	7.5	1.5	〃	

斜体数字…「口径」は笠径に、「底径」は脚径に該当

○江戸・町人地

〔新宿区内藤町遺跡〕

新宿歴史博物館蔵

【図録65P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺構の性格	備考
310	小梅散らし文小水注	1	C-1	2.5	6.5	10.2	旗本屋敷→開墾地	
311	波千鳥文片口小鉢	1	〃	10.0	5.7	4.5	〃	

〔渋谷区千駄ヶ谷五丁目遺跡〕

渋谷区教育委員会蔵

【図録66P】

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺構の性格	備考
312	紅葉文合子蓋	1	1076号	8.0		1.5	長延寺門前町屋	
313	行平鍋	1	〃	13.7	—	—	〃	丸形・中
314	?文皿	1	336号	11.2	—	2.5	鉄道官舎?	
315	土瓶蓋	1	〃	9.6	7.2	—	〃	

斜体数字…「口径」は笠径もしくは口径に、「底径」は脚径に該当

No.	資料名	点数	出土地点	口径	底径	器高	遺構の性格	備考
316	秋草文鍋蓋	1	3号	15.1	4.1	2.1	中山道沿いの町屋	文様：a1
317	行平鍋	2	〃	(16.6)	—	(7.6)	〃	

斜体数字…「口径」は笠径に、「底径」は船径に該当

○廃棄年代のわかる飯能焼

No.	資料名	図P	出土地点	口径	底径	器高	出土遺跡名	年代
318	小梅散らし文燗徳利	66	921号	3.8	6.1	19.4	渋谷区千駄ヶ谷五丁目	1820~30年代廃棄
319	波千鳥文片口小鉢	〃	486b号	—	6.4	3.8	新宿区荒木町	嘉永4年?の大火後
320	秋草文鍋蓋	68	S X 207	15.4	3.7	—	港区東京大学白金構内	安政元年火災後
321	行平鍋	〃	〃	14.0	—	—	〃	〃
322	両手鍋	66	311a号	21.0	—	—	渋谷区千駄ヶ谷五丁目	1850~60年代廃棄
323	行平鍋	〃	7号	(16.0)	(7.2)	7.9	豊島区東池袋	〃
324	花文五輪花皿	〃	85号	12.1	5.7	2.5	新宿区若松町	明治2年までには廃棄
325	紅葉文合子蓋	67	61-320	8.2	6.4	1.2	港区汐留 II	下限明治6年12月

斜体数字…「口径」は笠径に、「底径」は脚径もしくは船径に該当

○消費地でしか見られない飯能焼

No.	資料名	図P	出土地点	口径	底径	器高	出土遺跡名	備考
326	文字燗徳利	66	311a号	3.5	7.8	20.2	渋谷区千駄ヶ谷五丁目	
327	山並文?桃形鉢	〃	1501号	11.4	4.6	3.4	〃	
328	氷梅文皿	〃	1061・62号	15.0	7.0	3.0	〃	
329	花文鉢	67	5k-115	—	7.4	—	港区汐留 II	

〔消費地出土遺跡遠景写真〕

No.	遺跡名	サイズ	所蔵者	備考
330	東京大学本郷構内医学部付属病院地点	大全紙	東京大学埋蔵文化財調査室	
331	川越市東明寺南遺跡	大全紙	川越市遺跡調査会	
332	青梅市新町の大井戸遺跡	四ツ切	青梅市教育委員会	
333	青梅市倭林遺跡	半切	〃	
334	千代田区紀尾井町遺跡	全紙	四番町歴史民俗資料館	
335	港区汐留遺跡	全紙	東京都埋蔵文化財センター	
336	東京大学本郷構内御殿下記念館地点	全紙	東京大学埋蔵文化財調査室	
337	新宿区筑土八幡町遺跡	半切	新宿歴史博物館	
338	新宿区四谷三丁目遺跡	半切	〃	
339	新宿区内藤町遺跡	全紙	〃	
340	渋谷区千駄ヶ谷五丁目遺跡	全紙	渋谷区教育委員会	
341	港区東京大学白金構内遺跡	半切	東京大学埋蔵文化財調査室	
342	新宿区若松町遺跡	半切	新宿歴史博物館	

(2) イッチン描と飯能焼

〈全国の産地・実物資料〉

No.	資料名	図P	窯	口径	底径	器高	所蔵者	備考
343	丹波焼海老文徳利	78	(伝世)	4.7	8.6	30.4	兵庫県	
344	丹波焼梅、鸞文徳利	〃	〃	4.3	6.7	20.3	〃	
345	丹波焼梅文徳利	〃	〃	3.7	8.8	20.7	〃	
346	丹波焼梅、鸞文皿	〃	〃	22.5	16.0	3.6	〃	
347	信楽焼青竹土瓶	〃	城山西	8.3	9.8	12.2	窯業史博物館	
348	信楽焼鮫肌土瓶	〃	〃	8.2	9.0	10.8	〃	
349	信楽焼波千鳥文土瓶	78	城山東	—	—	—	〃	破片資料
350	信楽焼波千鳥文土瓶蓋	〃	城山東	8.5	6.3	3.1	〃	
351	茶堂焼富岳図皿	77	茶堂	32.7	15.1	8.0	個人	
352	信楽焼波千鳥文土瓶	〃	七面	—	—	—	水戸市立博物館	破片資料
353	信楽焼波千鳥文土瓶蓋	〃	〃	8.5	6.0	3.0	〃	
354	益子焼菊絵土瓶	〃	根古屋大塚	—	—	—	窯業史博物館	破片資料
355	益子焼菊絵土瓶蓋	〃	〃	11.2	9.2	4.2	〃	
356	益子焼菊絵鍋	〃	〃	—	—	—	〃	破片資料
357	益子焼鉄釉鍋	〃	須田ヶ池加藤	—	—	—	〃	〃
358	益子焼両手鍋	〃	〃	—	9.9	7.4	〃	〃
359	益子焼鉄釉菊絵土瓶	77	〃	—	—	—	〃	〃
360	益子焼鉄釉菊絵土瓶蓋	〃	〃	—	—	—	〃	
361	益子焼菊絵土瓶	〃	大西	11.0	9.1	2.5	〃	鉄絵もあり
362	益子焼菊絵土瓶	77	〃	8.4	7.4	9.6	〃	
363	益子焼菊絵鍋	〃	新池製陶所	16.4	9.6	7.6	〃	
364	益子焼土瓶蓋	〃	地蔵院	10.0	4.3	2.6	〃	

斜体数字…「口径」は笠径に、「底径」は脚径に該当

〈全国の産地・写真資料〉

No.	資料名	図P	窯	サイズ	所蔵者	備考
365	唐津焼黒釉素麺手茶碗	79	(伝世)	半切	佐賀県立九州陶磁文化館	
366	上野焼三彩茶碗	〃	〃	〃	〃	
367	小石原焼鉛釉波頭文大瓶	〃	〃	〃	〃	
368	尾戸焼松枝文徳利	〃	〃	〃	高知県立歴史民俗資料館	
369	須坂吉向焼花蝶文大徳利	〃	〃	〃	個人	
370	洗馬焼窯跡出土資料	〃	和兵衛	大四ツ切	塩尻市立平出博物館	
371	大堀相馬焼山水文徳利	76	(伝世)	半切	野馬追いの里原町市立博物館	
372	会津本郷焼鉄釉徳利	〃	〃	〃	東北陶磁文化館	
373	寺内焼梅花文徳利	〃	寺内	〃	秋田市教育委員会	
374	悪戸焼椿文徳利	〃	(伝世)	〃	東北陶磁文化館	
375	悪戸焼窯跡表採資料	〃	不明	大四ツ切	個人	

〈飯能焼原窯製品〉

No.	資料名	図No.	出土地点	口径	底径	器高	所蔵者	備考
376	草花文五輪花皿	75P	25土	13.1	6.8	2.0		
377	河骨文小皿		〃	10.8	7.6	2.5		
378	短冊文輪花皿		5次Q8区	(15.0)	6.1	3.1		
379	蔓草?文蓋		30土	(15.2)		3.5		2点
380	桜文合子蓋	75P	2土	9.0	6.7	1.6		A-21
381	富士に松原文土瓶	64	25土	7.2	7.9	10.4		
382	瓢箪文土瓶	67	8土	7.2	7.5	18.0		蓋付・No.383と組
383	土瓶蓋		25土	8.3	6.0	3.0		No.382と組み
384	秋草文鍋蓋		1遺	12.7	3.2	2.6		A-6
385	秋草文鍋蓋	75P	2次G	13.0	3.1	2.6		A-20
386	秋草文鍋蓋	105	2・3土	15.7	3.9	3.0		A-37
387	打ち出の小槌文徳利?		21土	—	—	—		破片資料
388	菊文蓋		〃	—	—	—		〃
389	唐草文徳利?		試7	—	—	—		〃
390	?文蓋		25土	—	—	—		〃
391	?文蓋		36土	—	—	—		〃

斜体数字…「口径」は口径に、「底径」は脚径もしくは細径に該当

〈その他〉

No.	資料名	点数	窯	口径	底径	器高	所蔵者	備考
392	丹波焼「源導」徳利	1	大上強窯	3.3	8.6	26.5	個人	
393	筒描による絵付け(写真)	1	〃	(W六ツ切)				
394	合羽(イッチン描の道具)	1		(全長) 18.4			岸 道生	

Ⅲ 飯能焼と現在

No.	資料名	図P	窯	口径	底径	器高	製作者	備考
395	梅花瓶	85	飯能窯	7.7	10.5	24.5	虎澤英雄	
396	色即是空薪窯焼成花瓶		〃	9.9	8.8	20.6	〃	
397	十草文湯呑		〃	6.2	3.7	10.1	〃	
398	十草文湯呑		〃	5.6	3.6	10.3	〃	
399	鳥絵皿		〃	25.0	17.0	2.7	〃	
400	丸文ピザ皿	85	〃	24.4	19.5	2.6	〃	
401	灰釉瓢文徳利	〃	破草鞋窯	4.8	10.4	27.8	岸 道生	
402	鉄釉流し文鉢		〃	23.5	10.4	10.2	〃	
403	西川釉飯碗		〃	12.2	4.7	6.1	〃	
404	藁灰釉汁碗		〃	13.7	6.0	7.9	〃	
405	藁灰桃形鉢	85	〃	14.7	7.2	5.5	〃	
406	鉄釉小鉢		〃	11.5	5.6	5.8	〃	
407	灰釉麦紋湯呑		〃	6.6	4.5	8.9	〃	
408	藁灰釉青流し箸置		〃	5.2	4.8	1.3	〃	

## その他の展示

当館では、特別展の他にも文化財の普及・啓発や収蔵資料の紹介などを目的としていろいろな展示を行ってきた。ここではそれを紹介する。

### 平成11年度

#### 飯能市指定文化財 双木本家飯能焼コレクションⅦ

期 間 平成11年7月20日(火)～9月5日(日)  
開館日数 41日  
入館者数 3,123人 (1日平均 76.2人)

##### 1. 趣 旨

飯能焼は「飯能」と冠のついた数少ない貴重な文化財であるが、常設展示においてはその認識を示すに足るスペースを確保することができなかった。その結果、開館以来常設展示における飯能焼の展示点数を多くしてほしいという入館者からの要望は不断に寄せられていた。さらに、平成6年春に開催された「飯能焼」展以降、それについての問い合わせも増えてきている。

こうした声に応えるため、市指定文化財で先年当館に寄贈になった双木本家飯能焼コレクションを展示し、常設展示を補うと同時に、飯能市郷土館に特徴的なテーマ展示として位置づけるものであ



る。今回はその7回目にあたる。

##### 2. 内 容

今回は、梅樹文壺や松樹文徳利といった優品と原窯表採資料に加え、新出のものとしてNo.145～158までの7点、合わせて36点を展示した。なお、これで当館に寄贈された双木本家飯能焼コレクションのうち未整理分を除きすべての資料の紹介が終わったことになる。

### 平成12年度

#### うちおり展

(飯能の織物研究会と共催)

期 間 平成12年6月13日(火)～30日(金)  
開館日数 15日  
入館者数 1,070人 (1日平均 71.3人)

##### 1. 趣 旨

養蚕農家では、屑繭やしみ繭、玉繭から自分で引いた糸で絹織物を織って、家族や自分の着物を創り出した。それを「うちおり」というが、この消えつつある織物を収集し、それらを保存する一つの方法として制作したビデオ「飯能地方のうちおり」(平成11年度飯能市地域づくり支援事業)の完成を記念して、そこ



に収録されたうちおりの着物の数々を展示する。

## 2. 内容

緯総緋いとそうがひの着物や壁織りの反物などのほか、高機たかばた、座繰り、糸杵などの道具合わせて79点展示した。またビデオ「飯能のうちおり」もエントランスホールで放映した。

## 3. 関連事業

### ◎機織り体験会

日 時 平成12年6月18日(日) 午前10時～  
講 師 飯能の織物研究会会員  
会 場 当館展示ホール  
参加者 20人

### ◎織物サロン、民踊「はたおり唄」の紹介

日 時 平成12年6月24日(土) 午前10時～  
会 場 当館学習研修室  
参加者 31人



制の機械化は、一方で手づくりの技を衰退させ、日本の伝統的な「職人の技」の伝承を困難にしていた。そうした中、現在、手づくりの大切さ、「技能」の価値が見直されている。埼玉県においても、県民の技能尊重気運の高揚をはかるため、「現代の名工」(労働大臣表彰)、「彩の国優秀技能者」(埼玉県知事表彰)、技能グランプリ(1級技能士全国技能競技大会)入賞者による「彩の国名工展」が3年に1度開催されている。

今回は、11月10日から11月12日にかけてさいたまスーパーアリーナで実施された「第6回彩の国名工展」出品者の中から、飯能市在住の6名の方の作品を展示し、職人の技の素晴らしさを堪能していただくことを目的とする。

## 町内山車模型展

期 間 平成12年7月9日(日)～23日(日)  
開館日数 12日  
入館者数 973人(1日平均 81.1人)

## 埼玉の名工展

—飯能市在住出品者作品展—

期 間 平成12年12月17日(日)～  
平成13年1月28日(日)  
開館日数 30日  
入館者数 2,335人(1日平均 77.8人)

### 1. 趣 旨

戦後の高度経済成長の中で急速に進んだ生産体

## 2. 内容

大野清一氏(畳)・笠原勇吉氏(塗装)・鳥田有受氏(大工)・関口好一氏(大工)・本橋初夫氏(大工)・山川清次氏(建具)の作品6点を展示した。

## 埋蔵文化財出土品展

### 「お茶わん 見つけた？」

(生涯学習課共催)

期 間 平成12年8月1日(火)～31日(木)  
開館日数 27日  
入館者数 2,635人(1日平均 97.6人)

### 1. 趣 旨

今回の出土品展は、飯能市内から出土した近世の遺物のうち飯能焼原窯出土遺物を中心にして、飯能市の近世(主に江戸時代)の暮らしの様子を解





説する。具体的には、出土した江戸時代の生活道具を観察することによって、現在と江戸時代の暮らしの違いを推理し、「江戸時代の庶民生活」について考えてもらうこと、そして、飯能焼原窯の出土遺物を通して、飯能焼がどういう焼き物なのかを理

解してもらい、郷土の産業であり文化でもあった「飯能焼」を広く知ってもらうことを目的とする。

## 2. 内容

展示の主な対象を小学校高学年から中学生とし、「飯能焼」や歴史・陶芸などを全く知らない人でも楽しむことができるように、参加体験型の展示とした。内容は、「導入部」のほか、「飯能焼をさがせ」、「飯能焼ができるまで」、「道具が語る江戸時代のくらし」の3部構成とした。

## 3. 関連事業

### ◎講演会 「陶磁器が語る江戸時代のくらし」

日 時 平成12年8月27日(日) 午前10時～

講 師 岡田賢治氏(川越市立博物館学芸員)

会 場 当館学習研修室

参加者 25人

## 平成13年度

### 年度収蔵品展

期 間 平成14年2月24日(日)～4月7日(日)

開館日数 36日

入館者数 3,288人(1日平均 91.3人)

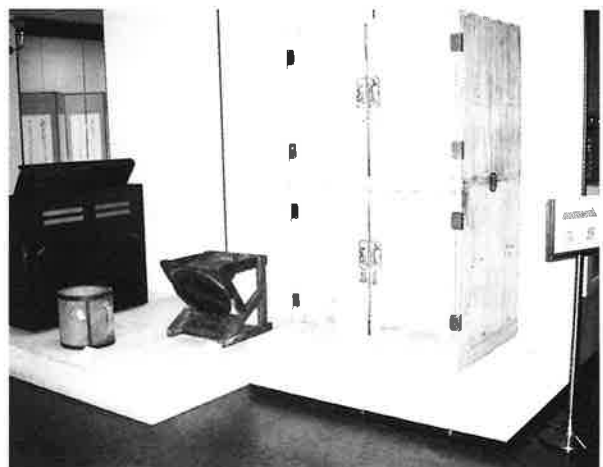
#### 1. 趣 旨

当館で収集する資料は、その多くが市民の寄贈によって成り立っている。開館以来これまで数多くの資料を受け入れてきたが、その多くは展示する機会がこれまでなく、寄贈者より不満の声が聞かれるようになってきた。

そこで、その年に寄贈された資料を年度末に一堂に展示することにより、寄贈者のご好意に応えるとともに、最新の収集資料を市民に公開する場として今年度より「年度収蔵品展」を実施することとした。

#### 2. 内 容

寄贈を受けたすべての資料を展示することは空間的に不可能なので、寄贈者1人につき最低1点は展示するという方針で、オルガンや「御手富貴」(商店名の入った手拭)、地口絵、レコード、写真アルバム、古文書、書籍など全部で50点展示した。



平成11年度

## 夏休み親子歴史教室

### 「自分の手で火を起こしてみよう」

- 日 時** ①平成11年8月7日(土)  
②8月8日(日)  
両日とも午前9時30分～午後3時
- 対 象** 市内の小学4年生～6年生までの児童とその親
- 会 場** ①郷土館 ②吾野公民館
- 参加者数** 郷土館…29人  
(親子13組と子どものみ1人)  
吾野公民館…5人  
(親子1組と子どものみ3人)
- 指 導 者** 有馬雅彦・尾崎泰弘(当館学芸員)  
宇山美穂子・鎌田愛・佐々木孝紀・三瓶寛子・椎橋美奈(博物館実習生)



#### 1. 趣 旨

火起こしを体験して学ぶことには、大別して3つの意味があると思われる。1つは火が人類の発展に対し、いかに大きな役割を果たしてきたかということ、すなわち火の歴史的重要性を学ぶことである。また1つは、火をどうしたら確実に起こすことができるかということを探求して生まれた先人の様々な技術や知恵を学ぶこと。もう1つは、便利さを追求した現代の生活の中で薄れかけた、自分の体を使ってものを得ることの重要性を感じ、それに伴う充実感を体験することである。



これらの意味を踏まえたうえで、今回は火を実際に起こすということに重点を置き、全員が発火できることを目標として実施したい。ただし、こちらから意味を押しつけるのではなく、参加者各々が自分で工夫して進められるような方法で行いたいと思う。なお、平成9年度にも同様に火起こしを行ったが、この時は子どもだけだったため、発火まで至らなかった。このことを鑑み、成功率を高めるため今回は親子で参加していただくこととした。

#### 2. 内 容

(郷土館の場合。吾野公民館もほぼ同様。)

##### 午前(導入・道具の製作)

導入として、常設展示室「最初に住みついた人々」のコーナーにおいて、火起こしの歴史について説明し、青梅市竹の下遺跡より出土した火鑽板(青梅市教育委員会より借用)を皆さんに見ていただくなどした。この後、1階搬入口外に移動し、最初にマイギリによる発火を実演し(火がおこらず失敗)、それからマイギリと火鑽臼の製作を始めた。

##### 午後(火起こし・まとめ)

マイギリなどの道具が完成していない組は作業を続けてもらい、完成した組から火起こしを始めてもらった。発火したのは3組で、4組が火種を起こすところまでいった(吾野公民館では発火したのは1組)。また、発火したらその火をろうそくに灯しておいてもらい、修了証(文字を牛乳で書いたもの)を渡す時にその火で文字をあぶりだしてもらった。

## 夏休み親子歴史教室

## 「よろい武者に変身しよう！」

- 日 時 ①平成12年8月18日(金)・19日(土)  
午前9時30分～11時30分  
②平成12年8月24日(木)・25日(金)  
午前9時30分～午後3時(ただし25日は午前11時30分まで)
- 対 象 小学4年生から中学1年生とその保護者
- 会 場 ①郷土館 ②原市場公民館
- 参加者数 ①のべ35人 ②のべ38人
- 指 導 者 尾崎泰弘・田嶋佐奈恵(当館学芸員)  
石森実三・大迫政子・木川澄枝・児嶋雅子・穂波理枝・三山芳夫(以上市民学芸員)・吉野強(吾野小学校)・岡本沙都美・木村為成・佐藤久美・森岡郁(以上博物館実習生)
- 18日のみ…村上義彦(当館嘱託員)

## 1. 趣 旨

中世には、武士のほか、農民、宗教者、職人など様々な人たちが生き生きと生活していたことは近年の社会史の成果が明らかにしている。本市において残っているこの時代の資料はその多くが武士によって残されたものであり、そういう意味では中世は「武士の時代」とも言うことができよう。

そこで今回の歴史教室ではその武士の象徴ともいべき武具のうち鎧を取り上げ、それをよく観察しながら紙で製作し、その製作過程や用途、材質などを立体的に把握するとともに、それを着用



したり、火縄銃や刀を持つことにより「武士」を体験する。合わせてその同時代資料である史跡、文化財の存在を知り、参加者が住んでいる身近な地域を理解してもらうことを目的とする。

## 2. 内 容

## 8月18日(金)・24日(木)

常設展示室にある「伝宮寺与七郎当世具足」や今回の製作見本となる足軽胴のレプリカ(戸田市立郷土博物館より借用)を材料に、鎧の機能、作り方などを解説した。そして1～2名に足軽胴を試着させた後、ボール紙を使って足軽胴の製作に入った。

## 8月19日(土)・25日(金)

午前中は、足軽胴を完成させ、旗指物を製作し、作った鎧を着て記念撮影をしたのちに、実物の火縄銃、刀(鑄身の赤羽刀を使用)を持ってみて、実際にその重さを体験してみた。

午後は、ワークシート「飯能史跡めぐりの陣」を配布し、その方法についての説明をした後、参加者は旗指物をもって能仁寺、智観寺など郷土館周辺の史跡、文化財を廻った。各ポイントでは、設定された使命を果たしたのち、そこにいるスタッフよりワークシートにスタンプをおしてもらい、すべてのポイントを回ったのち館に戻り、まとめを行った。

(原市場公民館では2日目午後の参加者が減ってしまい史跡めぐりは実施しなかった。)

## 歴史講演会

## 「中世武蔵の武士と飯能」

日 時 平成12年9月24日(日)  
10月8日(日)・29日(日)  
11月5日(日)  
いずれも午前2時～

対 象 一般

会 場 子ども図書館多目的ホール

参加者数 のべ203人

## 1. 趣 旨

当館では開館以来、成人対象の講演会は特別展



峰岸純夫氏

の関連事業しか行ってこなかったが、近年、一つのテーマを連続してまとまった形で深く掘り下げるような事業が求められていると感じるようになった。

また飯能市域においては、治承・寿永期から鎌倉時代にかけての活躍した丹党加治氏や、室町中期以降の中山氏といった中世の武士や彼等が残した文化財、史跡などが存在しているが、これまで十分な研究がされてこなかった。

そこで、飯能の中世を武蔵あるいは東国というマクロの視点からわかりやすく話すことのできる先生方を講師に迎え、中世史に興味をもってもらい、市民自らが学習を深めてもらうことを目的とした。

## 2. 内 容

- 9月24日 「石塔から見た飯能と中世」  
講師：諸岡 勝氏（埼玉県立歴史資料館主任学芸員兼歴史資料室長）
- 10月8日 「武蔵武士団と鎌倉幕府」  
講師：川合 康氏  
（東京都立大学助教授）
- 10月29日 「中世の城館と武士」  
講師：齋藤慎一氏  
（江戸東京博物館学芸員）
- 11月5日 「武蔵における戦国の終焉」  
講師：峰岸純夫氏（中央大学教授）

## 平成13年度

## 織物関係連続講演会

日 時 平成13年7月1日(日)・15日(日)・  
29日(日)

対 象 一般

会 場 当館学習研修室

参加者数 のべ77人

## 1. 趣旨

平成12年、市民のサークルである「飯能の織物」研究会では「飯能のうちおり」というビデオを製作し、活動に一区切りをつけたのだが、その後会員の方々から織物関係の講演会を開催して欲しいという希望が出た。そこで平成14年度秋に「うちおり」に関する特別展を開催することもあり、その準備も兼ねて前年度の中世史講座に続き、織物を



テーマとして連続講演会を開催することとした。

内容については、織物の基本的な部分を分かり易く伝え、織物への関心を少しでも多くの人に持ってもらうため、私たちの郷土の織物や織物の技術、昔の衣生活などについて取り上げ、人と織物との関係の深さを知っていただきたいと考えた。

## 2. 内容

- 7月1日 「飯能の絹織物  
—飯能大島紬を中心に—」  
講師：高山 平氏(埼玉県伝統工芸士)
- 7月15日 「織るということについて」  
講師：玉村日出隆氏  
(群馬県繊維工業試験場主任研究員)

- 7月29日 「暮らしと着物  
—衣料の種類と賄い方—」  
講師：宮本八恵子氏  
(埼玉県文化財保護審議会委員)

## 夏休み親子歴史教室

## 「石器づくりに挑戦！！」

- 日 時 平成13年8月18日(土)・19日(日)  
午前9時30分～午後3時
- 対 象 市内の小学4年生～中学生までの児童とその保護者
- 会 場 当館学習研修室・常設展示室・搬入口外、生涯学習課山手分室
- 参加者数 のべ74人(親子15組・39人)
- 指 導 者 村上達哉氏・熊澤孝之氏(以上飯能市教育委員会生涯学習課主任)



## 1. 趣 旨

旧石器時代から縄文時代にかけて、人々は主な道具として石を加工して石器を作り、動物の肉を切ったり、皮に穴を開けたり、槍先にするなどして使っていた。石器は原石を割って剥片を取り、その剥片の形を整えて作るが、石の割り方ひとつをとってみても、どのように打ち欠いたらどのような割れ方をして、どういう石が取れるということを知って



いなければならぬ。また刃を作るのも技術が必要である。自分で石器作りを体験したあとで、遺跡から出土した石器を見てみると、いかに原始時代の人々の石器作りが優れて

いたかあらためて感じるだろう。

今回は気軽に石器作りに挑戦してみるということで、出土した石器を手本としつつも、それにはこだわらず、自分なりに使える石器を作り、原始時代の人々の技術をわずかでも感じ取ればと思う。また、自分の手で道具を作って使う機会の少ない現代の子どもたちに、物を作ることのおもしろさや難しさを味わってもらえたらとも考える。

## 2. 内 容

## 8月18日(導入・石器づくり)

導入として、常設展示室「最初に住みついた人々」のコーナーにおいて、指導者が石器に関する説明をし、次に搬入口外に移り、同じく石器の作り方の説明と実演を行った。その後、原石を石で割り、剥片を取り、剥片の形を調整するという手順で石器を作った。

## 8月19日(石器を使って料理を作る)

前日に自分たちで作った石器を使って肉や野菜を切り、カレーを作った。また、屋外では土器でお湯を沸かし、ゆで卵を作った。カレーを食べた後、午後は生涯学習課職員に案内してもらい、遺跡からの出土物を整理している山手分室を見学した。

## 中世城館史跡めぐり 「国指定史跡 鉢形城跡見学会」

日 時 平成13年11月11日(日)  
午前7時50分～午後5時

対 象 一般

参加者数 27人

講 師 齋藤慎一氏(江戸東京博物館学芸員)  
石塚三夫氏(寄居町教育委員会文化財保護室主任)

### 1. 趣 旨

昨年の中世史講演会の中で、「中世の城館と武士」というテーマで江戸東京博物館の齋藤慎一氏にお話していただいたが、その際、市内にある大河原城などにも触れていただいたところ、参加者の中から、そういった市内の城館を見学してみたい、という要望が出された。しかし、大河原城やリュウガイ城など市内にある城は山城で、かつ近年の山林の荒廃に伴い道も利用されなくなって荒れている。

そこで中世の城館跡を具体的に知ってもらいた



めの第一歩として、遺構がしっかり残っていて、見学がしやすく、かつ歴史的にも有名な城の見学会を実施することとし、今回は国指定史跡で現在保存整備事業のための発掘調査が実施され、成果があがってきている寄居町の鉢形城を取り上げた。

### 2. 内 容

最初に寄居町教育委員会鉢形城跡調査事務所で、城跡の概要、保存整備状況などの説明を受けた後、出土遺物を見せていただいた。そして、昼食をはさみながら外曲輪、二の丸、三の丸、大手、御殿下曲輪、御殿曲輪、笹曲輪の順に、講師の解説を受けながら歩いた。

## 中世史講演会 「宮寺与七郎と三田氏 —中世・戦国の鎧—」

日 時 平成14年3月17日(日) 午後2時～

対 象 一般

会 場 市民会館202会議室

参加者数 71人

講 師 齋藤慎一氏  
(青梅市文化財保護審議会委員)

### 1. 趣 旨

今年度、常設展示資料である「伝宮寺与七郎当世具足」の調査を齋藤慎一氏に依頼して実施した。宮寺与七郎は、勝沼城(青梅市東青梅)の三田氏に仕えた在地領主で、永禄5(1562)年には、滝山城主北条氏照より所領を安堵されており(大江文書)、宮寺氏は戦国期の入間地方の動向を理解する上での鍵となる人物といえる。

そこで、最新の調査成果を市民に発表するとともに、中世という時代における周辺地域との関わ



りを理解し、現代とは別の視点から飯能市を見直してみるきっかけとする。(なお、この成果は当館研究紀要第2号に所収されている。)

### 2. 内 容

大江文書、和田文書などから宮寺与七郎が三田氏の軍団(勝沼衆)に所属し、最終的には豊臣秀吉の八王子制圧後久須美の土着するまでを描くとともに、戦国時代の軍装と鎧について詳しくお話いただいた。なお、講演会終了後、郷土館に移動し、展示してあった「伝宮寺与七郎当世具足」も解説していただいた。

# 資料・施設の利用

## (1) 収蔵資料の利用（閲覧・貸し出し）

当館は、昔の生活用具や職人の道具などの民俗資料、古文書・典籍などの文献資料、写真やビデオなどの映像資料といった郷土にかかわるさまざまな資料を収蔵している。これらの資料は特別展や講座、学習会など館の主催する事業に使用するだけでなく、資料を傷めない範囲で市民をはじめ、郷土や歴史を研究している人たちに利用していただいている。

(申請月日順)

平成11年度

No.	資料名	利用者名	目的	期間
1	「岩田富之助の葬列」写真など14点	(株)郷土出版社	『奥武蔵の100年』の出版	4/7
2	郷土館外観写真プリントなど2点	(有)タンドリーチキン	『るるぶ情報版 秩父多摩』に掲載	4/9~5/22
3	「大飯線を原市場・名栗経由秩父市に延長する請願書」など4点	(社)飯能青年会議所	「はんなーら」の作成	4/10
4	地券	(株)郷土出版社	『奥武蔵の100年』の出版	4/16
5	『武蔵野電車沿線案内』など4点	(社)飯能青年会議所	「はんなーら」の作成	4/20
6	飯能焼牡丹文土瓶など4点	入間市博物館	「北限への旅路」展開催	4/21~6/19
7	マイギリ・ヒキリウスなど5点	原市場小学校	社会科学学習	4/24~5/2
8	中橋場遺跡出土土器・石器5点	市生涯学習課	南高麗中学校の出張授業	4/28
9	常設展示室写真フィルム2点	(株)ビッグムーン	『紅葉と味覚ドライブの旅』に掲載	5/11~10/7
10	ビデオ「埼玉の民謡 大地を打つ」など3点	飯能の民謡を踊り継ぐ市民ネットワーク	学習	5/11~19
11	ビデオ「埼玉の民謡 大地を打つ」など3点	飯能ケーブルテレビ(株)	番組制作の参考資料	5/19~25
12	「差出申一札之事」など3点	個人	修士論文の作成	5/20
13	旧東飯能駅のレール柱2点	飯能ケーブルテレビ(株)	東飯能駅の移り変わりを紹介	5/25
14	カセット「飯能小唄・武蔵ブルース」	個人	民謡研究	5/30
15	飯能焼梅樹文壺写真プリント	サニープレス	「サニープレス」7月号に掲載	6/3~7/8
16	ビデオ「埼玉の民謡 歌とくらしの1年」など2点	飯能の織物研究会	学習	6/8~7/1
17	斧	西川木楽会	講演会	6/19~20
18	笠縫村御普請場絵図2点	個人	近世村落の治水事業の研究	6/25
19	『埼玉県立自然史博物館総合案内』など2点	飯能第一中学校	学習資料	7/13~14
20	筏流し実演写真フィルム	飯能市環境教育推進委員会	環境教育資料の作成	7/27~8/31
21	『江戸時代の野田をいく』など93点	加治中学校	教材研究	7/29~10/21
22	「防空訓練」などの写真プリント4点	(株)飯能ケーブルテレビ	不発弾処理の特番	7/30
23	「御用人夫請印帳」など4点	個人	修士論文の作成	8/4
24	「木挽き作業」写真プリントなど2点	教育出版(株)	小学校音楽ワークブックの作成	8/5~11/30
25	「御用留」など5点	個人	修士論文の作成	8/10
26	民俗基本調査の図面6点	市生涯学習課	民家調査の資料	8/11
27	『唯一心』	原市場小学校	教材研究「唯一心」に掲載	8/21~11/20
28	『絵馬』展図録	入間市生涯学習課	入間市内絵馬調査参考資料	8/24~9/3

No.	資料名	利用者名	目的	期間
29	『飯能織物』・『飯能絹織物』	織物の研究	飯能の織物研究会	8/24~31
30	『飯能市勢要覧』など3点	玉宝寺	研究	8/26~31
31	『月報名栗川』綴	個人	研究	8/26
32	「第一飯能尋常小学校の運動会」写真プリントなど6点	原市場小学校	飯能市副読本作成の資料	8/29~11/20
33	「学校沿革誌（飯能学校）」など5点	個人	論文の作成	8/29
34	『新編埼玉県史 資料編23』など2点	個人	他市町村史執筆の資料	8/31
35	『飯能織物』・『飯能絹織物』	飯能の織物研究会	飯能の織物調査	8/31~10/19
36	『飯能郷土史』	個人	研究	8/31
37	「御朱印改二付諸事控帳」など7点	個人	能仁寺の朱印状調査	9/1
38	『武陽山能仁寺』など2点	個人	能仁寺の朱印状調査	9/1~7
39	『三富開拓誌』など5点	飯能第一中学校	研究	9/12~14
40	オマキ	飯能の織物研究会	ビデオ作成	9/21~12/10
41	「差出申一札之事」など7点	個人	修士論文の作成	9/29
42	「二眼レフカメラ」写真フィルムなど2点	市秘書室	「広報はんのう」に掲載	9/30~10/1
43	白木正一画「からめとられたもの」など5点	市生涯学習課	山手分室アートサロンに展示	10/1~1/5
44	ナイフ形石器の写真フィルム1点	市秘書室	「広報はんのう」に掲載	10/8~11/12
45	ジョレン・縄モッコなど5点	美杉台小学校	社会科の学習	10/28~11/5
46	箒	飯能の織物研究会	織機の織りつけ準備	11/2
47	NHK筏下り実演ビデオテープなど2点	個人	「筏下り」再現の確認	11/3~5
48	鉄カブト・木銃など16点	自由の森学園高校	日本史の授業教材	11/5~12/9
49	刀鍛冶図絵馬(星宮神社)写真プリント2点	個人	『続・日本山岳伝承の謎』に掲載	11/7~12/22
50	「絵図からの伝言」展解説パネルなど17点	市教育センター	教育用教材	11/9~26
51	万能・千歯扱	飯能第一中学校	授業	11/9~12
52	『飯能市勢要覧』など4点	飯能市体育協会	体育協会50周年記念誌の発刊	11/12~20
53	写真資料カードなど30点	(株)文化新聞社	市勢要覧発行の資料	11/12~26
54	「埼玉国体旗リレー」写真プリント	(株)文化新聞社	国体関係資料募集記事	11/12~16
55	「ジョンソン基地MPとの交流」写真プリントなど4点	飯能市体育協会	体育協会50周年記念誌の発刊	11/12~2/8
56	万能・千歯扱	飯能第一中学校	授業で使用	11/25~26
57	常楽院軍荼利明王立像写真パネルなど2点	飯能西中学校	教材	11/25~30
58	高麗郡上直竹村上分絵図	加治東小学校	社会科の授業	11/26
59	「木挽き作業」写真プリント	教育出版⑭	小学校音楽ワークブックに掲載	12/9~28
60	武州高麗郡双柳村秀常寺由緒之事	個人	『双柳郷土史』(仮)執筆	12/9
61	ガラス戸・板戸	飯能ケーブルテレビ(株)	「うちおり」記録ビデオ撮影	12/11~18
62	『狭山市史 原始古代資料編』	市生涯学習課	報告書の作成	12/16~21
63	「風車式広告塔」写真プリントなど2点	(財)労務行政研究所	『月刊シルバー人材センター』に掲載	12/22~3/4
64	『明治大正昭和 飯能』	市企画調整課	まちづくり計画書の作成	1/5~6/1
65	「飯能駅旧駅舎」写真プリントなど10点	市企画調整課	まちづくり計画書の作成	1/12~6/1
66	『川口市史 考古編』など2点	市生涯学習課	報告書執筆の参考	1/13~31
67	「名栗バス」写真プリントなど3点	市体育課	『飯能市体育協会50周年記念誌』作成	1/15~19



No.	資料名	利用者名	目的	期間
68	『熱病蕨原』3点	個人	河津省庵の研究	1/23
69	高砂・「自宅での結婚式」写真プリント	八潮市立資料館	収蔵品展『嫁』に展示	1/28~3/31
70	飯能村絵図（複製）	個人	資料調査	1/29
71	史料保存台帳』4~7	個人	郷土史研究	1/30
72	真能寺村絵図など9点	個人	資料調査	2/1
73	『鎌倉街道下道』・『秩父甲州往還』	飯能ケーブルテレビ(株)	取材資料	2/9
74	「三村合併祝賀会」写真プリントなど3点	市秘書室	市勢要覧の作成	3/10~31
75	「阿岩橋」写真プリント	市企画調整課	まちづくり計画書の作成	3/14~6/1
76	富山芳男画「黒い上衣」写真プリントなど4点	個人	取材	3/16~4/22
77	『富山芳男展』図録など4点	個人	取材のための参考	3/16~19
78	しちりん	美杉台小学校	火起こしの体験	3/17~23
79	飯能村絵図写真フィルムなど4点	加治中学校	『総合学習ハンドブック』作成	3/24~4/30
80	常設展示室写真フィルムなど5点	加治中学校	『総合学習ハンドブック』作成	3/28~4/15
81	「飯能文化萌ゆ」展文書ファイルなど5点	市生涯学習課	新入職員研修	3/30~4/5
82	「絹は語る」展解説パネルなど3点	市生涯学習課	新入職員研修	3/31~4/5

## 平成12年度

No.	資料名	利用者名	目的	期間
1	『飯能昭和史年表』など8点	市道路課	新入職員研修の資料	4/2~5
2	智観寺板碑写真パネルなど4点	市道路課	新入職員研修の資料	4/4~5
3	ビデオ「埼玉の民謡」など3点	杉の子民謡	民謡を唄う	4/11~12
4	『都幾川村史資料 昭和Ⅱ』	個人	調査	4/12
5	『飯能焼』展図録など16点	飯能第一中学校	社会科の授業で使用	4/18~5/10
6	「飯能時報」	飯能市教育センター	教員研修	4/26
7	『秩父甲州往還』	飯能第一小学校	飯能市研究	4/28~5/9
8	『熱病蕨原』3点	個人	河津省庵と山川揚庵の研究	5/3
9	丸中織物工場写真アルバム2点	飯能第一小学校	飯能市研究	5/3~9
10	「御用留」など7点	個人	旧赤沢村の調査	5/5
11	「村差出明細帳下書」など8点	個人	調査	5/7
12	「大通りの風景」写真	新電元工業⑭	会社50年史の編さん	5/10
13	機織機・クダ巻きなど9点	飯能の織物研究会	うちおり展	6/9~7/2
14	「加治村産業統計下調綴」など12点	加治郷土資料同好会	郷土資料展の準備	6/14
15	黒田幹太郎画「石仏(B)」など3点	飯能第一中学校	美術教育（展示）	6/29~ H14.3/6
16	『入間川の水運』	個人	入間川についての調査	7/1
17	『東吾野郷土誌』	個人	調査	7/2
18	『飯能市史 社寺教会』など3点	個人	レポート	7/5~9
19	「飯能遊覧地設計」など2点	個人	天覧山・多峯主山を中心とした歴史研究	7/16
20	テープ「名栗川愛唱歌」など3点	個人	飯能の民謡に親しむ	7/18~25

No.	資料名	利用者名	目的	期間
21	『新編埼玉県史 民俗1』	市生涯学習課	文化財講座の参考資料	7/18~9/29
22	「入間郡加治村勢要覧」など12点	加治郷土資料同好会	郷土資料展の準備	7/29
23	着物	飯能の織物研究会	研究	8/1
24	鉄カブト・薬莢など24点	中央公民館	「平和について考えてみよう」展で展示	8/3~16
25	『日本刀 21世紀への挑戦』	個人	研究	8/26~9/9
26	唐箕など27点	個人	関東の唐箕の比較研究	8/29
27	唐箕など12点	個人	関東の唐箕の比較研究	8/31
28	東飯能駅他工事写真アルバム	市自治文化課	自治文化センター開設記念展示	8/25~10/10
29	「絵馬」展図録	飯能郷土史研究会	入間市久下稲荷の絵馬調査	8/30~
30	「木馬」・「筏流し」写真プリント	市生涯学習課	文化財講座のちらし作成	9/19~29
31	「旧飯能駅」写真プリント2点	さいたまグラフ	『さいたまグラフ』10月号に掲載	9/22~10/10
32	ジョレン・モッコなど4点	加治小学校	4年生の社会科授業教材	9/28~10/17
33	地租改正地主惣代人誓約書	所沢税務署	租税資料の調査	9/27
34	飯能村絵図（複製）	天覧山・多峯主山の自然を守る会	自然調査の資料	9/27
35	飯能村絵図（複製）	天覧山・多峯主山の自然を守る会	自然調査の資料	9/29
36	「地藏堂念仏講金貨附帳」など2点	個人	研究	9/29
37	「入間郡加治村勢要覧」(加治村役場文書)など8点	加治郷土資料同好会	郷土資料展の準備	10/4
38	長光寺雲版（複製）など14点	中央公民館	郷土史講座	10/7
39	「東飯能駅」写真プリント	市秘書課	「広報はんのう」に掲載	10/12
40	史料保存台帳] 3	所沢税務署	租税史料の調査	10/13
41	『明治大正昭和 飯能』	市生涯学習課	民家調査報告書作成	10/13~2/10
42	高麗郡阿須村絵図	古文書同好会	古文書解読の参考	10/14
43	藤田堀の写真記録	加治東小学校	3年生の授業で利用	10/31~11/7
44	「高麗の里の独楽展」入館状況写真	東洋経済新報社	「住友クォーター」183号に掲載	11/2~1/11
45	振武軍旗写真フィルムなど7点	加治中学校	『総合学習ハンドブック①』の編集	11/1~12/7
46	「吾野村連合運動会」写真プリントなど27点	市秘書課	「広報はんのう」に掲載	11/7~12/26
47	「八高線建設要覧」	個人	八高線建設事情調査	11/12
48	中世史講演会\$講義テープ	個人	中世武士の学習	11/15~16
49	「武州高麗郡加治領苧生村申之御縄取帳」	個人	南高麗郷土史の研究	11/16
50	慰問袋・千人針など8点	自由の森学園高校	社会科の歴史の授業	11/21~12/8
51	「飯能遊覧地設計」	個人	調査	11/21
52	実忠打刀・太刀(「則包」)など9点	飯能刀剣会	市文化祭刀剣鑑賞会の開催	11/26
53	「飯能町明治神宮建設請願書」	個人	本多静六博士資料の追究	11/29
54	『飯能戦争秘話』	個人	大学のレポート作成	12/6~1/17
55	板碑（旧吾野支所）	飯能西中学校	研究授業	12/6~8
56	「絵図からの伝言」解説パネルなど17点	加治中学校	社会科授業の教材	12/6~13
57	「振武軍廻文」（複製）など2点	加治中学校	社会科授業の教材	12/7
58	ビデオ「飯能地方のうちおり」など2点	富士見小学校	授業	1/20~1/30
59	『飯能の水とくらし』	個人	大東郷土史会の参考資料	1/23

No.	資料名	利用者名	目的	期間
60	火ばし・おひつなど7点	富士見小学校	授業	1/23~30
61	史料保存台帳	天覧山・多峯主山の自然を守る会	天覧山・多峯主山の歴史の学習	1/26
62	ビデオ「第8回及び30回奥武蔵駅伝の記録」	奥武蔵駅伝競走大会実行委員会	ありがとう奥武蔵駅伝競走大会記念式典	1/26~31
63	洗たく板・たらいなど19点	精明小学校	社会科学習の参考	2/3~6
64	富山芳男画「室内」	市生涯学習課	教育長室前に展示	2/19~
65	クサビ13点	個人	楔の研究	2/20
66	『新編埼玉県史 通史編6』など2点	個人	学習	2/21
67	飯能村絵図（複製）など2点	天覧山・多峯主山の自然を守る会	環境調査	3/7
68	『小岩井渡場遺跡発掘調査概報』	個人	縄文土器研究	3/10
69	飯能村絵図（複製）	天覧山・多峯主山の自然を守る会	環境講座	3/25

## 平成13年度

No.	資料名	利用者名	目的	期間
1	地口行灯絵5点	飯能ケーブルテレビ(株)	広報番組の素材	4/3
2	黒田幹太郎画「はなと紺」など2点	精明小学校	校内に展示	4/5~ H14.3.29
3	『明治大正昭和 飯能』など2点	個人	郷土学習	4/12
4	「能仁寺明細書」	個人	古文書同好会の資料として	4/21
5	「秩父記」	飯能市教育センター	郷土学習	4/27~5/9
6	マイギリ・ヒキリウスなど5点	原市場小学校	社会科の授業	5/5~6/2
7	『住みよいくらし』	自由の森学園中学校	米作りの基礎的学習資料	5/8~18
8	「振武軍廻文」「御用留」など8点	埼玉県立博物館	「めざせ日本の近代化」展の資料調査	5/17
9	飯能村絵図（複製）	個人	社会科学習の教材	5/20
10	飯能郷土史かるた	個人	郷土史の学習	5/24~27
11	飯能郷土史かるた	自由の森学園中学校	郷土学習	5/24~6/8
12	小川吉蔵氏聞き取り調査筆稿	個人	研究	5/27~29
13	『飯能郷土史』	個人	研究	5/29
14	ヒキリギネ・ヒキリウス4点	美杉台小学校	総合的な学習で火起こし体験	6/1~5
15	ヒキリギネ・ヒキリウス8点	飯能第一小学校	歴史クラブで火起こし体験	6/3~6
16	『飯能戦争』	個人	研究	6/5
17	蔵原伸二郎画「竹の子」図など14点	個人	研究	6/17
18	ヒキリギネ・ヒキリウス8点	飯能第一小学校	歴史クラブで火起こし体験	6/17~21
19	桑摘み爪・コノメなど6点	加治東小学校	総合的な学習の資料	6/20~7/20
20	『前ヶ貫今昔』	美杉台小学校	5年生の総合学習の資料	6/22~7/7
21	『久留里城誌』・『黒田家資料展』パンフレット	個人	歴史の勉強	6/22~28
22	「土地台帳謄本」など3点	市道路課	資料調査	6/26
23	「差上申済口証文之事」1点	個人	町内祭礼と市立の考察	6/29
24	飯能焼梅樹文壺写真フィルムなど2点	(株)山川出版社	『陶磁器の世界』に掲載	7/6~8/15
25	ざる・茶摘みかご	山口大学人文学部	竹籠の研究	7/18
26	ビデオ「飯能地方の“みんよう”と情景」など2点	個人	わらび座公演のための郷土調査	8/3~14

No.	資料名	利用者名	目的	期間
27	飯能町市街図	個人	夏休みの自由研究	8/12
28	『飯能祭囃子と獅子舞』など2点	個人	夏休みの自由研究	8/16~24
29	『武陽山能仁寺』	個人	歴史研究	8/17~22
30	『埼玉の祭囃子、』	個人	自由研究	8/22~24
31	『飯能祭囃子と獅子舞』など5点	個人	自由研究	8/24~9/1
32	飯能焼波千鳥文片口小鉢写真プリント	市秘書課	『広報はんのう』に掲載	8/24~9/5
33	『飯能の伝説』	個人	学習教材	8/26~30
34	小説「HANNO」原稿など27点	埼玉県立平和資料館	「埼玉へ疎開した文化人たち」展資料調査	8/31
35	ヨキ・鯉・皮むき鎌など7点	個人	総合学習「森林について」	9/1
36	飯能村絵図写真フィルム4点	個人	『地理教育におけるGISの活用』出版	9/11~10/18
37	蔵原伸二郎画「竹の子」図など21点	埼玉県立平和資料館	「埼玉へ疎開した文化人たち」展資料調査	9/12
38	蔵原伸二郎詩「名栗川」原稿写真フィルム	埼玉県立平和資料館	「埼玉へ疎開した文化人たち」展図録作成	9/12~10/18
39	『飯能戦争』	個人	学習	9/14~27
40	「豆州行雑記」など3点	古文書同好会	『大河原亀文旅日記』の取材	9/18
41	武蔵国分寺文字瓦(織戸市郎氏旧蔵)など26点	窯業史博物館	文字瓦研究	9/27~12/14
42	『日高市史 通史編』	個人	境氏の研究	9/27
43	白黒テレビ写真プリントなど6点	瑞穂町立瑞穂第五小学校	瑞穂町社会科副読本作成	9/28~12/14
44	岡部均平肖像画写真プリント	(財)埼玉県中小企業振興公社	月刊誌「アクセスさいたま」に掲載	10/11~11/1
45	蔵原伸二郎画「竹の子」図ほか21点	埼玉県立平和資料館	「埼玉へ疎開した文化人たち」展出品	10/18~12/13
46	「堰堤築立工事状況」写真プリントなど8点	副読本編集委員会	副読本編集委員会資料の作成	10/19
47	「飯能銀行旧本店」写真パネル	個人	創立100周年記念展示準備	10/24~25
48	糸かえし座繰り・座繰り	加治東小学校	総合的な学習で糸をつむぐ体験	10/25~11/8
49	『飯能消防団の50年』など2点	個人	面接の準備	10/27
50	短刀(銘「関住兼 〇 〇」)	飯能刀剣会	市文化祭刀剣展で展示	11/4
51	「絵図からの伝言」展解説パネル16点	加治中学校	社会科の授業教材	11/9~23
52	「筏流し」写真プリント	埼玉県河川砂防課	パンフレットに掲載	11/9~12/5
53	『飯能市史 通史編』など7点	個人	天覧山・朝日山の明治神宮調査	11/10
54	『「帝王切開術発祥の地」記念会誌』	個人	飯能の村医者について調べる	11/10
55	『飯能市史 植物』	美杉台小学校	学習資料	11/15~12/5
56	飯能焼瓢筆文鶴首徳利写真フィルム	(株)角川書店	『角川日本陶磁大辞典』に掲載	11/10~7/12
57	振武軍旗・飯能戦争砲弾写真フィルムなど5点	埼玉県立博物館	「めざせ日本の近代化」展図録作成	11/29~2/23
58	『尋常小学校国語読本』巻1など11点	飯能友好病院	痴呆高齢者の回想法治療	12/5~2/28
59	川寺村全図など2点	古文書同好会	史料の調査	12/5
60	刀(無銘)	飯能刀剣会	刀剣の調査	12/8~11
61	高麗郡上直竹村上分絵図など16点	飯能市コンピュータ利用教育研究会	教材研究	12/12
62	御普請願図・飯能村絵図(複製)など5点	市教育センター	中学校社会科授業の教材利用	12/18
63	郷土館開館までの資料ファイルなど26点	個人	調査	12/19~1/24
64	「飯能時報」	市教育センター	社会科副読本に利用	12/19
65	『名栗川』(合本)	個人	金属調査の資料	12/20

No.	資料名	利用者名	目的	期間
66	「大通り商店街」・火のしなどの写真プリント10点	市教育センター	社会科副読本に利用	12/22~2/15
67	聞き取りカセット「筏について」	個人	林業の勉強	1/10
68	御普請願図などの写真フィルム5点	市教育センター	社会科研究授業の教材作りの材料	1/11~18
69	『飯能の水とくらし』	個人	小学校の教材	1/14
70	早瀬龍江画「水の中」	市秘書課	展示	1/16~
71	『名栗川』(合本)	個人	金属調査	1/17
72	土がため・ツルハシなど8点	美杉台小学校	社会科の学習資料	1/23~2/2
73	『名栗川』(合本)	個人	金属調査	1/23
74	『名栗川』(合本)	個人	金属調査	1/24
75	「筆子門人記」	個人	学校の授業	1/24
76	『東吾野小学校開校百周年記念誌』など6点	個人	「なんじゃもんじゃタイム」の勉強	1/25
77	『飯能市史 自然』	美杉台小学校	総合学習	1/26~2/26
78	ヒキリギネ・ヒキリウス9点	ボーイスカウト飯能3団	野外活動	1/27~2/20
79	「宮沢湖堰堤工事」写真プリント8点	美杉台小学校	社会科の学習資料	1/30
80	「須田家日記」3点	個人	学校の授業	1/31
81	『名栗川』(合本)	個人	金属調査	2/2
82	『武陽山能仁寺』	個人	歴史の勉強	2/2
83	『名栗川』(合本)	個人	金属調査	2/5
84	板碑(旧吾野支所)45点	石仏談話会	石仏学習	2/9
85	「風車式広告塔」写真プリントなど3点	市秘書課	彩の国デジタルアーカイブ事業協力	
86	ビデオ「双柳雛子連保存会」など3点	個人	鑑賞	2/8
87	『名栗川』(合本)	個人	金属調査	2/10
88	『名栗川』(合本)	個人	金属調査	2/14
89	「御用留」など9点	埼玉県立博物館	「めざせ日本の近代化」展の開催	2/15~4/11
90	小島喜八郎画「飯能織物共同組合」など9点	市財政課	庁舎内に展示	3/1~5/29
91	『名栗川』(合本)	個人	金属調査	2/19
92	ナイフ形石器などの写真フィルム6点	市生涯学習課	「はんのうし遺跡地図」への掲載	2/19~3/28
93	五玉算盤・そろばん	個人	小学生の学習	2/21
94	双木本家飯能焼コレクション写真フィルムなど2点	市秘書課	市勢要覧作成	2/28~3/10
95	黒田幹太郎画「さびはなのうた」	飯能第一小学校	美術鑑賞(展示)	3/5~
96	「上野不忍池畔競馬会」写真	(株)講談社	『再現日本史』56号に掲載	3/6~13
97	しゅろみの・あんどんなど4点	東吾野小学校	3年生の社会科学学習	3/1~8
98	カセット「飯能小唄・武蔵ブルース」など2点	個人	勉強	3/10
99	飯能村絵図(複製)	天覧山・多峯主山の自然を守る会	土地利用学習	3/13
100	黒田幹太郎画「はな」・「温閑」など3点	東吾野小学校	美術鑑賞(展示)	3/14~
101	黒田幹太郎画「半透明の彩韻」など2点	精明小学校	校内に展示	3/29~
102	地口絵2点	市秘書課	市勢要覧作成	3/15
103	「鉄道馬車」写真パネルなど27点	商店街の振興を考える会	「飯能街まちなお宝展」開催	3/18~24
104	黒田幹太郎画「石仏」	飯能西中学校	絵画鑑賞(展示)	3/19~
105	小島喜八郎画「久下稻荷踏切」など2点	飯能西中学校	絵画鑑賞(展示)	3/19~9/18
106	七輪2点	美杉台小学校	社会科の学習	3/19~20

## (2) 施設の利用

飯能市郷土館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

### ① 特別展示室

特別展示室の利用に関しては

- (1) 営利を目的とする利用はできない。
- (2) 個展としての利用はできない（ただし飯能の歴史や文化風土に関するもの場合は除く）。
- (3) 開始4ヶ月前までに申込をしてもらいそれを郷土館協議会で審議して利用を決定する。  
という条件が郷土館協議会で決められているが、平成11年度から13年度にかけての利用はなかった。

### ② 学習研修室

学習研修室は、当館の主催事業のほか、飯能の歴史や地域文化の振興に関わる学習活動を行っている団体、サークルに利用されている。その他、団体での見学者や市内の小学生の見学、他の市町村からの視察の対応などにも使用されている。

#### 平成11～13年度学習研修室利用実績

年度	利用日数	恒常的活動（サークル）			見学など		事業など（件数）		合計（年間）		年間入館者数に しめる割合
		団体数	件数	人数	件数	人数	館主催	その他	件数	人数	
11	103	9	89	1,050	11	756	40	12	152	1,806	7.0%
12	125	10	84	867	12	664	47	8	151	1,531	6.0%
13	118	8	58	805	14	769	49	12	133	1,574	5.5%

〈凡例〉 ・合計の件数は、「恒常的活動」、「見学等」、「事業など」の件数を合計したもの  
・合計の人数は、「恒常的活動」、「見学等」の人数を合計したもの

### ◎主な活動団体

古文書同好会・飯能郷土史研究会・多聞の会・石仏談話会・ずい筆の会・飯能市郷土館友の会・飯能の織物研究会・古文書勉強会・飯能を学ぶ会・天覧山、多峯主山の自然を守る会・染料植物研究会

#### ◎平成13年度末現在で活動している学習サークル

##### 古文書同好会

設立 平成3(1991)年4月  
目的 飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究  
及びその活字化。  
代表者 新井 秀穂  
会員数 13人  
活動 毎月第1・3土曜日

##### 多聞の会（仏教美術学習会）

設立 平成6(1994)年11月  
目的 仏像・仏画・仏教建築の学習  
代表者 綾部 光芳  
会員数 30人  
活動 8月を除く毎月第3木曜日に例会(うち見学会3回)。

##### 石仏談話会

設立 平成7(1995)年1月  
目的 石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ。  
代表者 森田 道男  
会員数 20人  
活動 第1土曜日に活動(奇数月が学習会、偶数は見学会)。

##### 飯能郷土史研究会

設立 昭和48(1973)年7月  
目的 郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。  
代表者 坂口 和子  
会員数 83人  
活動 年6回の例会

##### 飯能市郷土館友の会

設立 平成2(1990)年4月  
目的 1. 郷土館活動を後援し、同時に会員相互の連携と親睦を深める。  
2. 展示・収蔵資料を通して知識を培い、飯能市の歴史にもとづく文化活動を広めていく。  
代表者 大野 邦弘  
会員数 345人  
活動 まゆ玉作りなどの例会を開催している。

##### 染料植物研究会

設立 昭和55(1980)年6月  
目的 野山(庭)の草木、季節の植物で染めて、自由に製作する。(当館西側の空き地に野草を栽培)  
代表者 岩橋 みつ  
会員数 16人  
活動 不定期

平成8年度から17年度までの10年間を対象とした「第三次飯能市総合振興計画」の中で、「まちづくりの基本理念」のひとつとして、「市民参加の確立と連帯の原則」が掲げられている。また、平成10年3月にまとめられた「飯能市郷土館常設展示等企画委員会報告」においても、市民が様々な場面で郷土館活動に関わることの必要性が提言されている。

こうした流れの中で、当館でも平成11年度に開館10周年を迎え、新たな活動を展開していく時期に入ってきたといえる。それがこの「交流」活動である。当館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とするこの活動は、郷土館において展開される市民参加型事業ともいうことができる。

## 定点撮影プロジェクト



定点撮影プロジェクト2001展（郷土館）



定点撮影プロジェクト2001展  
(まるひろ百貨店東飯能店8階・自治文化センター)

### 1. 趣旨

写真は時代を記録する有効な手段である。その写真の記録性を認識し、参加者が写真を撮影することによって、飯能の歴史を記録し、残していく主体者となってもらう。その写真は郷土館の歴史資料として蓄積されていくことになるが、このプロジェクトの参加者が、歴史をより深く認識し、歴史の意味を考えるようになることを最終的な目標としたい。

### 2. 活動方針

- ・誰もが気軽に参加できる。
- ・参加者が郷土館とともに主体的に考え、実施していく。
- ・継続を第一に考える。

### 3. 事業の内容

#### ① 打ち合わせ

その年の活動について、撮影時期、地点撮影の方針やテーマ別撮影のテーマなどについて参加者で話し合う。

#### ② 撮影

その年の活動内容が決まったら、フィルムを参加者1人に1本ずつ配布し、決められた期間内

に撮影をしていただく。撮影対象には地点撮影とテーマ別撮影の二つがある。

#### A 地点撮影

通り・駅前・交差点など昔から写真に撮られているところや変化の激しいところ、橋や学校など地域のランドマークとなるようなところを定期的に撮影する。撮影地点は最初のみ当館で設定し、2年目以降は参加者の意見も取り入れて行っている。(担当)

地点撮影は基本的に旧村単位(吾野・東吾野・原市場・南高麗・加治・旧飯能・精明)で行い、その地区に在住している参加者が行う。

(撮影頻度)

地域によって変貌の速度は異なるので、変化の激しい市街地は毎年、1年ではそれほど変わらない山間部では最少でも5年に1度は撮影するものとする。

(撮影地点)

アングル数 160

#### B テーマ別撮影

地点撮影だけだと日常的な生活を写真で残すことは難しいので、それを補うために毎年テーマを設定して行うもの。テーマは毎年参加者との話し合いで決めている。

- ・平成10(1998)年度「働く人々」
- ・平成11(1999)年度「水と生活」  
川や堀に関するものを中心に「水に関するもの」を撮影した。
- ・平成12(2000)年度「ミレニアム」  
この年は、ちょうど1900年代から2000年代へと移行する1000年に1度の年であり、様々な記念行事が予定されていたり、2000年問題への対処なども話題になっていた。こうした特殊な条件下だからこそ撮影できるものや、その節目に生きた人々の暮らしぶりを撮影し、記録した。実施したのは平成11年度になるが、撮影時期が限定されるので、前倒しして平成12年度のテーマ別撮影として行った。
- ・平成13(2001)年度「昭和」  
平成に入って10年以上たち、私たちの中でも昭和の時代の記憶が遠のいていく中、改めて周囲を見回してみると昭和の痕跡はまだそこかしこで見つけることができる。こうしたものを写真で撮影すると同時に、参加者自らがそれについて人から聞いたり、本で調べたりして、「昭和」を記録しようと試みた。

③ 記録

参加者は自分が撮影した内容をフィルム台帳

に記入し、提出する。合わせて定期的に撮影する地点と決めた場所については、撮影場所、撮影目標、撮影の際の注意点などをまとめた「撮影地点カード」を作成し、別の人が担当になっても同様の写真が撮影できるようにしておく。

④ 展示

撮影した写真は、同じ年度中に郷土館などで展示する。展示作業や写真のキャプション執筆などにもできるだけ参加していただいている。

4. 参加者数

23人(平成13年度末現在)



展示準備会(2001.7.8)

〈撮 影〉

	地 点	テーマ別		参加者数
	期 間	テーマ	期 間	
平成10(1998)年度	11/2(月)~8(日)	働く人々	11/2(月)~8(日)	17
平成11(1999)年度	6/7(月)~27(日)	水と生活	6/7(月)~8/31(火)	28
平成12(2000)年度	9/1(土)~30(金)	ミレニアム	(1999)12/1(水)~ (2000)1/31(月)	23
平成13(2001)年度	5/14(月)~6/17(日)	昭和	5/14(月)~6/17(日)	22

〈展 示〉

	期 間	会 場	日数	入館者数
平成10(1998)年度	11/28~12/6(日)	当館展示ホール		(特別展の中にコーナーを設けて展示)
平成11(1999)年度	(前)7/6(火)~8/31(火)[地点]	当館展示ホール	72	5,467
	(後)9/1(水)~30(木)[テーマ]			
平成12(2000)年度	(前)7/2(日)~23(土)[テーマ]	当館展示ホール	18	1,354
	(後)3/4(日)~4/8(日)[地点]		30	2,682
平成13(2001)年度	7/15(日)~8/26(日)	当館展示ホール 特別展示室	36	3,206
	9/2(日)~30(日)	自治文化センター	25	(データなし)



## ◆活動の記録

### 平成 10 年度

この活動は、元々平成10年度秋に開催された特別展「時の記憶 - 飯能の写真展-」の付帯事業として開始された。

**10月15日(木)**

広報はんのうにて参加者募集の周知

**11月1日(日)**午後1時～〈第1回打ち合わせ〉

内 容 趣旨の説明、撮影地点分担、テーマ別撮影話し合い

参加者 15人

(撮影：11/2～8)

**12月6日(日)**午前10時～〈記録会・反省会〉

内 容 撮影記録の作成、来年の活動に向けての意見交換

参加者 15人

### 平成 11 年度

**4月18日(日)**午後1時30分～〈第1回打合せ〉

内 容 撮影時期、テーマ別撮影のテーマなど  
参加者 11人

**5月15日(土)**

「広報はんのう」で参加者募集の周知

**6月6日(日)**午後1時30分～〈第2回打合せ〉

内 容 撮影地点の分担、テーマ別撮影のテーマなど

参加者 17人

(地点撮影：6/7～27)

(テーマ別撮影：6/7～8/31)

**7月18日(日)**午後1時30分～

〈記録会・反省会〉

内 容 今年度の反省と来年度の課題について意見交換

参加者 13人

**11月21日(日)**午後1時30分～

〈2000第1回打合せ〉

内 容 地点撮影の時期、テーマ別撮影のテーマの検討

参加者 18人

(テーマ別撮影：12/1～1/31)

**3月19日(日)**午後1時30分～〈記録会・打合せ〉

内 容 テーマ別撮影の記録作成、地点撮影の時期など検討

参加者 11人

### 平成 12 年度

**5月29日(月)**

NHKラジオ「さいたま情報ランチ」でPR

**8月20日(日)**午後1時30分～〈第2回打合せ〉

内 容 撮影地点の割り振り、フィルム配布

参加者 12人

(撮影：9/1～30)

### 平成 13 年度

**4月1日(日)**午後1時30分～〈第1回打合せ〉

内 容 遠景撮影の方法統一化、実施時期、テーマなどについて検討

参加者 8名

**5月13日(日)**午後1時30分～〈第2回打合せ〉

内 容 地点の割り振り、展示の内容、時期などについて検討

参加者 13人

(撮影：5/14～6/17)

**6月24日(日)**午後1時30分～〈展示打合せ〉

内 容 展示する写真の選択、今後の準備予定を確認

参加者 4人

**7月8日(日)**午後1時30分～〈展示準備会〉

内 容 写真をのりパネに貼るなどの展示準備

参加者 8人

**7月15日(日)**午後1時30分～〈展示作業〉

参加者 3人

**8月26日(日)**午後1時30分～〈反省会〉

参加者 9人

**9月2日(日)**午後1時30分～〈展示作業〉

場 所 自治文化センター(丸広百貨店東飯能店8階)

参加者 6人

**2月10日(日)**午後1時30分～

〈2002第1回打合せ〉

内 容 写真の整理方法、平成14年度の活動について意見交換

参加者 13人

# 市民学芸員

当館の「市民学芸員」制度は、平成8年度・9年度の2年間にわたり、当館の課題を明らかにするために有識者を招いて設置された「常設展示等企画委員会」の報告に盛り込まれていたものに、生涯学習の機会とする点を肉付けして実施することになったものである。多様な博物館活動の中で担当すべき分野を設定した上で、市民を対象に公募している。参加希望者は、養成講座を受講し、その後実務に従事していただいている。

## 1. 目的

この制度は、飯能市郷土館が行う活動に、生涯学習の一環として参加し、郷土館の事業の一部を体験学習しながら協力し、郷土館の事業に多くの市民がかかわることを通じて、誰もが身近に感じられ、親しみをもてる郷土館の運営を図ることを目的とする。

## 2. 対象者

市内に在住し、20歳以上で、郷土館事業活動に対して参加を自発的に希望する人。

## 3. 学習参加内容

- (1) 市民学芸員は、郷土館が実施する博物館基礎講座を受講する。
- (2) 郷土館関係者の指導・助言を受けながら次の事項を学習する。
  - ・郷土の考古・歴史・民俗等の人間の生活及び文化に関する資料を調査、研究し、展示企画、展示解説、体験学習講

座等でその活用を図ること。

- (3) その他、市民の郷土愛と文化の向上に寄与するために必要とする郷土館活動

## 4. 参加方法

- (1) 参加希望者は、公募に応募し、博物館基礎講座を受講し、3の(2)、(3)を学習する。
- (2) (1)の学習を受講し、郷土館活動を体験学習した後、「飯能市郷土館市民学芸員証」の交付を受ける。
- (3) 活動時には、市民学芸員とわかるように郷土館の名称が入った名札をつける。
- (4) 市民学芸員は、原則として保険に加入する。(自己負担)
- (5) 活動は、この要項に賛同する市民学芸員の自発的な無償学習活動とする。
- (6) 市民学芸員は、市民共有の財産である収蔵資料等を破損・紛失しないように注意しなければならない。

## 第1期(平成11～12年度)

## 特別展企画運営参加型

### ◎養成講座(対象者:21人)

講師 村上義彦(当館嘱託員)

時間 午後1時30分から(3/19を除く)

#### 1月29日(日)開講式/「博物館とは」

参加者 16人

#### 2月6日(日)「博物館発達史」

参加者 19人

#### 2月11日(金)「博物館の四大機能と将来的な変貌」

参加者 15人

#### 2月13日(日)「資料情報だけが博物館情報ではない」

参加者 18人

#### 2月20日(日)「博物館経営」

参加者 16人

#### 3月5日(日)「郷土館常設展示室と収蔵庫探検」

参加者 16人

#### 3月12日(日)「展示とその企画①」

参加者 11人

#### 3月19日(日)午後2時～3時40分

戸田市立郷土博物館見学

参加者 12人

#### 3月20日(月)「展示とその企画②」

参加者 15人

#### 3月26日(日)「展示とその企画③」

参加者 14人

### ◎実務実習(対象者:10人)

指導 村上義彦(当館嘱託員)

時間 午後1時30分から

#### 4月16日(日)

内容 グリッド方式による展示企画

- 参加者 8人  
**5月14日(日)**  
 内容 収蔵資料選択実習  
 参加者 4人  
**5月21日(日)**  
 内容 「飯能の戦後史」(講義)  
 講師 浅見徳男氏(飯能教育センター所長)  
 参加者 5人  
**5月28日(日)**  
 内容 展示企画構成案作成実習  
 参加者 6人  
**6月4日(日)**  
 内容 展示課題・ポスター原案・ジオラマ  
 原案検討、展示解説について  
 参加者 3人  
**6月11日(日)**  
 内容 ジオラマ展示レイアウト案検討  
 参加者 4人  
**6月18日(日)**  
 内容 展示図作成  
 参加者 8人  
**7月2日(日)**  
 内容 ジオラマ・ステージ構成、印刷物追加  
 検討  
 参加者 4人  
**7月9日(日)**  
 内容 図録編集について



「飯能、戦後の暮らし」展 展示解説(第1期)

- 参加者 4人  
**7月23日(日)**  
 内容 図録執筆分担指名  
 参加者 5人  
**8月18(金)・19日(土)**  
 夏休み親子歴史教室運営  
 参加者 のべ14人  
**8月27日(日)**  
 内容 ポスター原案作成、南ステージ(ジオ  
 ラマ案)作成  
 参加者 3人  
**9月10日(日)**  
 内容 体験学習テーマ検討、展示解説準備、  
 展示作業説明  
 参加者 4人  
**9月17日(日)**  
 内容 体験学習実施予定種目・日時検討、展  
 示解説、各自シナリオ作成、展示作業  
 説明  
 参加者 8人  
**9月24日(日)**  
 内容 体験学習実施に向けた注意  
 参加者 6人

**実務** ～特別展「戦後の暮らし」～

●体験教室

11月3日(金)・12日(日)  
 午前10時30分・午後2時

●展示解説

10月8日(日)・9日(月)・29日(日)  
 11月5日(日)・23日(木)・26日(日)・12月3日(日)  
 いずれも 午後2時～

**12月10日(日)** 午前10時30分～

内容 認定証交付式・反省会  
 参加者 6人

**第2期(平成12～13年度)**

**博学連携事業参加型**

◎養成講座(対象:30人)

講師 村上義彦(当館嘱託員)  
 (2/6・18・25を除く)

時間 午後1時30分～

**2月4日(日)** 開講式/「博物館とは」

参加者 28人

**2月6日(火)** 午前10時～12時

戸田市立郷土博物館博学連携事業見学会  
 参加者 19人

**2月11日(日)** 「生涯学習時代の博物館活動」

参加者 25人

**2月18日(日)** 「博学連携事業の重要性」

- 講師 大竹 仁氏(朝霞市教育委員会指導課長)  
参加者 27人
- 2月25日(日)「体験学習を語る」  
講師 朱通祥男氏  
(埼玉県立民俗文化センター次長)  
参加者 24人
- 3月4日(日)「博物館の四大機能と情報」  
参加者 22人
- 3月11日(日) 演習「博物館収蔵資料の教材化(1)  
-郷土館資料の教材化-」  
参加者 20人
- 3月18日(日) 演習「博物館資料の教材化(2)  
-教科書単元と対応資料-」  
参加者 24人
- 3月25日(日)「学習支援活動へ」  
参加者 24人

◎実務実習(対象 29人)

- 5月20日(日)  
内容 実習についての説明  
参加者 24人
- 6月10日(日)  
内容 飯能の歴史概論①(講義)  
講師 浅見徳男氏(飯能市教育センター所長)  
参加者 23人
- 6月17日(日)  
内容 飯能の歴史概論②(講義)  
講師 浅見徳男氏(飯能市教育センター所長)  
参加者 24人
- 7月22日(日)  
内容 夏休み親子歴史教室説明  
参加者 18人



小学3年生の郷土館見学で説明(第2期)

- 8月5日(日)  
内容 夏休み親子歴史教室リハーサル  
参加者 22人
- 8月18日(土)・19日(日)  
内容 夏休み親子歴史教室運営  
参加者 のべ34名
- 10月7日(日)  
内容 「小学3年生の郷土学習について」  
講師 菱 吉信氏(飯能第一小学校)  
参加者 21人
- 10月21日(日)  
内容 小学3年生見学対応の内容説明  
参加者 17人
- 11月8日(木)  
内容 小学3年生見学対応リハーサル  
参加者 18人
- 11月28日(水)  
内容 小学3年生見学対応リハーサル  
参加者 20人
- 12月7日(金)  
内容 小学3年生見学対応リハーサル  
参加者 16人
- 12月16日(日)  
内容 小学3年生見学対応リハーサル  
参加者 17人

実務	小学3年生見学対応
----	-----------

No.	対応日	小学校	時間	参加者
1	1.10(木)	美杉台	9:30~11:30	10
2	1.16(水)	加治東	9:50~11:10	8
3	1.17(木)	原市場	9:30~11:00	10
4	1.18(金)	飯能第二	9:30~11:30	11
5	1.22(火)	加治	9:50~11:20	11
6	1.24(木)	富士見	9:30~11:30	11
7	1.30(水)	精明(出張)	10:15~12:25	10
8	1.31(木)	南高麗	9:40~11:10	10
9	2.2(土)	双柳	9:30~11:00	11
10	2.6(水)	東吾野	9:30~11:30	11

- 3月24日(日) 午後1時30分~  
内容 認定証交付・小学3年生見学対応反省会  
参加者 19人

## ● 小学3年生見学対応

飯能市内の小学3年生は、「飯能市のうつりかわり」の単元のところで昔の暮らしを学ぶことになっている。そのため例年1月から2月にかけて学校ごとに見学に来るが、当館では、事前に一度先生方にご来館いただいた上で見学内容について打ち合わせを行い、できるだけその目的が達せられるようにしたいと考えている。しかし、実際は、学校側の意向というよりは、当館から提案したプログラム



に沿った形で内容が決まることが多く、協同でプログラムを開発したり、チームティーチングを行う段階には至っていない。当館で用意しているのは以下のプログラムである。

### ① 常設展示見学

地形模型、長光寺雲版（国指定重要文化財）、飯能縄市、西川林業の4つのテーマを解説する。

### ② 民具クイズ

昔の生活道具十数点を観察したり、触ったりして、その用途と考え、カードを使って現在の電化製品と同じ働きをするものを組み合わせる。

### ③ 体験学習

火のし、石臼、缶ポックリといった道具を使ったり、天秤棒による水汲み、<sup>たらい</sup>盥と洗濯板による洗濯など昔の生活を体験する。

なお、平成13年度からは、博学連携事業に従事するために養成された第2期市民学芸員24名とともに対応している。そのため従来より早めに準備を進めることになり、学校と調整して見学日を10月中に決定し、11月には各学校と打ち合わせを行った。

## 平成12年度小学3年生見学対応内容一覧

No.	見学日	小学校名	人数	時間(分)	内 容			
					展示	クイズ	体 験	その他
1	10.6(金)	精明	49	105	○	○	—	—
2	1.17(金)	飯能第二	37	120	—	—	火のし・洗濯・精米	民具説明
3	1.23(火)	双柳	91	90	○	○	火のし・洗濯・精米	—
4	1.25(木)	美杉台	98	120	○	—	火のし・洗濯・缶ポックリ	—
5	1.31(金)	原市場	114	120	○	○	火のし・洗濯・缶ポックリ	—
6	2.1(木)	東吾野	18	90	—	○	火のし・石臼	—
7	2.8(木)	富士見	92	120	○	○	火のし・石臼・缶ポックリ	—
8	2.15(木)	加治東	86	60	—	○	火のし・石臼	—
9	2.27(火)	南高麗	29	100	—	○	火のし・石臼・桶	収蔵庫見学

## 平成13年度小学3年生見学対応内容一覧

No.	見学日	小学校名	人数	時間(分)	内 容		
					展示	クイズ	体 験
1	1.10(木)	美杉台	91	120	○	○	火のし・石臼
2	1.16(水)	加治東	75	80	○	○	火のし・石臼
3	1.17(木)	原市場	104	110	○	○	火のし・石臼
4	1.18(金)	飯能第二	31	120	○	○	火のし・石臼
5	1.22(火)	加治	117	90	○	○	石臼・洗濯
6	1.24(木)	富士見	103	120	○	○	火のし・石臼
7	1.30(水)	精明(出張)	47	90	—	○	火のし・石臼
8	1.31(木)	南高麗	21	110	○	○	火のし・石臼
9	2.2(土)	双柳	79	90	○	○	火のし・石臼
10	2.6(水)	東吾野	22	120	○	○	火のし・石臼

## ● 小中学校社会科研究展

### 1. 趣旨

社会科教育において、近年新しい学力観に立つ教育の必要性、特に主体的に学習する能力の育成が叫ばれるようになった。そうした中、夏期休業中は比較的余裕があるので、市内の中学校では、自由研究を課すところが多くなった。

ところで、現在理科や技術家庭科、美術科においては、作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているが、社会科においては同様の機会はない。しかし、生徒の地域研究の意欲は強く、研究の質はかなり高い。このような作品を公共の場で広く市民に公開し、評価していただく場を設けることは、極めて教育的効果が高いと考えられる。

なお、この展示は平成13年度より対象を小学校まで広げて行われるようになった。

### 2. 期間

- 〔平成11年度〕 9月11日(土)～26日(日)
- 〔平成12年度〕 9月9日(土)～17日(日)
- 〔平成13年度〕 中学校 9月8日(土)～14日(金)  
小学校 9月15日(土)～26日(水)

### 3. 展示点数

- 〔平成11年度〕 78点(86人)
- 〔平成12年度〕 81点(81人)
- 〔平成13年度〕 小学生 59点(59人)  
中学生 65点(65人)

### 4. 入館者数

- 〔平成11年度〕 1,182人(1日平均 98.5人)
- 〔平成12年度〕 542人(1日平均 77.4人)
- 〔平成13年度〕 1,531人(1日平均 102.1人)



中学校社会科研究展の展示作業

## ● 出張授業

### 平成11年度

社会科授業研究会(埼社研西部ブロック・人間社研)  
加治中学校

#### 「郷土飯能のスペシャリストになろう」

- 日時 平成11年11月26日(金) 午後1時25分～
- 対象 加治中学校2年生(30分×3回)
- 授業名 「昔の写真からわかることは何だろう」
- 担当 尾崎泰弘(当館学芸員)
- 内容 大正10年代に撮影された加治地区の写真と現在を比較し、その変貌ぶりを解説した。

※この授業の一部は、加治中学校で発行した総合学習ハンドブック「調べてみよう ふるさと飯能・加治」(平成12年3月発行)に掲載されている。

### 平成12年度

加治中学校

#### 「郷土飯能のスペシャリストになろう」

- 日時 平成12年12月7日(木) 午後1時35分～
- 対象 加治中学校2年生60人(25分×2回)
- 授業名 「鎌倉時代の戦の話」
- 担当 尾崎泰弘(当館学芸員)
- 内容 加治氏について、治承・寿永期の戦の様子を交えながら解説した。

### 平成13年度

加治中学校

#### 「郷土飯能のスペシャリストになろう」

- 日時 平成13年11月22日(木) 午後1時35分～
- 対象 加治中学校2年生36人(25分×2回)
- 授業名 「明治維新と飯能」
- 担当 尾崎泰弘(当館学芸員)
- 内容 市指定文化財「振武軍廻文」を教材に飯能戦争など幕末の飯能の状況を解説した。

## ● その他

### 職業体験の受け入れ

- 日時 平成13年5月22日(火)～24日(木)  
午前9時～午後3時
- 学校名 飯能第一中学校1年生3人
- 内容 収蔵資料の整理、民具の調査・展示

# レファレンスの対応

当館には、展示を見学したり講座に参加したりするだけでなく、自分で学習を進めるため、あるいは授業に使うための様々な地域の情報、資料などを求めて来館される方がいる。そのような来館者の対応も当館にとって重要な仕事のひとつである。方法としては、窓口で直接、あるいは電話でお話をうかがいお答えするものと、「なぜなにポスト」を使っての問い合わせに対し返事を出すといった二つの方法がある。

## ① 窓口(電話)での対応

来館者が窓口や電話で問い合わせる内容には、観光地への道筋や文化財の位置などその場で答えられる軽微なものから、暫く時間をいただき調査しないと答えられないものまで様々である。このうち調査を行い資料、情報などを提供した場合には、対応内容や提供した資料などを「レファレンス対応記録表」に記入している。その理由は、それが特別展

のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じ様な問い合わせがあった場合に時間、作業の無駄を省くためである。平成11年度から13年度に照会のあったもののうち、レファレンス対応記録表に記録された問い合わせ内容は以下のとおりである。

### 平成11年度

No.	照会日	内 容	回答日	照会者
1	4.9	原市場・名栗方面鉄道敷設計画関係資料について	4.10	一般
2	4.21	春の七草が摘めるところはあるか	4.22	一般
3	7.3	第二次大戦中の飯能の様子について	7.6	中学生
4	7.4	歌碑・石碑について調べたい	7.4	中学生
5	7.4	飯能の織物について	7.17	中学生
6	7.18	石器について	7.18	中学生
7	7.20	総合的学習の時間のための地域支援と博物館の役割	7.20	教師
8	7.27	宮沢湖の開発に主な役割を果たした人物	7.27	教師
9	8.8	千葉歳胤について	8.11	
10	8.13	学校の古い資料（市史教育編に掲載のものなど）を見たい	8.29	一般
11	8.19	江戸時代以降の米の生産量の変遷について	8.19	中学生
12	8.26	体育協会成立以前の体育関係資料について	8.29	一般
13	9.2	西川林業と飯能の町並みの移り変わりについて	9.2	大学生
14	9.26	中山家関係文書の解読	H13.1.25	一般
15	10.15	飯能における岡部氏の足跡について	1.12	一般
16	10.17	最近行った筏流しの実演について	10.23	一般
17	10.22	民権結社「資友会」について	10.22	教師
18	11.3	明治初期の医師試験の受験者名簿あるいは医専の卒業生名簿について	11.3	一般
19	11.12	飯能で大正から戦前に出荷されていた蘭について		
20	11.25	小川香魚の子孫の方について	11.30	一般
21	1.9	飯能になぜ東郷平八郎の銅像があるのか知りたい	1.9	中学生
22	1.18	山川揚庵関係文書について	1.23	一般
23	2.5	灯籠絵が使われる祭り時と小槻正信について	7.8	大学院生
24	2.18	天覧山（明治天皇の行幸）について	2.18	一般
25	3.3	飯能市の稲作と稲の品種、山伏修験の歴史について		一般

平成12年度

No.	照会日	件名	回答日	照会者
1	6.14	加治村の養蚕のデータ	6.14	一般
2	7.8	地口行灯を描いている人を紹介して欲しい	7.11	一般
3	7.14	本多静六博士の天覧山遊覧地計画の図面を見たい	7.16	一般
4	7.18	川寺の酒造、宮原屋について		博物館
5	9.12	飯能の絵馬を描いた絵師について	9.12	一般
6	9.21	中山四郎重政、五郎為重について	10.11	県職員
7	10.8	於雅留如来と永田のおまん岩、無量寺の弁財天について	10.8	大学院生
8	11.14	南川の杉の巨樹4本がある社寺について	11.14	一般
9	11.21	金窪城（児玉町）を築いた加治家治について	11.21	一般
10	11.21	飯能遊覧地設計と本多静六博士に関する資料について	2.27	一般
11	1.19	宮沢湖に関する資料について	1.23	一般
12	2.6	虚空蔵菩薩を祀ってある寺について	2.10	一般
13	3.25	中山直道（黒田直邦の弟）の妻（鈴子）の墓について	3.28	一般

平成13年度

No.	照会日	件名	回答日	照会者
1	4.5	明治12年8月の段階で「我野村」という呼称があったかどうか	4.5	
2	4.28	双柳浅間塚について/青木村・青木氏について	5.25	一般
3	5.17	渋沢栄一に関する資料（飯能戦争・一橋領知関係）について		博物館
4	9.	河原町の山車の購入に関する資料について	10.18	一般
5	10.25	絵師「龍門」について	12.28	一般

② なぜなにポスト

これは、展示を見て疑問に思ったこと、館に対する意見、その他歴史全般に関する質問などを記入してもらうもので、郷土館では館と来館者をつなぐパイプの役割を果たすものとして位置づけている。質問に関してはできるだけ回答を郵送することになっている。

なぜなにポストの利用状況

	利用者	質問数	意見・感想	回答数	回答率
平成11年度	43	12	31	5	41.7%
平成12年度	41	19	22	1	5.3%
平成13年度	53	31	22	0	0.0%



## 寄 贈 資 料

飯能市郷土館は、「もの」資料やそれに関する情報を通して市民が歴史や郷土のことについて学習するための社会教育機関である。そのためには、「もの」資料を収集し保存することが不可欠であるが、その多くは市民からの寄贈によって成り立っている。また、寄贈いただいた資料は市民の財産として永遠に保存すべく、台帳に登録し、整理し、収蔵庫にて管理されていくことになる。

(敬称略)

平成11年度

番号	資料名	点数	寄贈者名
1	文書作成装置OASYS・レコード「赤穂浪士」など	12	新井 一 太
2	『小学読本』・『高等小学新體算術』など	4	野 口 は る
3	写真「衛生組合」・棟方志功筆短冊・樋田五峯画色紙など	18	小 川 滋 子
4	富山芳男画「裸婦」・「存在についての習作」など	88	富 山 芳 男
5	黒田幹太郎画「半透明の彩韻」・「ロマン空間」など	31	黒 田 幹 太 郎
6	『安井賞展40年史』	1	小 島 喜 八 郎
7	写真「虎秀の集落」・青い目の人形歓迎記念絵葉書など	9	中 村 き ち
8	代用ローソク	1	野 口 佐 一
9	『日本万国博覧会公式ガイドマップ』	1	須 田 秀 穂
10	台紙付写真「埼玉縣下野球大会優勝記念」など	13	双 木 久 夫
11	旧中藤小学校学年表示札・生徒用椅子など	18	(有) 山 石
12	台紙付写真「葬列」・「飯能町善光寺講記念」など	3	小 川 茂
13	飯能市庁舎完成記念パンフレット	10	市 庶 務 課
14	戦時関係史料「徴兵検査の心得概要」・雑のう・靴・飯盒など	9	島 田 重 利
15	酒造関係古文書(井上太平家)	150	大 塚 清 人
16	墨絵「白梅小禽図」(軸装)	1	中央公民館長
17	東雲亭の御手富貴(付のし紙)	1	大 野 哲 夫
18	写真「高松宮とともに多数記念」	1	小 能 こ う
19	台紙付写真「飯能座」・古写真パネルなど	237	市立図書館長
20	『我等が青春の追憶 総集編』	1	駒 井 薫
21	『飯能市ソフトボール協会10周年記念誌』など	2	古 関 功
22	御手富貴(「毘沙門天」・「虚空蔵尊」など)	63	権 頭 宏
23	消防組の半纏・腹掛	2	橋 本 博 光
24	入間川小岩井堰付近の白い泡発生記録写真アルバム	20	石 井 英 子
25	写真「交通安全デー記念」・「飯能駅前」など	6	浅 見 徳 男
26	『埼玉縣営業便覧』	1	大久保 匡 三
27	飯能町市街地略図・打木村沿革色紙など	9	中央公民館長
28	郵便貯金証明書・薬莖・弾丸・千人針・漆用刷毛など	9	大久保 匡 三
29	「昭和50年度中央公民館市民愛蔵品展」綴りなど	31	中央公民館長
30	慰問袋・計算尺・脚半・ひざあて	4	中 村 源 一
31	『日本児童文学館第二集』など	20	石 井 英 子
32	大日本早引細見絵図・関東大震災写真ハガキ	30	築 地 は ま
33	トンビ・国民服(儀礼章付)・旅行鞆(大・小)	4	中 村 源 一
34	『新生日本外交百年史』など	3	丸 山 清
35	消しつぼ・8mm映写機・レコードケース等	31	小久保 守 秩
36	平成11年8月14日大雨被害(坂石町分・平戸)写真	4	豊 泉 幸 男
37	埼玉国体役員用ブレザー・写真「正装の役員・選手」など	17	佐 野 秀 三 郎
38	市民体育祭優勝旗・男子優勝杯	2	吾 野 公 民 館 長
39	手作りCD・カセット「狭山茶」宣伝の私の夢のイベント額	3	安 江 正 彦
40	おふるおもちゃ(埼玉国体おみやげ)など	7	中 里 漢 子
41	「観測教育参考」	1	中 村 源 一
42	旧平岡レース事務所建築関係書類及び図面一式	1	市 財 政 課 長

番号	資料名	点数	寄贈者名
43	『実業団駅伝全史』	1	須田 忠 男
44	ビデオ「狭山の茶茶茶のアルバム平成11年度」	1	安江 正彦
45	計算機・コンパクトカメラ	2	新井 一太
46	旧精明村歴代村長助役名簿	1	島田 欽一
47	玩具	5箱	根岸 美佐子
48	八丁撚糸機・自在鉤・婚礼時交盃道具1組	3	青木 広治
49	ビデオ「飯能地方のうちおり」	2	飯能の織物研究会 石井英子
50	ふいご・箱枕・めんば・煉炭コンロ・石板・集金箱	8	岡部 頌治
51	前晩鋸・スミ切り鎌・糸車・桑切り包丁・拍子木・鉄砲	9	森田 晶治
52	古文書・典籍	119	清水 茂
53	「飯能名所」写真ハガキ	8	石森 雅之
54	振武軍建碑記念絵はがき	1	金島 正治
55	絵図(「諸繪図面箱」入)	1箱	双木 利夫

## 平成12年度

番号	資料名	点数	寄贈者名
1	『飯能町上水道竣工記念帖』・「祝賀式引越」綴など	3	市 庶務課長
2	平松出土瓦塔(屋蓋部破片)	1	師岡 貞雄
3	『富山芳男画集』	1	長島 友子
4	飯能ホッケークラブユニフォームなど	3	杉田 公一
5	現代民謡「子の山山唄」テープ	1	石井 英子
6	防毒面・印禅天・『続日本外史』・マッチ箱・ランプなど	561	小川 久雄
7	中里吉平氏の山の道具を描いたパネル	15	西川木楽会 木村克己
8	『画業60年記念富山芳男展』・『富山芳男回顧展』など	6	扇山堂美術(株) 塚本富雄
9	ビデオ「クボタ民謡お国めぐり」	1	秋田テレビ 大友 直
10	水原秋桜子筆の俳句短冊	1	島田 欽一
11	『満蒙と満鉄』	1	萩野 和雄
12	『民間に生きる宗教者』	1	保坂 裕興
13	『別冊歴史読本 '89春特別増刊 時代小説特集号』	1	浅見 隆
14	『蔵原伸二郎と飯能』	1	「蔵原伸二郎と飯能」刊行委員会
15	『新電元工業⑩創立50周年記念社誌』	1	新電元工業(株)
16	『河川博物館 構想から運営まで』など	2	市立子ども図書館長
17	『埼玉国体の記録1967』	1	新井 一太
18	飯能市内名所めぐりすごろくなど	2	三枝 愛彦
19	飯能焼草花文行平蓋・飯能焼蔓草文徳利など	4	飯能第一小学校 校長
20	『⑩白山製作所50年史』	1	(株)白山製作所飯能事業所
21	ビデオ「記録シリーズ第4集 街の出来事その1」など	2	小林 聰
22	台紙付写真「八高線高架橋工事」など	3	(株)新工務店 新和雄
23	白・杵・のし板・唐箕・万石どおしなど	7	渡辺 幸子
24	『飯能戦誌』・天覧山、トノス山廻遊記念絵葉書など	3	田中 勝久
25	『「モリ」地名と金属伝承』	1	旧名栗川金属文化の会
26	小島喜八郎画「駅への道」・「T字路にある製材所」	2	小島 喜八郎
27	『現代裁縫教科書』	1	奥津 清
28	路線別道路図・道路台帳附図など	21	市 道路課長
29	歌集『幻華』	1	若林 利代
30	「免状授與式ノ祝詞」・「飯能高等学校始業祝辞」など	4	岡野 清
31	下名栗諏訪神社獅子舞ビデオ	4	下名栗獅子舞保存会会長
32	引札(紺竹など)・ナショナル電気洗濯機ちらしなど	10	岡野 清
33	飯能町市街図	1	川村 太一郎
34	入間市全図・日高市都市計画図など	18	丸山 清
35	旧日本軍軍刀拵・『現代のエスプリ 民具』	2	亀井 長五郎
36	飯能町島田屋本店「ハイキング栗羊羹」箱など	6	川村 太一郎
37	『遥かなる日々』	1	飯能初雁ゲートル会会長

番号	資料名	点数	寄贈者名
38	高麗鶴堂画「許由巢父図」(屏風)	1	比留間 康 夫
39	手作り絵本『うちおり』	1	杵 沢 温 子
40	「葬列書上」	1	堀 越 喜代子
41	レコード「飯能物語」・カセット「小沢千月民謡集(一)」など	5	石 井 英 子
42	版画「草と干支シリーズ・12色 1990~2000」	1	小 島 喜八郎
43	老人ホーム建設関係資料・覧山荘の浴衣など	10	市老人ホーム
44	飯能光機製ガラスレンズなど	42	金 窪 英 一
45	足袋製作の道具セット・足袋形看板・「注文帳」など	6	長谷部 米 子
46	古文書・台紙付写真「宮本町仮装行列記念」・挟箱など	31	田 中 順 三
47	入間第二用水土地改良区概要パンフレット	1	福 田 喜 重
48	「飯能郷土史かるた」絵札原画	1	三 枝 愛 彦
49	『美術年鑑』	1	黒 田 幹太郎
50	『石仏を歩く』・『棚倉のお殿さま』	2	市立図書館長
51	フリマンガ(2人用)	1	佐 島 和 男
52	『和田亀之助写真帳』	1	川越高校創立百周年記念事業実行委員会
53	地檜立茂中横硝子入腰樺作里出し紙貼障子	2	小 山 敏 子
54	手拭(飯能市安藤自転車店・市制5周年記念など)	4	大 野 哲 夫
55	めんこ(大、小)・聖闘士星矢シール(束)	65	原 口 道 子
56	『入間市史 中世史料金石文編』など	6	丸 山 清
57	羽釜・飯能座の幕(大、小)	11	山 川 清 次
58	シャンペンボトル	1	黒 田 幹太郎
59	象印ジャー「幸」、象印電子ジャー「しあわせ」	2	戸 口 シ ズ
60	「CORN MILL」(雑穀を挽く機械)	1	浅 見 博 助
61	電気釜・フラフープ	2	新 井 しづ子
62	電気洗濯機	1	石 渡 四 郎
63	鉄瓶・炭火アイロン・真空管ラジオ・真空管	6	遠 藤 仁 平
64	手回し式洗濯機	1	大久保 義 男
65	電気コンロ	1	大 野 コ マ
66	ジャー・やかん	2	中 村 き ち
67	「機動戦士ガンダム」シール・「キャプテン翼」シールなど	9束	大日方 容 子
68	電気釜・電子炊飯ジャー・電気掃除機	4	落 合 裕 子
69	電気掃除機・野球盤・サッカーゲーム・ポリングゲーム	4	鴨 下 彦三郎
70	電気足温器	1	栗 原 輝 雄
71	白黒テレビ・ラジオ・テレホンスピーカー	3	小 室 ゆ き
72	白黒テレビ	1	青 田 典 雄
73	電気釜	1	大 野 公 子
74	電気アイロン	1	小 高 一 夫
75	レコード「しれとご旅情」・「Annie Laure」など	26	本 橋 安 夫
76	豆炭あんか	1	山 口 芳 子
77	児嶋邦三画「開業当時の東飯能駅舎」(水彩)	1	児 嶋 邦 三
78	『菅公記』	1	田 島 慎 司
79	『愛釣』	1	木 崎 勝 年
80	サッカーゲーム・LSIゲーム・人形など	5	梶 田 隆
81	スチームアイロン	1	中 島 勝次郎
82	電気アイロン	1	水 村 むつ子
83	カラーテレビ・真空管式ラジオ	4	浅 見 武 喜
84	電子計算機	1	小 南 和 子
85	電子レンジ・電子ジャー	2	弦 岡 利 光
86	ステレオ	1	桜 井 秀 雄
87	電子レンジ	1	藤 田 和 安
88	電気アイロン	1	嶋 崎 あ さ
89	電気アイロン	1	細 田 ま き
90	電気冷蔵庫・電気洗濯機・ジャー	3	宮 崎 秀 子
91	電子レンジ	1	中 島 信 次
92	カラーテレビ	1	浜 田 とみ江

番号	資料名	点数	寄贈者名
93	トランジスタラジオ	1	富元久美子
94	カラーテレビ・強制給排気式石油ストーブ	2	原利男
95	白黒テレビ	1	松浦恒夫
96	小泉千樫(アララギ派歌人)からの手紙	1	浅見瀧次郎
97	白黒テレビ・電子レンジ	2	本橋藤治
98	2ドア式冷蔵庫	1	市勤労青少年ホーム

平成13年度

番号	資料名	点数	寄贈者名
1	『ひまわり集』	1	黒田幹太郎
2	『油絵の基本』・『画集 奥武蔵』など	4	小島喜八郎
3	西川額	5	黒田幹太郎
4	上水道敷設関係写真アルバムなど	2	市水道業務課長
5	『刀剣鑑定読本』	1	白田修
6	絵はがき原画「飯能の緑と清流に憩う」など	3	黒田幹太郎
7	『飯能二丁目の山車』	2	二丁目町内会長 山岸博
8	池島利一画「白い建物」(油彩)	1	池島利一
9	『名栗川』(合本)	1	山口晋平
10	『飯能二丁目の山車』	1	通貳親和会長 平沼尚
11	『悪惚 一武州一揆頭領伝聞一』	1	春日美津子
12	提灯	3	木下勝太郎
13	高下駄・髪結い道具・舞扇・根付・国防貯金通帳など	138	新井洋子
14	オルガン	1	新井孝次
15	写真「零戦」	1	福田原久
16	新井屋呉服店名入ハンカチ	3	新井明子
17	羽織・道行コート・長襦袢・絹綿交織の長着など	16	山川トキ
18	レコード「あゝ振武軍」・「飯能祭囃子」など	10	神崎経
19	市制宣言	1	市秘書課
20	写真「岩根橋」	1	久下祐弘
21	「多峯主山からの奥武蔵スケッチ」・地口絵など	6	小島良男
22	酒造関係古文書(井上太平家)	35	山中雅文
23	『鉄道からお客様へ』	1	弦間利光
24	刀(無銘)	1	島崎はる子
25	急須	1	新井安雄
26	典籍	84	新井秀穂
27	カセットテープ「名栗音頭/西川音頭」など	2	石井英子
28	飯能町島田屋本店「仁王もち」・「椎茸羊羹」などのラベル	9	西沢義三郎
29	人形・前掛・『飯能銀行創業二十年史』	3	内沼源三
30	トマス(斗枿)	1	田島豊
31	古文書(荻野吟子書簡)・古写真・屏風(権田直助筆)など	31	田中勝久
32	太織の反物	1	北村良
33	かき氷製造機	1	丸山清
34	覧山荘パンフレット	1	市立図書館
35	芋切り機	1	村木貞夫
36	御手富貴(三丁目鈴木商店・二丁目九十九里魚店など)	15	大野哲夫
37	夜具戸棚(ながもち)	1	島崎允子
38	『天覧山・多峯主山自然環境報告書』	3	遠藤夏緒
39	飯能市域の航空写真(昭和61年12月/62年1月撮影)	165	市立図書館
40	古文書	1箱	小山健仁
41	『河原町山車文化財指定祝賀会』	3	三丁目自治会長 森田弘
42	桜カーニバル・奥武蔵駅伝・納涼大会などの写真	1箱	市商工観光課長
43	写真広報「飯能市メガホン」・「広報はんのう」(写真パネル)	101	精明公民館長
44	算盤・典籍・ぼっくり・羽子板	28	内沼源三

## (1) 整理

当館には、市民からの寄贈や購入によって収集された飯能市の歴史や文化、風土に関する様々な資料や情報が集積されている。これらを管理し、必要なものを早局的確に抽出できるようにするため、「整理」作業を行っている。整理作業の進展の度合いは地域情報が集積している博物館の実力を示しているともいえる。

### I 「モノ」資料の整理

博物館にある資料（「モノ」）に関する情報は、資料そのものから得られるもの（サイズ・形態・材質など）とそれに付随する記録類（伝来の経緯、関係資料など）によって成り立っている。当館では、民具、古文書、写真、工芸品、絵画、考古資料などを収蔵しているが、特に民具、古文書、写真といった歴史資料については、それを伝来してきた家、寺院などの単位や地域を重視する立場から、その単位ごとにどのような種類の資料を何点収蔵しているかが把握できるように、資料寄贈者解題カード、古文書所蔵者解題カードを作成している。

#### ① 民具

民具とは、一般的にいうと人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具であるが、当館の場合、古文書・典籍、写真資料、絵画、工芸に含まれない資料のすべてがこの範疇で整理されている。搬入されるとまず受け入れ台帳に登録され、その登録番号が資料番号となる。そして、民具そのものがもつ大きさや材質といった情報やそれに付随する、製作したときの状況や使用した時期、使い方などの情報が民具カードに記録される。

#### ② 古文書・典籍（文献資料）

紙に文字が書かれている資料がこれに該当する。これらのほとんどは昭和49（1974）年から昭和62（1987）年まで行われた飯能市史編さん事業の過程で収集されたものである。そして、平成7年2月より、中性紙封筒・保存箱への詰め替え作業を始めると同時に、再整理作業を開始した。すなわち、群としての史料を重視する考えから、従来の内容の分類項目ごとの配架を改め、所蔵者別に通し番号を付けて1点1点カードを取り、所蔵者ごとの収蔵に切り換えている。また、その内容を確認したのち、コンピュータに入力することも徐々に行っている。



写真資料の整理風景（複写作業）

#### ③ 古写真

当館で収蔵している写真資料は、個人所蔵の写真を複写させていただいたものと館で所蔵しているものの2種類に分けることができるが、いずれも所蔵者（旧蔵者）を単位に整理を行い、写真資料カードに、所蔵者などから聞き取りを行って得た資料情報を記録している。なお、このうち明治・大正期の写真を中心とした写真資料目録を平成14年度末に刊行予定である。

#### ④ 絵画

軸装や額、屏風などに仕立てられた日本画に加え、油彩、デッサンといった近代絵画も含まれている。これらについてもカード化し、整理を行っている。

#### ⑤ 工芸

工芸資料には、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションや落合寿親の手による香合、接収刀剣類を含む日本刀などがある。

#### ⑥ 考古資料

当館にある考古資料は、市民から寄贈を受けた

飯能焼原窯表採資料や板碑などである。教育委員会生涯学習課文化財係によって報告書作成が終了し移管されていた考古資料は、平成11年7月にできた山手分室の生涯学習課収蔵庫へ移した。

### ⑦ その他の資料

このほか埼玉県や近隣市町村の博物館、市の機関などから発行された図録、報告書、要覧などの図書類がある。これらについては発行機関別に受け入れ台帳を作成している（寄贈機関名はP94参照）。また、飯能に関係するビデオソフトや記録映像として価値のあるもの、さらにはレコードやテープといった音声資料も収蔵している。これらの資料についても台帳が作成され、利用ができるように

なっている。

## Ⅱ 「コト」資料の整理

特定のテーマや地域の様子に関して聞き取りをした成果や関連する資料など「モノ」に付随しない地域情報も蓄積されつつあるが、今のところ、近世の村（大字）単位で封筒を用意し、学芸員各々が適当な書式でまとめたものをそれに入れていくようにしている。ただ、この場合、地域を横断して関連する情報を抽出することには不向きであるが、それを補うことができるのが専門知識を有した学芸員ということができよう。

### カード作成もしくは目録掲載済み資料点数一覧

民具	古文書	古写真	絵画	工芸	考古	映像	図書	その他
3,960	22,186	3,168	298	256	1,514	174	10,899	103

※「その他」は、古美術、文学、レコード、テープを集計

## (2) 修復・保存

### I 修復

#### ① 接收刀剣類（通称「赤羽刀」）

終戦後、連合軍占領軍によって接收された刀剣類の内、廃棄を免れたものが北区赤羽の米第八軍兵器補給廠に集められていた。この中から選別され東京国立博物館に保管されていた5,500本あまりの日本刀のことを接收刀剣類といい、その経緯

から通称「赤羽刀」と呼ばれている。このうち旧所有者の判明したものと国が保管するものを除いた刀が全国の公立博物館等は無償譲与されることになり、当館でも申請を行った結果、平成11年12月14日に10振の譲与を受けた。

譲与された刀はすべて錆身だったので、それを保存し活用するために平成12年度より研磨を行っており、現在下の表の刀が研ぎ上がっている。

#### 研磨終了接收刀剣一覧

No.	年度	種別	刃長(cm)	反り(cm)	銘
1	12	短刀 (No.8067)	27.4	0.3	関住兼 □ □
2	12	脇指 (No.2949)	51.8	0.9	(菊紋) 出羽守法橋源光平
3	12	脇指 (No.946)	51.5	0.8	井上和泉守国貞 / (菊紋) 寛文二年二月日
4	13	脇指 (No.1012)	45.8	1.4	河内守藤原国助
5	13	刀 (No.628)	71.8	1.6	兼景

## ②下川崎村絵図（明治4年）

この絵図は平成10年度に購入したものであるが、本紙の下4分の1ほどのところに水で濡れたと思われる場所がある。その中でも特に「山色」を表す薄緑色に着色された部分が、酸性化してパリパリになっており、亀裂、欠損が生じていた。そこで、平成12年度に以下のような修復保存作業を東京修復保存センターに委託して行った。

### （1）劣化原因の分析

#### a PHの測定

酸化の原因として礬水の影響が推測されたので、最初にPHを測定したところ、4.25であった。礬水は膠水と明礬の混合液で、和紙に使われる滲み止めである。

#### b 絵の具の非破壊分析

薄緑色の部分に対し三次元蛍光スペクトル分析を行ったところ、銅と鉛を検出した。この結果と作成年代や色味から顔料は緑青の緑と鉛白を混ぜたものであることがわかった。いわゆる緑青焼けは銅イオンを触媒とするセルロースの酸化であり、水分の存在によって加速することが指摘されている。

### （2）クリーニング

水を極力使用しない形で汚れを落とし、破片を元に戻した。

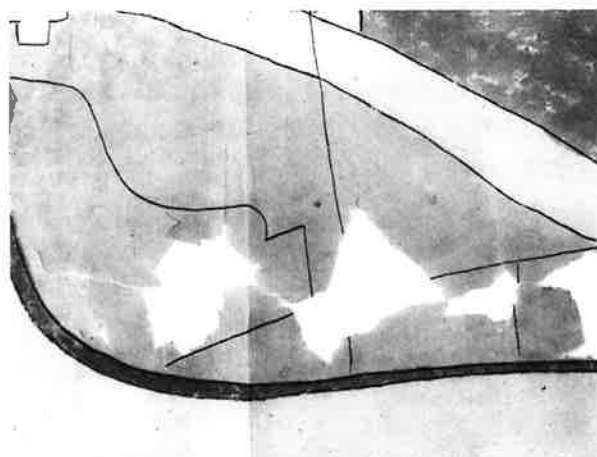
### （3）脱酸

非水性脱酸を行った結果、PH値は8.06となった。

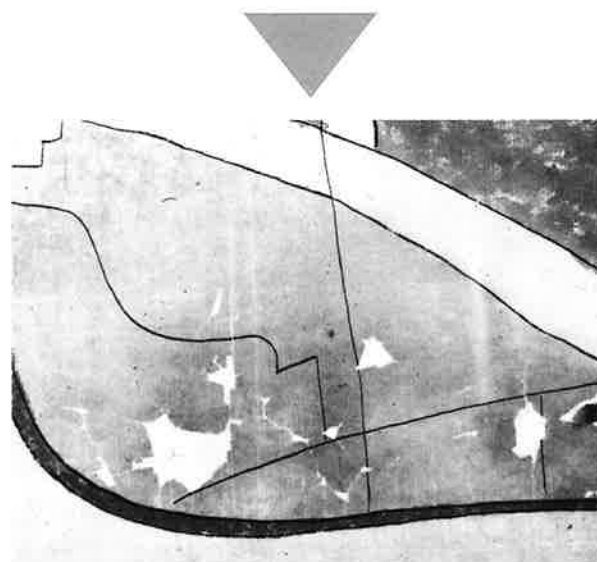
### （4）仕上げ

厚さ0.1mmのポリエステルフィルムを超音波シーリングを使ってエンキャプレーション（密封化）

を行った。その後、ミュージアムボードでそれを挟み込み、マット装にして展示も可能な状態にした。



下川崎村絵図の修復前（部分）



修復後（部分）

## Ⅱ 保存

### ① 古文書の中性紙封筒・保存箱への詰め替え

当館の特別収蔵庫には20,000点を越える古文書・典籍類があるが、あるものは茶封筒に入った状態で、あるものはそのまま配架されている。茶封筒は弱酸性であり、いずれ史料にも酸性化による劣化を引き起こす危険性がある。また、直接配架すると史料に折れが起きたり、空気中を浮遊している菌や害虫にもさらされることになる。

そこで、史料を1点ずつ中性紙封筒に入れると同時に、それを更に「地域史料保存箱（埼史協で

一括購入）」の中に入れていく。また、この作業と同時に内容分類別に分けられている状態から、史料群ごとの収納に変更する作業も行っている。

### ② 燻蒸

燻蒸はこれまで常設展示室・収蔵庫を対象にそれぞれの空間で3年に1度行ってきたが、薬剤である臭化メチルがオゾン層破壊物質の一つとして認定されたことから、先進国では2005年に全廃を図ることになっている。当館でも地球環境に配慮するため平成11年度から燻蒸は実施していない。代替措置を現在検討中である。

## ●古文書所在確認調査

### 1. 調査の経緯と目的

埼玉県立文書館では、平成11年度より県域史料の所在・保存情報の確認調査を充実させるために、新たな形で文書調査員制度を発足させた。このうち、郡単位に委嘱された11名の地区調査員は、埼玉県教育委員会が昭和52年に行った古文書所在確認調査で把握した史料群を再度確認することを手始めに、担当する地域の史料の所在情報をまとめることが求められた。当館学芸員尾崎泰弘は、平成11・12年度の2ヶ年にわたって、入間西部地区の地区調査員に委嘱されたため、『埼玉県古文書所在確認調査目録』（昭和53年2月20日発行）に掲載されている飯能市内の史料の所在確認調査を平成11・12の2年度にわたって実施した。目的は、旧家で所蔵されている古文書や典籍などの史料の量、保存状況などを確認し、写真で記録することである。

さらに、『飯能市史』の編さんが終了して10年



蔵の梁の上に積まれた古文書

以上が経過し、編さん初期に調査したものの場合、既に25年近い歳月が流れている。この間、代替わりや家の立て替えなどにより、これらの史料の保存状況も変化し、場合によっては散逸してしまう可能性が出てきた。そこで、平成13年度よりこれらの史料群を対象とした所在確認調査を行い、合わせて史料を保存するための封筒や箱、防虫剤などを提供している。平成11年～13年度にかけて調査を実施した史料所蔵家は以下の表のとおりである。

No.	調査日	旧村名	文書名	市	県	蔵
1	2000.2.14	真能寺村	監原寧家文書		○	
2	2000.2.14	南川村	吉田誠家文書	○	○	
3	2000.2.15	赤沢村	浅見逸三家文書	○	○	○
4	2000.2.15	小瀬戸村	須田省一郎家文書	○	○	○
5	2000.2.15	真能寺村	双木利夫家文書	○	○	△
6	2000.2.16	虎秀村	浅見一夫家文書	○	○	
7	2000.2.18	上直竹村下分	武本雄爾家文書		○	
8	2000.2.19	上直竹村下分	清水英男家文書		○	
9	2000.2.20	刈生村	吉田常之助家文書	○	○	□
10	2000.2.22	白子村	中村武雄家文書	○	○	□
11	2000.2.22	下赤工村	山川喜一家文書	○	○	
12	2000.2.24	平戸村	須田靖爾家文書		○	
13	2000.2.24	白子村	長念寺文書	○	○	
14	2000.2.26	北川村	大野定雄家文書	○	○	
15	2000.2.28	上畑村	宮倉正男家文書		○	
16	2000.3.3	上井上村	井上峰次家文書	○	○	
17	2000.3.5	上直竹村上分	清水義三家文書		○	○
18	2000.3.5	(中山村)	横川竹造家文書		○	
19	2000.3.14	長沢村	栗原信一家文書		○	
20	2000.3.22	久須美村	大江賢太郎家文書	○	○	
21	2000.9.5	長沢村	栗原保家文書	○	○	
22	2000.9.6	北川村	金子茂家文書		○	
23	2000.9.8	永田村	細田権太郎家文書	○	○	
24	2000.9.15	赤沢村	久林一光家文書	○	○	
25	2001.2.27	双柳村	利根川佐一家文書		○	
26	2001.12.12	久下分村	田中鎮次家文書	○		○
27	2002.2.24	久下分村	小山次郎家文書	○		
28	2002.2.27	下畑村	小島清助家文書	○		
29	2002.2.27	小岩井村	石森秀雄家文書	○		
30	2002.3.3	上赤工村	石井トウ家文書	○		
31	2002.3.8	高山村	岩田英一家文書		○	

「市」=市史編さん時に調査したもの 「県」=埼玉県教育委員会「古文書所在確認調査目録」掲載  
「蔵」=当館収蔵史料 △=一部所蔵 □=寄託



## ●「伝宮寺与七郎当世具足」調査

### 1. 趣 旨

当館の常設展示室には「伝宮寺与七郎当世具足」が展示されている。この当世具足は、宮寺氏の子孫の家に伝来しているもので、『新編武蔵風土記稿』高麗郡久須美村の旧家の項にも記載がある。『新編武蔵風土記稿』の高麗郡の地誌調査は文政3(1820)年6月4日から同4年4月23日まで行われているので、少なくともそれ以前から宮寺家に伝来していたことは明かである。

この具足は「具足様」と呼ばれ、宮寺与七郎が着用したと伝えられているものの、確かな記録がないため、その様式からこの具足がどの時代まで遡るものであるかを調査し、解明しようとするものである。

### 2. 調査者

齋藤慎一氏(青梅市文化財保護審議会委員)

### 3. 調査日

平成13年6月30日(土)・7月9日(月)・

平成14年2月8日(金)

### 4. 成 果

六十二間筋兜は、朱塗が胴よりも古色を帯び、ひきしまった異形で、付卸眉庇も古様であり、与七郎の年代に近い可能性があるものの、緋威二枚胴具足の方は当世具足として完成された形式で、18世紀初頭までは遡り得ないことが判明した。

しかし、この具足が宮寺与七郎関係文書とともに伝来していることを考えると、非常に貴重な資料であるといえる。

※なお、この調査報告は当館『研究紀要』第2号(平成14年3月31日発行)に掲載されている。



伝宮寺与七郎当世具足



調査風景

## ●飯能焼に関する調査

飯能焼は、「飯能」と名の付く数少ない文化財の一つであるため、当館では飯能焼に関する資料・情報を収集している。飯能焼の伝世資料については「飯能焼伝世資料カード」・「飯能焼消費地伝世

資料カード」・「飯能焼所蔵者カード」、消費地における出土事例については「飯能焼出土遺跡カード」・「飯能焼消費地出土資料カード」などを作成し、情報の蓄積に努めている。

郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため飯能市郷土館協議会がおかれている(飯能市郷土館条例第10条)。協議会は市議会議員、学校教育の関係者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任期：平成10年7月1日～平成12年6月30日

## 【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	井上峰次	飯能郷土史研究会会長	
副会長	大野邦弘	飯能市郷土館友の会会長	
委員	高山国雄	市議会議員	
〃	早川康弘	飯能第一小学校校長	
〃	清原惟千	吾野中学校校長	平成12年3月30日退任
〃	富沢武男	吾野中学校校長	平成12年4月1日就任
〃	加藤義雄	文化財保護審議委員会委員	
〃	杉田多可雄	社会教育委員	平成11年6月30日退任
〃	浅見信	社会教育委員	平成11年7月1日就任
〃	坂口和子	日本石仏協会会長	
〃	滝 鍊太郎	彫刻家	
〃	桑山和子	日本ペンクラブ会員	

## 【開催状況】

### ●平成11年度

#### 第1回 平成11年7月9日(金) 午後2時～

(協議事項)

- ・春の特別展「収蔵品－美術品を中心にして－」結果報告
- ・夏休み親子歴史教室について
- ・秋の特別展「開館10周年記念 わたしの宝物展」について
- ・「飯能スポーツ史展」について

#### 第2回 平成11年9月29日(水) 午後2時～

(協議事項)

- ・秋の特別展「わたしの宝物展」について
- ・「飯能スポーツ史」展について

#### 第3回 平成11年11月25日(木) 午後2時～

(協議事項)

- ・「飯能スポーツ史」展について
- ・平成12年度事業計画(案)、予算について

#### 第4回 平成12年3月1日(水) 午後2時～

(協議事項)

- ・富山芳男寄贈作品展について
- ・「戦後のくらし」展について

任期：平成12年7月1日～平成14年6月30日

### 【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	大野 邦弘	飯能市郷土館友の会会長	
副会長	梶田 隆	前飯能高等学校校長	
委員	高山 国雄	市議会議員	平成13年5月30日退任
〃	嶋田 順一	市議会議員	平成13年6月1日就任
〃	早川 康弘	飯能第一小学校校長	平成13年3月31日退任
〃	小鹿野 輝芳	飯能第一小学校校長	平成13年4月1日就任
〃	富沢 武男	吾野中学校校長	
〃	坂口 和子	文化財保護審議委員会委員	
〃	浅見 信	社会教育委員	
〃	滝 鎌太郎	彫刻家	
〃	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	

### 【開催状況】

#### ●平成12年度

第1回 平成12年7月26日(水) 午後2時～  
(協議事項)

- ・会長、副会長の選任について
- ・平成11年度郷土館事業報告について
- ・平成12年度郷土館事業計画(案)について

第2回 平成12年11月7日(火) 午後2時～  
(協議事項)

- ・平成13年度事業計画と予算について
- ・諸事業報告
- ・平成14年度以降の特別展について

第3回 平成13年2月2日(金) 午後2時～  
(協議事項)

- ・協議会視察研修について
- ・平成13年度事業について
- ・収蔵品展、飯能焼展について

#### [視察研修]

平成13年2月27日(火)～28日(水)

(目的)

常設点内容、特別展企画、友の会活動内容についての研修

(視察先)

小山市立博物館 (栃木県小山市)  
栃木県立博物館 (栃木県宇都宮市)  
宇都宮市役所文化財研究展示室 (栃木県宇都宮市)  
二荒山神社・旧篠原家住宅  
清巖寺・大谷磨崖仏 (文化財見学)

#### ●平成13年度

第1回 平成13年7月31日(火) 午後2時～  
(協議事項)

- ・平成12年度郷土館事業報告について
- ・平成13年度郷土館事業計画(案)について

第2回 平成13年11月6日(火) 午後2時～  
(協議事項)

- ・平成14年度事業計画(案)について

第3回 平成14年3月26日(火) 午後2時～  
(協議事項)

- ・平成13年度事業報告について
- ・平成14年度事業(案)について



視察研修 (小山市立博物館)

# 博物館実習

当館では、市民サービスの一環として大学の学芸員養成課程の博物館実習を受け入れている。  
原則として、市民とみなされる世帯に属する子弟で博物館学の単位を修得した学生がその対象となる。

## 平成11年度

実施期間 平成11年8月1日(日)～14日(土)〔12日間〕

実習者名 宇山美穂子(武蔵大学)・鎌田愛・佐々木孝紀(以上駿河台大学)  
三瓶寛子(川村学園女子大学)・椎橋美奈(目白大学)

	実施日	曜日	午 前	午 後
1	8.1	日	オリエンテーション・当館の概要説明／尾崎	夏休み親子歴史教室準備／有馬
2	8.3	火	常設展示展示替え企画立案Ⅰ(目標・手順などの説明指導)／村上	
3	8.4	水	常設展示展示替え企画立案Ⅱ(作図・テーマ設定指導)／村上	
4	8.5	木	館長講話／宮前	夏休み親子歴史教室準備／有馬
5	8.6	金	夏休み親子歴史教室準備／有馬	
6	8.7	土	夏休み親子歴史教室運営／有馬	
7	8.8	日	常設展示展示替え企画立案Ⅲ(個別作業)／村上	
8	8.10	火	常設展示展示替え企画立案Ⅳ(中間指導)／村上	夏休み親子歴史教室反省会ほか／有馬
9	8.11	水	施設・常設展示について／尾崎	
10	8.12	木	地域史料の整理(古写真)／尾崎	
11	8.13	金	地域史料の調査(絵図)／尾崎	
12	8.14	土	常設展示展示替え企画立案Ⅴ(課題提出・講評)／村上	



平成11年度



平成13年度

平成12年度

実施期間 平成12年7月28日(金)～30日(日)・8月15日(火)～26日(土)〔13日間〕

実習者名 岡本沙都美(昭和音楽大学)・木村為成(東海大学)・佐藤久美(東京女子大学)・森岡郁(目白大学)

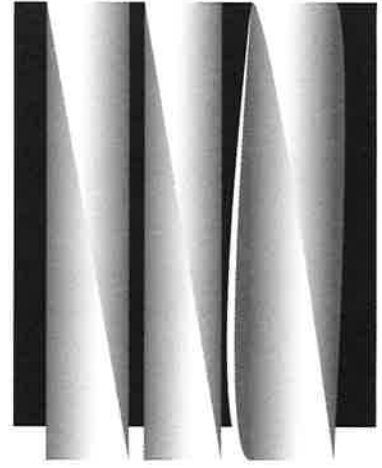
	実施日	曜日	午 前	午 後
1	7.28	金	オリエンテーション・当館の概要説明／宮前	埋蔵文化財出土品展準備／富元
2	7.29	土	埋蔵文化財出土品展準備／富元	
3	7.30	日	埋蔵文化財出土品展準備／富元	
4	8.15	火	夏休み親子歴史教室準備／尾崎・田嶋	
5	8.16	水	夏休み親子歴史教室準備／尾崎	
6	8.17	木	夏休み親子歴史教室準備／尾崎	
7	8.18	金	夏休み親子歴史教室運営／尾崎	夏休み親子歴史教室準備／田嶋
8	8.19	土	夏休み親子歴史教室運営／尾崎	
9	8.22	火	展示図録用写真の撮影／有馬	
10	8.23	水	展示図録用写真の撮影／有馬	
11	8.24	木	市民学芸員について／村上	展示配列案の作成／村上
12	8.25	金	展示配列案の作成／村上	
13	8.26	土	館長講話／宮前	実習のまとめ／尾崎

平成13年度

実施期間 平成13年8月14日(火)～25日(土)〔10日間〕

実習者名 熊谷敦志(立正大学)・古山智啓(東京国際大学)

	実施日	曜日	午 前	午 後
1	8.14	火	オリエンテーション・当館の概要説明／千住	夏休み親子歴史教室準備／有馬
2	8.15	水	夏休み親子歴史教室準備／有馬	
3	8.16	木	夏休み親子歴史教室準備／有馬	
4	8.17	金	夏休み親子歴史教室準備／有馬	
5	8.18	土	夏休み親子歴史教室運営／有馬・田嶋	
6	8.19	日	夏休み親子歴史教室運営／有馬・田嶋	
7	8.21	火	古代瓦の調査・整理／尾崎	
	8.22	水	(古文書の整理を予定していたが、台風のため中止)	
8	8.23	木	展示図録用写真の撮影／有馬	
9	8.24	金	展示図録用写真の撮影／有馬	
10	8.25	土	館内片づけ・梱包材の製作／有馬	実習のまとめ／有馬



## 第3章

…… Chapter 3 ……

# 【各種データ】



# 入館者数

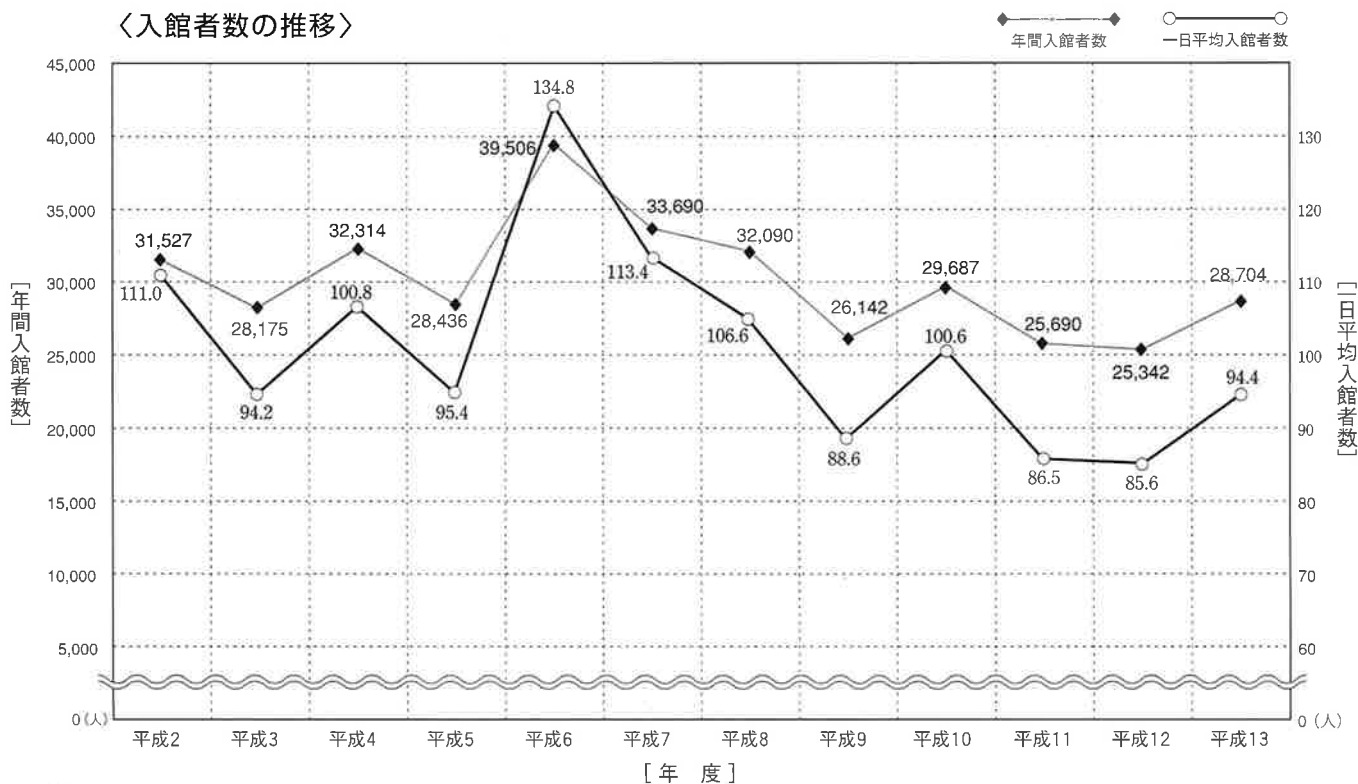
月	平成11年度			平成12年度			平成13年度		
	開館日数	合計人数	1日平均	開館日数	合計人数	1日平均	開館日数	合計人数	1日平均
4	23	2,805	122.0	26	2,643	101.7	26	2,803	107.8
5	26	2,209	85.0	26	2,206	84.8	26	3,190	122.7
6	26	1,509	58.0	26	2,037	78.3	26	2,036	78.3
7	26	1,632	62.8	26	1,980	76.2	26	1,794	69.0
8	24	1,965	81.9	27	2,635	97.6	27	2,486	92.1
9	22	2,166	98.5	21	1,678	79.9	26	2,200	84.6
10	25	2,520	100.8	25	2,296	91.8	26	2,546	97.9
11	23	2,732	118.8	23	2,557	111.2	25	3,398	135.9
12	22	1,521	69.1	22	1,539	70.0	23	1,535	66.7
1	23	1,823	79.3	23	2,210	96.1	23	2,411	104.8
2	24	2,703	112.6	24	1,833	76.4	24	1,939	80.8
3	27	2,105	78.0	27	1,728	64.0	26	2,366	91.0
合計	291	25,690	88.3	296	25,342	85.6	304	28,704	94.4

〈入館者数算出方法〉  
 カウンターを入口に設置し、その人数に団体の見学人数を加えて算出。

平成2年度から平成13年までの

総入館者数	361,303人
開館日数	3,556日
年平均入館者数	30,108.6人
1日平均入館者数	101.6人

〈入館者数の推移〉



# 歳出予算

費目等 年度	管理運営	教育普及	収集保存	資料整理	調査研究	合計(千円)	A(円)	B(円)	C(円)
11	14,655	4,225	3,077	1,987	675	24,619	0.10%	298.0	958.3
	60%	17%	12%	8%	3%				
12	12,975	5,640	5,269	1,964	1,142	26,990	0.11%	325.5	1,065.0
	48%	21%	20%	7%	4%				
13	12,936	7,293	2,108	1,957	1,012	25,306	0.10%	305.5	881.6
	51%	29%	8%	8%	4%				

(人件費は除く)

A：飯能市一般会計当初予算に対する比率

B：市民1人あたり（当該年度の4月1日現在の人口）の郷土館予算額

C：入館者1人あたりの郷土館予算額

## 〈費目の説明〉

**管理運営費**…事務用消耗品費・光熱水費・清掃委託料・庁用車の車検費用・施設の修繕費・郷土館協議会委員報酬などのいわゆるランニングコスト。

**教育普及費**…特別展・学習会・講演会などを開催するための費用。

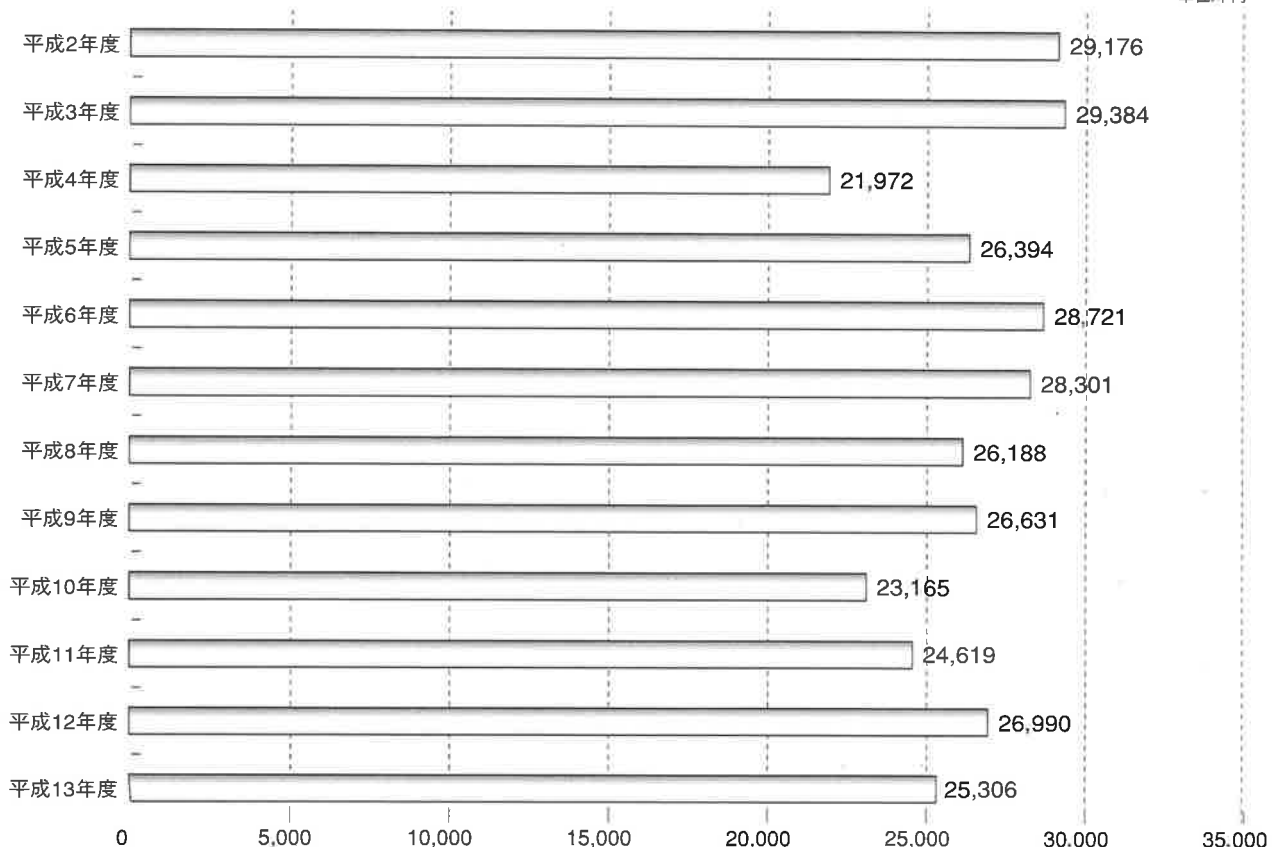
**収集保存費**…資料購入費・資料寄贈御礼・資料保存用消耗品・燻蒸委託料などの費用

**資料整理費**…資料整理賃金・資料整理用消耗品・写真代など

**調査研究費**…資料調査旅費・研修会参加費など

飯能市郷土館予算額の推移

単位:千円





# 図書資料寄贈機関（平成11年度～13年度）

## 埼玉県

上尾市教育委員会  
朝霞市教育委員会  
朝霞市博物館  
跡見学園女子大学花蹊記念資料館  
伊奈町教育委員会  
入間市遺跡調査会  
入間市教育委員会  
入間市博物館  
入間東部地区文化財保護連絡協議会  
岩槻市遺跡調査会  
岩槻市教育委員会  
岩槻市郷土資料館  
浦和市  
浦和市立郷土博物館  
大井町遺跡調査会  
大井町教育委員会  
大井町立郷土資料館  
大里村教育委員会  
大里町教育委員会  
大宮市  
大宮市旧坂東家住宅見沼くらしっく館  
大宮市立博物館  
大宮市立漫画会館  
岡部町教育委員会  
小鹿野町教育委員会  
小川町教育委員会  
桶川市教育委員会  
桶川市高井遺跡発掘調査会  
桶川市台原遺跡発掘調査会  
桶川市永久保Ⅰ遺跡発掘調査会  
桶川市歴史民俗資料館  
越生町教育委員会  
春日部市教育委員会  
春日部市郷土資料館  
神泉村教育委員会  
神川町教育委員会  
上里町教育委員会  
上福岡市教育委員会  
上福岡市地域いきいき伝統文化継承事業実行委員会  
上福岡市立歴史民俗資料館

川越市  
川越市教育委員会  
川越市立図書館  
川越市立博物館  
川里村教育委員会  
川島町  
騎西町教育委員会  
北川辺町史編さん委員会  
北本市教育委員会  
行田市教育委員会  
行田市郷土博物館  
くまがや古文書学習研究会  
熊谷市立図書館  
江南町  
江南町教育委員会  
鴻巣市  
国税庁税務大学校租税資料館  
児玉町  
さいたま川の博物館  
埼玉新聞社  
彩の国さいたま人づくり広域連合  
自治人材開発センター政策研究部  
埼玉県  
埼玉県教育委員会  
埼玉県教育公務員弘済会  
（財）埼玉県県民活動総合センター事業部  
生涯学習課  
（財）埼玉県公園緑地協会  
埼玉県茶業技術協会  
埼玉県西部地域まちづくり協議会  
埼玉県総合政策部土地政策課  
さいたま文学館  
埼玉県平和資料館  
（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
埼玉県立近代美術館  
埼玉県立さきたま資料館  
埼玉県立自然史博物館  
埼玉県立博物館  
埼玉県立埋蔵文化財センター  
埼玉県立民俗文化センター  
埼玉県立文書館  
埼玉県立歴史資料館

坂戸市遺跡発掘調査団  
坂戸市教育委員会  
幸手市史編さん室  
狭山古文書勉強会  
狭山市立博物館  
庄和町遺跡調査会  
庄和町教育委員会  
杉戸町  
駿河台大学資格課程  
草加市  
玉川村教育委員会  
秩父市遺跡調査会  
秩父美術館  
鶴ヶ島市遺跡調査会  
鶴ヶ島市教育委員会  
都幾川村  
所沢航空発祥記念館  
所沢市教育委員会  
長瀨町教育委員会  
名栗村教育委員会  
日本工業大学工業技術博物館  
日本工業大学工業技術博物館図録編集委員会  
蓮田市教育委員会  
鳩ヶ谷市立郷土資料館  
鳩山町教育委員会  
花園町遺跡調査会  
花園町教育委員会  
日高市教育委員会  
日高市高麗神社  
深谷市教育委員会  
富士見市教育委員会  
富士見市立考古館  
富士見市立難波田城資料館  
富士見市立水子貝塚資料館  
三郷市  
三郷市教育委員会  
美里町教育委員会  
宮代町教育委員会  
宮代町郷土資料館  
三芳町教育委員会  
三芳町立歴史民俗資料館  
毛呂山町教育委員会  
毛呂山町歴史民俗資料館  
八潮市教育委員会  
八潮市立資料館

横瀬町  
吉川市郷土史会  
寄居町教育委員会  
嵐山町教育委員会  
両神村教育委員会  
鷲宮町立郷土資料館  
蕨市立歴史民俗資料館

## 東京都

あきる野市松海道遺跡調査会  
荒川区教育委員会  
荒川区道灌山遺跡調査団  
荒川区立荒川ふるさと文化館  
(有)アルケーリサーチ  
板橋区赤塚八丁目10番遺跡調査会  
板橋区小豆沢東原遺跡調査団  
板橋区遺跡調査会  
板橋区板橋山之上遺跡調査会  
板橋区加賀一丁目遺跡調査会  
板橋区教育委員会  
板橋区小茂根小山遺跡第2地点調査会  
板橋区小茂根小山遺跡発掘調査団  
板橋区志村一丁目18番遺跡調査団  
板橋区志村坂上遺跡F地点調査会  
板橋区中台島中遺跡調査会  
板橋区成増天神脇遺跡調査会  
板橋区舟渡二丁目遺跡調査会  
板橋区前野田向遺跡発掘調査団  
板橋区立郷土資料館  
青梅市遺跡調査会  
青梅市教育委員会  
青梅市郷土資料室  
青梅市郷土博物館  
青梅市西東京農業協同組合  
大田区教育委員会  
大田区立郷土博物館  
学習院大学史料館  
葛飾区郷土と天文の博物館  
北区飛鳥山博物館  
北区東京都建設局放射第6号線遺跡調査団  
清瀬市郷土博物館  
くにたち郷土文化館  
国立科学博物館  
国立公文書館

渋沢史料館  
(株)ジャパン通信情報センター  
新宿区市谷本村町遺跡調査団  
新宿区落合遺跡調査団  
新宿区落合Ⅱ遺跡調査団  
新宿区上落合二丁目遺跡調査団  
新宿区河田町遺跡調査団  
新宿区喜久井町遺跡調査会  
新宿区滋賀県職員寮遺跡調査団  
新宿区信濃町遺跡調査会  
(財)新宿区生涯学習財団  
新宿区新司法書士会館遺跡調査会  
新宿区筑士八幡町遺跡調査団  
新宿区No.107遺跡調査団  
新宿区払方町遺跡調査団  
新宿区南山伏町遺跡調査団  
新宿区淀橋市場遺跡調査団  
新宿区若宮町遺跡調査団  
新宿歴史博物館  
(株)新日本建物  
杉並区立郷土博物館  
台東区文化財調査会  
立川氏館跡遺跡調査会  
立川市教育委員会  
立川市向郷遺跡調査会  
玉川文化財研究所  
多摩市  
調布市郷土博物館  
千代田区教育委員会  
東京国立博物館  
東京都江戸東京たてももの園  
東京都江戸東京博物館  
豊島区遺跡調査会  
豊島区教育委員会  
豊島区立郷土資料館  
八王子市教育委員会  
八王子市郷土資料館  
羽村市郷土博物館  
パルテノン多摩  
東大和市立郷土博物館  
日野市ふるさと博物館  
(株)フジタ  
府中市郷土の森博物館  
府中文化振興財団

福生市教育委員会  
文京ふるさと歴史館  
保谷市教育委員会  
町田市立自由民権資料館  
町田市立博物館  
加藤建設(株)埋蔵文化財調査部  
瑞穂町教育委員会  
瑞穂町松原遺跡調査会  
港区教育委員会  
港区立郷土資料館  
武蔵大学学芸員課程  
武蔵野市  
武蔵村山市  
武蔵村山市教育委員会  
武蔵村山市立歴史民俗資料館  
明治大学学芸員養成課程  
明治大学博物館事務室  
文部科学省  
(財)横山大観記念館

## その他

愛知県陶磁資料館  
(財)アイヌ文化振興研究推進機構  
赤穂市立歴史博物館  
東町立歴史民俗資料館  
厚木市教育委員会  
厚木市郷土資料館  
安城市歴史博物館  
出雲市教育委員会  
茨城県自然博物館  
茨城県立歴史館  
宇都宮市教育委員会  
大阪府立近つ飛鳥博物館  
小山市立博物館  
各務原市歴史民俗資料館  
香川県歴史博物館  
笠懸野岩宿文化資料館  
霞ヶ浦町郷土資料館  
かみつけの里博物館  
環境庁自然保護局生物多様性センター  
北橋村教育委員会  
君津郡市文化財センター  
君津市教育委員会  
久留里城跡資料館

群馬県立歴史博物館  
郡山市立美術館  
古河市  
国立歴史民俗博物館  
今田町教育委員会  
佐賀県教育委員会  
佐賀県立九州陶磁文化館  
相模原市立博物館  
篠山市教育委員会  
滋賀県琵琶湖博物館  
師勝町歴史民俗資料館  
信楽町教育委員会  
静岡県菊川町教育委員会  
下関市  
下関市立考古博物館  
(株)社会文化科学研究所  
新松戸郷土資料館  
セレネ美術館  
園田学園女子大学近江研究所  
高岡市万葉歴史館  
高岡市立博物館  
高萩市生涯学習推進本部・協議会  
高萩市文化協会  
高浜市やきものの里かわら美術館  
田原町教育委員会  
田原町博物館  
千葉県立文書館  
津山郷土博物館  
徳島市立徳島城博物館  
栃木県立博物館  
長野市教育委員会松代藩文化施設管理事務所  
長野原町  
長浜市教育委員会  
西那須野町郷土資料館  
(社)日本ユネスコ協会連盟  
野田市郷土博物館  
野馬追の里原町市立博物館  
萩市郷土博物館  
幕末と明治の博物館  
秦野市  
秦野市立桜土手古墳展示館  
兵庫県立歴史博物館  
平塚市博物館  
藤沢市教育委員会

藤沢市教育委員会生涯学習課博物館準備担当  
(財)北海道埋蔵文化財センター  
北海道立北方民族博物館  
松戸市立博物館  
水戸市立博物館  
みのかも文化の森美濃加茂市民ミュージアム  
壬生町立歴史民俗資料館  
ミュージアム氏家  
茂原市立美術館・郷土資料館  
窯業史博物館  
横浜開港資料館  
読売新聞大阪本社  
立命館大学国際平和ミュージアム

# 刊行図書・職員

## 刊行図書

### ○平成11年度

「収藏品展 ー美術品を中心としてー」展示図録	A4 24 ページ
「飯能スポーツ史」パンフレット	A4 16 ページ
飯能市郷土館館報「郷土館のプロフィール」第2号	A4 60 ページ

### ○平成12年度

「飯能、戦後の暮らし ー私たちを豊にしたモノー」展示図録	A4 60 ページ
飯能市郷土館研究紀要第1号	A4 40 ページ

### ○平成13年度

「黎明のとき ー飯能焼・原窯からの発信ー」 展示図録	A4 88 ページ
飯能市郷土館研究紀要第2号	A4 68 ページ



飯能市郷土館研究紀要第1号

## 飯能市郷土館職員一覧

### ◎平成11年度

館長	宮前幸雄
主任	鳥田祐子
学芸員	尾崎泰弘
〃	有馬雅彦
嘱託員	村上義彦
臨時(資料整理・特別展準備)	櫻井なを子
	河井昌子
	石田朋子
臨時(清掃)	井上茂樹

### ◎平成12年度

館長	宮前幸雄
学芸員	尾崎泰弘
〃	有馬雅彦
〃	田嶋佐奈恵
嘱託員	村上義彦
臨時(資料整理・特別展準備)	櫻井なを子
	石田朋子
臨時(清掃)	井上茂樹

### ◎平成13年度

館長	千住正行
学芸員	尾崎泰弘
〃	有馬雅彦
〃	田嶋佐奈恵
嘱託員	春日美津子
臨時(資料整理・特別展準備)	櫻井なを子
	石田朋子
臨時(清掃)	井上茂樹

# 飯能市郷土館条例

(平成元年12月27日条例第33号)

(設置)

第1条 郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料(以下「資料」という。)の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館(以下「郷土館」という)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(業務)

第2条 郷土館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- 二 資料の調査及び研究に関すること。
- 三 資料の展示及び利用に関すること。
- 四 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
- 五 その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(管理)

第3条 郷土館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 郷土館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 郷土館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- 二 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- 三 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第6条 郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号の一に該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。

- 一 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- 二 その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。

(使用料)

第8条 郷土館の使用料は、無料とする。

(損害賠償)

第9条 郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。

(郷土館協議会)

第10条 郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第11条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- 一 市議会議員
- 二 学校教育の関係者
- 三 社会教育の関係者
- 四 学識経験者

(委員の任期)

第12条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第14条 協議会は、会長が召集し、会議の議長となる。

- 2 協議会は、委員の二分の一以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第15条 協議会の庶務は、郷土館において処理する。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。

# 飯能市郷土館条例施行規則

(平成2年3月21日教委規則第5号)

改正平成4年11月30日教委規則第7号

改正平成10年3月23日教委規則第6号

改正平成13年5月1日教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市郷土館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(郷土館資料の利用及び許可)

第5条 郷土館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、利用の条件を変更し、又は利用の許可を取り消すことができる。

一 利用許可の申請に偽りがあったとき。

二 条件又はこの規則に違反したとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第7条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市郷土館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市郷土館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

(以下、様式は省略)

[印刷の仕様]

---

1 版	型：A 4 版
-----	---------

---

2 紙	質：(表紙) マットコート紙 菊判 111kg
	(口絵) マットコート紙 菊判 76.5kg
	(本文) クリームキンマリ 菊判 62.5kg

---

3 印刷方法	オフセット印刷
	4色刷り(表紙・口絵) 4ページ
	1色刷り(本文) 100ページ

---

4 印刷内容	カラー写真 16枚
	モノクロ写真 55枚

---

5 スクリーン線数	175線
-----------	------

---

6 製本	本：無線とじ
------	--------

---

※表紙絵：小島喜八郎氏





小さな発見 新たな出会い 大きな喜び

# 飯能市郷土館

埼玉県飯能市大字飯能258-1

TEL (0429)72-1414 FAX (0429)72-1431



緑と清流に映え、ひとの心がかよう都市

飯能市